

学校の今に寄り添い、先生方とともに未来を描く

[ビューネクスト] 高校版

VIEWnext

2021 June

6

特集

生徒が輝く 学校づくり

高校の 特色化・魅力化

新課程に向けて描く

「学校教育デザイン」

大分県立大分雄城台高校

発問・課題設定をキーに見る

主体的・対話的で深い学び 授業実践

英語

山梨県立青洲高校

飯室雄大

情報

愛知県立高蔵寺高校

田中健

Photo Session at Cover

神奈川県・
私立

サレジオ学院
中学校・高校





大切にしたい
「安田らしさ」って？

みんなにとって
幸せなルールとは？

未来を描く！ 創る！
イノベティブな
生徒たち

第1回

伝統を胸に、よりよい学校をつくるため、 生徒主体で校則を見直す

^{み ゆ}田中心結さん・高校3年生 (左) / ^{な つき}花本奈月さん・高校3年生 (右)

広島県・私立安田女子中学高校

広 島県・私立安田女子中学高校は、礼儀作法やマナー指導が行き届いた伝統校として知られ、在校生もそれを誇りとしてきた。しかし、時代の変化の中で、校則の見直しを検討する必要性を同校の教師も感じ始めていた。19年12月、同校は経済産業省「未来の教室」の実証事業で、認定NPO法人カタリバが企画した「ルールメイカー育成プロジェクト」のモデル校に選定された。教師や保護者と対話を重ね、校則を見直していくプロジェクトを通じて、生徒に問題発見・解決力が育まれることを期待し、プロジェクトへの参画を決めたのだ。

プロジェクトのメンバーに名乗りを上げたのは、中学1年生から高校2年生までの20人。プロジェクトリーダーの1人である田中心結さんの参加理由は、「みんなが幸せになる校則」をつくりたかったからだ。

「中学校で生徒会役員を務めた際、友人に『この校則はなぜ必要なの？』と聞かれても、理由をきちんと説明できず、悔しい思いをしたことがあります。校則に不満をぶつけるのではなく、各校則の存在意義を

先生がご存知の「イノベティブな生徒たち」をご推薦ください！

具体的なご推薦方法は、VIEWnext 公式LINEを通じて7月下旬にお伝えいたします。

※VIEWnext 公式LINEが未登録の方は、右の2次元コードを読み取っていただくか、

LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、友だち追加をお願いいたします。



教師たち



広島県・私立
安田女子中学高校
副校長
安田 馨かおる

事象の背景を考え抜き、 社会をつくる当事者になる

校則の見直しを通じて、生徒には社会をつくる当事者としての力を身につけてほしいと考え、今回のプロジェクトへの参画を決めました。活動の主体は生徒でしたが、話し合いの場には私もできるだけ同席するようにし、生徒の視野を広げることができました。生徒たちは素直だからこそ、1つの考え方にとらわれてしまうことがあります。そうした時は、「こんな意見を言っている人もいるよ」「こんな調査結果があるよ」と、見方や考え方を広げられるよう支援しました。校則の改定以上に生徒にとって価値があったのは、「大切にすべき安田らしさ」への気づきと、「行動指針」の策定という、校則の見直しから生まれた自発的な動きだったかもしれません。校則の見直しという事象の背景を考え抜き、関係する皆にとっての幸せを追求した結果、学校という社会の中での当事者になれたのです。

学校プロフィール

設立 1915（大正4）年
形態 全日制／普通科／女子校
生徒数 1学年約260人
2021年度入試合格実績（現浪計）
国公立大は、金沢大、鳥取大、広島大、山口大、高知大、県立広島大、広島市立大などに54人が合格。私立大は、津田塾大、明治大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大、神戸女子大、安田女子大などに延べ392人が合格。

考え、高校生活をよりよいものにする安田らしい校則をつくりたいと考えました」（田中さん）

メンバーは、生徒や教師、保護者の意見を集めるとともに、弁護士からルールのあり方を学んだり、警察関係者から非行や犯罪の現状を聞いたりすることで視野を広げながら、校則を見直す上で必要な知見を得た。集まった意見を基に検討対象の校則の優先順位づけを行った結果、「情報端末機器（スマートフォン）の持ち込み」「放課後の立ち寄り」（「カラオケ、ゲームセンターなど）保護者同伴でないと許可されていない場所への生徒だけの出入り」の3つの校則の見直しを進めることに

した。

メンバーだけで見直しを進めるのではなく、学校にかかわる様々な人の意見に耳を傾けることを意識したと、プロジェクトリーダーの1人である花本奈月さんは振り返る。

「廊下の壁に貼った模造紙に、3つの校則に対する意見を自由に書いてもらったり、シールを使ってあるテーマに対して賛成・反対を気軽に表明してもらったり、校内の声をより広く集める工夫をしました。また、生徒指導担当の先生に、校則が変わったらどうなると思うか、聞きに行きました。きっと先生は校則の見直しは不要だとおっしゃるのだろうと思っていましたが、実際に話

をしてみると、『生徒が自分を律して、スマートフォンを適切に活用できるようになった方がよい』と、予想外の言葉が返ってきて、驚きました」（花本さん）

20年12月、メンバーは3つの校則について見直した新ルールを学校に提案。学校との対話を重ねて校則が改定され、21年4月からは新しい校則が施行されている。さらに、メンバー発案で「行動指針」を策定し、校則に込めた思いを知ってもらおうとともに、安田女子中学校の生徒として変わらぬ大切にしたいことを全校生徒に伝えた（図）。

今、クラスや部活動などで、「話しかってルールメイキングしよう」

と、口にする生徒が増えたと花本さんは言う。彼女らは、校則の見直しを通じて、自分たちの環境をよりよくしていく力を身につけたのだ。

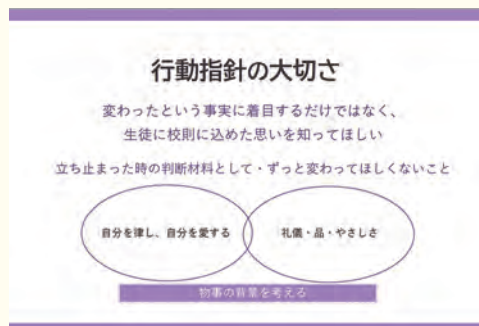


図 プロジェクトメンバーの発案で策定した「行動指針」。校則が変わった事実以上に、校則に込めた思いを受け止めてほしいという思いから策定に至った。

3 特集

生徒が輝く学校づくり — 高校の特色化・魅力化 —

25 For School Section

- 26 新課程に向けて描く「学校教育デザイン」
大分県立大分雄城台高校
- 30 — 疑問や課題を解決！ 実践につながる！ — 新課程レポート
秋田県立湯沢高校
- 34 指導変革の軌跡
福岡県立戸畑高校
- 38 輝く学年団を訪ねて
岡山県立岡山工業高校 3学年団
- 42 学校危機管理 基礎講座
テーマ 保護者対応

45 For Teacher Section

- 46 発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践
- 46 英語 山梨県立青洲高校 飯室雄大
- 50 情報 愛知県立高蔵寺高校 田中 健
- 54 SDGsの視点で見る大学の学び
- 54 解説 目標12 つくる責任つかう責任
目標16 平和と公正をすべての人に
- 56 大学の学び 目標12 立命館大学 生命科学部 生物工学科
生物機能工学研究室
- 58 目標16 東京外国語大学 国際社会学部 国際関係コース
篠田英朗研究室
- 60 これからの進路指導のための 世の中トレンド解説
トレンド・ワード ライフシフト
- 64 誌上で見学 学びのnext
経済金融教育 宮城県・私立常盤木学園高校

巻頭 未来を描く！ 創る！ イノベティブな生徒たち
田中心結さん 花本奈月さん（ともに高校3年生）
広島県・私立安田女子中学高校

- 44 データから考える！ 指導のnext
ピックアップデータ ベネッセコーポレーション「実力診断テスト」
- 68 Reader's VIEW

<https://berd.benesse.jp>

本誌記事は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでもご覧いただけます。

印刷製本／(株)協同プレス 編集協力／(有)ペンダコ 執筆協力／中丸 満、二宮良太 撮影協力／荒川 潤、田中秀和、筒井岳彦、松原 誠、ヤマグチイッキ

※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。 ※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。 ©Benesse Corporation 2021

生徒が輝く 学校づくり

— 高校の特色化・魅力化 —

今号のテーマは、弊誌アンケート(*1)で、取り上げてほしいと要望の多かった「高校の特色化・魅力化」です。中央教育審議会で議論が重ねられていた論点の1つであったため、その影響による関心の高さを見ていましたが、幅広い年代の先生に話を伺うと、どの先生も、「少子化の進行で学校は存続できるのか」、「予測困難な時代を生きる生徒に必要な教育ができているのか」といった危機感をお持ちで、「このままではいけない。もっと学校の特色や魅力を打ち出していない」と、「特色化・魅力化」の必要性を訴えていました。そうした先生方の声を踏まえ、「特色化・魅力化」が各校や先生方にとってどのような意味を持つのか、編集部内で議論を重ね、たどり着いたのが、タイトルに掲げた「生徒が輝く学校づくり」です。

21年1月の中央教育審議会答申(*2)でも示された、「特色化・魅力化」に向けた方策の1つであるスクール・ミッションの再定義やスクール・ポリシーの策定などを通じて、生徒が輝く学校をどのようにつくっていけばよいのか——。本テーマの課題を整理した上で、3校の事例から考えるとともに、「特色化・魅力化」の先にある高校のあり方にまで視点を向けた今号の特集を、ぜひご一読ください。

VIEWnext編集部 統括責任者 柏木 崇

P.4 課題整理

スクール・ポリシーの策定によって、資質・能力の育成を目標に見据えた特色・魅力ある教育課程の実現へ
文部科学省 初等中等教育局 参事官(高等学校担当) 安彦広齊^{あひここうせい}
福井県立若狭高校 校長 中森一郎 / 大分県立日田高校 指導教諭 遠藤源治

P.10 実践事例1 長野県白馬高校

白馬の自然と観光業を生かした学校設定科目で、地域と連携した実践的な学びを実施

P.14 実践事例2 大阪府・私立高槻^{たかつき}中学校・高槻高校

共学化後の生徒像を見据えてスクール・ポリシーを策定。3つのコースの特色化が、新たな学校の魅力を築く

P.18 実践事例3 香川県立高松北中学校・高校

スクール・ポリシーを軸に、多様な教育活動を再編。生徒、教師、地域が活動の価値をともに理解する

P.22 本特集テーマのnext

魅力化の評価を基にしたステークホルダーの対話が、より実質的で持続可能な取り組みを築く
一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム 代表理事 岩本 悠

*1 『VIEW21』次年度誌面に関する読者アンケート結果(アンケートは、2020年10月~11月にウェブとファクスで実施)。

*2 中央教育審議会『令和の日本型学校教育』の構築を目指して~全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現~(答申)。

課題 整理

産業構造や社会システムの急激な変化、少子化、そして高校生意識の多様化などを受けて、高校の特色化・魅力化の必要性が高まっている。この度、各校の特色化・魅力化に向けた、共通して取り組むべき方策として、「各高等学校の存在意義・社会的役割等の明確化（スクール・ミッションの再定義）」と、「各高等学校の入口から出口までの教育活動の指針の策定（スクール・ポリシーの策定）」（*1）が中央教育審議会の答申で示された。その意義と、再定義や策定における課題について、文部科学省の高等学校担当と、現場の教師が語り合った。



文部科学省 初等中等教育局
参事官（高等学校担当）
安彦 広斉 あびこ・こうせい

1995年に文部省採用。主に初等中等教育局、高等教育局で情報教育や教員政策を担当。初等中等教育視学官等を経て、2021年から現職。

スクール・ポリシーの策定によって、

資質・能力の育成を

目標に見据えた

特色・魅力ある教育課程の実現へ

主体的な選択だったか否かが
入学後の学習意欲に影響

——なぜ今、高校の特色化・魅力
化が必要なのでしょうが。

中森 本校には普通科・文理探究

科・海洋科学科の3つの科があり、それぞれ状況は異なりますが、特色化・魅力化は常に重要な課題です。普通科では、生徒の学習意欲を十分に高めることができず、学びの魅力化が必須です。文

理探究科は、地域の中学生の上位層にとって目標となっていますが、魅力を維持しなければ、中学生が地域外の高校を選ぶ可能性があります。海洋科学科は、小浜水産高校の閉校に伴って本校に統合されたという経緯から、今後も日本の海洋教育に貢献するために、特色ある学びを提供し続ける使命があります。

遠藤 これまで、普通科の進学校では、進学実績が学校の評価の重要な軸であり、志望校に合格する学力を生徒に身につけさせることが、学校の役割の1つでした。将来の目標が明確でない生徒の中には、学ぶことの意義を感じられず、学習意欲を低下させる生徒も少な

からずいました。高校選択も受身の身で、以前の勤務校では、「親や塾の先生に勧められた」「友人に誘われた」といったことを志望理由に挙げる生徒もいました。中学生が高校や大学等の先を見据えて高校選択をできるようにするために、各校が特色を一層明確にすることが大切だと感じています。

近年では、少子化等の影響で、定員割れが続いている学校もあります。教育委員会も、そういった学校を中心に、さらなる特色化・魅力化の取り組みを求めています。が、中学生に選ばれる高校とはどのような学校か、そのあり方が改

*1 中央教育審議会『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（2021年1月）より。

めて問われています。

安彦 お二人の指摘は、データにも表れています。例えば、高校の選択理由と進路選択の満足度には相関関係があり、「合格できそうだった」「自宅から近い」といった他律的な理由で進学先を選んだ生徒は、進路選択の満足度が低く、「学校の雰囲気よかった」など、その学校に魅力を感じて進学先を



福井県立若狭高校 校長

中森 一郎

なかもり・いちろう
教職歴36年。同校に赴任して3年目。

◎学校概要

設立 1897（明治30）年
形態 全日制・定時制／全日制は、普通科・文理探究科（国際探究科、理数探究科）・海洋科学科／共学
生徒数 1学年約300人（全日制）
2021年度入試合格実績（現役のみ）
国立大は、北海道大、筑波大、金沢大、福井大、京都大、大阪大、神戸大、広島大などに99人が合格。私立大は、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ266人が合格。

選んだ生徒は、満足度が高いという結果が出ています（図1）。

また、OECDが行った国際調査では、教師の意識について気がかりな結果が出ています。小・中学校の教師を対象とした調査ですが、「生徒に勉強ができると自信を持たせる」「児童生徒が学習の価値を見いだせるよう手助けする」など、児童生徒の主体的な学



大分県立日田高校 指導教諭

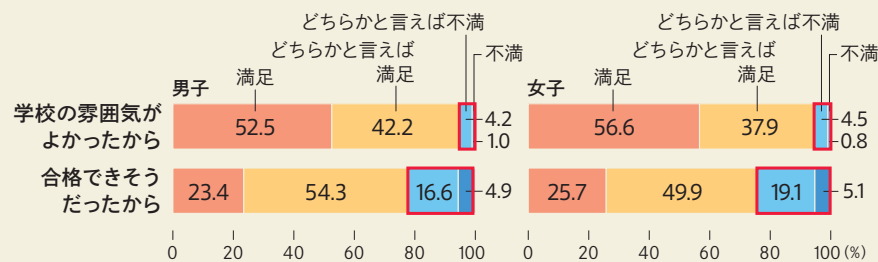
遠藤源治

えんどう・げんじ
教職歴20年。同校に赴任して1年目。理科（物理）。

◎学校概要

設立 1921（大正10）年
形態 全日制・定時制／普通科／共学
生徒数 1学年約200人（全日制）
2021年度入試合格実績（現浪計）
国立大は、筑波大、静岡大、広島大、山口大、九州大、長崎大、熊本大、大分大、鹿児島大、北九州市立大などに92人が合格。私立大は、東京理科大学、立命館大、関西学院大、西南学院大、福岡大などに延べ221人が合格。

図1 進学先を選択した理由と進路選択の満足度



※文部科学省・厚生労働省「第16回21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）」（2018年）を基に編集部で作成。

習参加の促進ができてきているという肯定率が、日本は参加国の平均値を大きく下回りました（*2）。

日本の教師は、諸外国に比べて熱意があり、高い指導力があるにもかかわらず、自己効力感が低い

のは、将来の予測が困難と言われる社会を生きていくための力を今の指導で生徒に育てているのかといった、漠然とした不安があるからかもしれません。

それらの問題を解決するための第一歩となるのが、学校の特色化・魅力化です。どのような生徒を育成するのかという教育目標を明確にすることで、遠藤先生が大切に指摘された、中学生が将来を見据えた高校選択ができるようになります。そして、掲げた教育目標を達成できているかを評価することで、生徒は自身の成長を、教師は生徒に必要な資質・能力を育成できていると実感し、ともに自己効力感を高められるでしょう。

中学生が主体的に学校を選べるようなSPに

特色化・魅力化を図る上で、スクール・ミッション（以下、SM）とスクール・ポリシー（以下、SP）はどういった役割を果たすのでしょうか。

安彦 学校教育法施行規則の高等

*2 「OECD 国際教員指導環境調査（TALIS）2018年報告書」より。

学校設置基準では、学校が3つの方針、つまりSPを策定する前提として、各校に期待される社会的役割、すなわちSMの再定義を求めています。これは、地域と連携しながらSMを再定義することで、学校と地域との結びつきを強め、そのSMを、中学生とその保護者が理解しやすい内容・表現で発信することで、高校選択の情報 の1つとしてもらうといったねらいがあります(図2)。

中森 一般的に、学校教育目標は抽象的なものが多く、教職員はもとより、生徒、保護者、さらには地域住民や産業界等の中で十分に共通理解が図られていない現状を考えると、具体的な資質・能力ベースで策定するSPは、学校の存在意義や目指す教育の校内外への共有・浸透を図る上で重要な役割を果たすと思います。

——SPの策定で押さえておくべきポイントは何でしょうか。

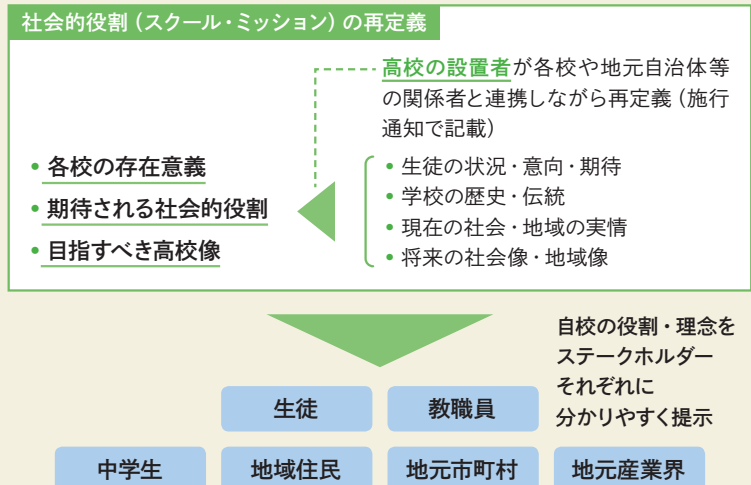
安彦 SPの中で要となるのが、自校の社会的役割に基づき、育成を目指す資質・能力を定める「グランドエーション・ポリシー」(以下、GP)です。GPは、「地域に残る人材」といった耳触りのよい文言にしくなくとも構いません。たとえ他県に進学・就職しても、自分が育った地域のために何ができるのかを考え、つながり続ける意識を育むというのも、学校の社会的意義として大切な視点です。GPをどのような教育活動を通じて実現するかを示すのが、「カリキュラム・ポリシー」(以下、CP)です。例えば、中学生が卒業までの学習の道筋を捉えられるものになっているか、教師が日々の授業の実施・改善に資するものになっているかなど、生徒や教師、地域などのステークホルダーの視点で示すといでしょう。

そして、入学者の受け入れ方針である「アドミツション・ポリシー」(以下、AP)は、中学生が主体的な高校選択ができるようなメッセージを明確に打ち出すことが重要です(図3)。

中森 SPの策定のベースとなるものとして大切なのが、校訓や校是、建学の精神です。それらは創立以来掲げられてきた「不易」で

図2 社会的役割(スクール・ミッション)を再定義する理由

- 背景**
- 各校のあり方を検討する上で、自校が育成を目指す資質・能力を明確化することが重要。
 - 学校教育目標等が抽象的で分かりにくい、校内外への共有・浸透が不十分といった指摘もある。



- スクール・ミッションは、中学校における進路指導の充実や中学生の高校選択、高校生の科目選択にも資するものとして期待。

※文部科学省「新しい時代の高等学校教育の実現に向けた制度改革について」を基に編集部で作成。

あり、SPは絶えず見直し・改善を図っていく「流行」の視点で捉えるといいのではないのでしょうか。

なお、本校では、学校と生徒会との協働でSMとSPを策定中です。21年4月、生徒会長にSM・SPの意義を伝えたところ、彼らは中央教育審議会の答申を読み込んだ上で、「生徒会執行部も、こ

れからの若狭高校について考えていきたい」と言ってきたので、生徒主体で試案を作ることにしました。生徒会長が全校生徒に呼びかけ、各クラスから出された意見を生徒会が集約し、教師との対話を通して完成させる予定です。

安彦 生徒の思いを教師が受け止めることは、とても大切です。

生徒の視点で策定したSPは、中学生にも理解しやすい内容・表現になることが期待されます。

SMの再定義やSPの策定については、設置者と学校が適切に判断するとしています。学校が積み重ねてきた歴史や教師の思いを踏まえて、学校が主導すべきと考えらるなら、それでよいと思います。ただ、設置者にも、教育施策を考慮して踏まえてほしいことがあるかもしれません。学校と教育委員会が対話を重ねてSM・SPの方向性を共有することも大切です。

公表を急ぐあまり、表面的な議論にとどまらないように

地域と十分に話し、生徒の思いも取り入れながら策定するとすると、時間が必要であり、策定のスケジュールが気になります。

安彦 SMは、あくまで「再定義」するものであり、議論の結果、現状を変える必要がないという判断もあり得ます。そうであれば、SPの策定にすぐに入れます。

策定を焦る必要はありません

が、中学生の主眼的な高校選択にいち早く資するため、SM・SPはできたものから公表するとよいでしょう。一方で、教育の一貫性を保つことを重視し、ある程度時間をかけて取り組むという考え方も否定されるものではありません。

SMとSPの関係性を踏まえると、各校に期待される社会的役割等の再定義を先行することが望ましいですが、学校が何を指すのかという本質的な議論ができていれば、策定の順序は問題ではありません。最も避けたいのは、公表を急ぐあまり、表面的な議論のまま形だけを整えて、SM・SPを公表してしまうことです。

なお、21年3月31日に公布された学校教育法施行規則等の一部を改正する省令により、SPは22年度より公表することが求められますが、経過措置として、省令の施行の日から25年3月31日までの間は、特別の事情があり、かつ、教育上支障がないと高校の設置者が認める場合には、高校はSPを定め、公表することを要しないと定めています。

図3 高校における「3つの方針」の策定・公表の概要と、その目的

■「3つの方針」(スクール・ポリシー)の策定・公表(学校教育法施行規則の改正)

- 高等学校教育の入口から出口までの教育活動を一貫した体系的なものへと再構成
- 各高等学校教育の継続性を担保
- ▶ 特色・魅力ある教育の実現に向けた整合性のある指針として「3つの方針」を策定・公表

第三条の二 高等学校は、当該高等学校、全日制の課程、定時制の課程若しくは通信制の課程又は学科ごとに、次に掲げる方針を定め、公表するものとする。

→スクール・ポリシーの策定単位は、教育課程編成上の基本単位である学科又は課程とすることが基本。ただし、複数の学科や課程をまとめて策定単位とすることや、当該高校全体を策定単位にすることを妨げられるものではない。

- 一 高等学校学習指導要領に定めるところにより育成を目指す資質・能力に関する方針(グロデュエーション・ポリシー)
各高等学校に期待される社会的役割(スクール・ミッション)等に基づき、生徒の卒業後の姿を見据えて、学校教育活動を通じて生徒にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを定める基本的な方針となるもの。
- 二 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)
育成を目指す資質・能力に関する方針を達成するために、どのような教育課程を編成し、実施し、学習評価を行うのかを定める基本的な方針となるもの。
- 三 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)
各高等学校に期待される社会的役割等や、育成を目指す資質・能力に関する方針と教育課程の編成及び実施に関する方針に基づく教育内容等を踏まえ、入学時に期待される生徒像を示す基本的な方針となるもの。

■3つの方針の策定の目的

- 各高等学校における育成を目指す資質・能力を明確化・具体化
- カリキュラム・マネジメントを通じて、学校全体の教育活動の組織的・計画的な改善へと結実
- スクール・ポリシーを基準にして、高等学校の教育活動や業務内容を精選・重点化
- 学校評価において、スクール・ポリシーに照らして自らの取り組みを点検・評価

■3つの方針の内容

- 生徒や入学希望者の学習意欲を喚起し、学校生活や将来に対する展望を持ちやすい表現・内容
- 日常的に参照可能なよう、総花的なものせず、真に重点的に取り組む内容を示す指針
- スクール・ポリシーについても日々の教育活動の検証等を通じた見直し

※文部科学省「新しい時代の高等学校教育の実現に向けた制度改正について」を基に編集部で作成。

S Mの再定義・S Pの策定を
機に地域との連携を深める

—— 今回の答申では、特色化・魅力化に向けた方策の1つとして、地域連携も挙げられています。ただ、どのように地域と連携すればよいのか分からないといった声を学校から聞くことも少なくありません。お二人の学校では、どのように地域連携を進めていますか。

中森 本校では、学校の所在地である小浜市や近隣自治体との連携も強めています。例えば、小浜市教育委員会の教育長から、本校の探究学習が中学生の探究学習のロールモデルになると評価を受け、市の教育基本方針に小・中・高の連携が明記されました。

多くの自治体で高校と地域の連携がなかなか実現できないのは、高校と地域との間に接点が少ないからだと思います。しかし今は、多くの高校が探究学習で地方創生や地域活性化といった課題に取り組んでいます。その結果、生徒は自分の探究学習が社会に役立つ学びであると実感し、それによって

スクール・ポリシー策定の

Q & A

Q 資質・能力に関する方針は、どの程度具体的にすべきでしょうか。

A 資質・能力に関する方針は、「高校で何ができるようになるか」を定めるものであり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱に整理して示すことが重要です。生徒にとっては高校生活の目標の1つに、教師にとっては年間指導計画や授業改善に活用できるものすることを考慮して、その具体性も検討してもらえたらと思います。

Q S Pを分かりやすく示すポイントを教えてください。

A S Pの内容は、総花的にならず、真にその高校が重点的に取り組むものであることが求められています。公表に際しては、「誰に見せるのか」を考えて、平易な言葉にしたり、取り組みの具体例を示したりするとよいと思います。

Q 在校生や保護者、中学生への周知は、どのように行うとよいでしょうか。

A 在校生とその保護者には、入学式や始業式、保護者会等を利用して説明する方法が考えられます。中学生とその保護者に対しては、学校のウェブサイトの説明動画を配信したり、学校説明会や中学校との情報交換会の場でS Pを説明したリーフレットを配布したりするとよいでしょう。S Pに限らず、SNSを利用して情報発信をすると、多くの保護者が見てくれるようです。

*回答は、安彦参事官、中森校長、遠藤先生へのヒアリングを基に編集部で作成。

学習意欲が高まるという、とてもよい循環が生まれています。地域に貢献する人材を育てたいという自治体の思いと、高校での学びが合致すれば、地域連携は進むのではないのでしょうか。

遠藤 進学実績を重視する学校では、大学入試に向けて取り組むべき活動を優先し、地域と連携した取り組みに十分な時間をかける余裕がないのかもしれない。S Mの再定義やS Pの策定により、育成を目指す生徒像が明確になれ

ば、一層、地域の自治体や企業との連携を模索し始めるのではないかとと思います。

S S H指定校である本校は、地域の豊富な水資源をテーマに、地元企業と連携して地域課題の解決を目指した探究学習に取り組んでいます。さらに、地域の科学技術分野の裾野を広げるため、日田市の小・中学校と連携し、本校の生徒が小・中学生向けに科学実験の出前講座や、算数・数学や理科の学習支援を行っています。S S H

指定11年目の今では、小・中学校時代に本校の生徒に教わったことをきっかけに、自分も本校で学び、教える側になりたいと思って志望したという生徒が増えています。

安彦 「総合的な探究の時間」(以下、総合探究)は、生徒が自分があり方や生き方を考えたり、教科学習の必要性を感じたりする上で重要な役割を担っています。地域の小・中学生が高校生の探究学習の発表などを見聞きする機会があると、将来の目標やビジョンが



特色化・魅力化の鍵を握る探究学習

「探究学習の実施には多くの授業時数が必要」といった声をよく聞きますが、お二人の学校ではどのように対応していますか。

中森 本県では、これまで進学希

見えてくるのではないのでしょうか。そうした地域連携の視点も、特色化・魅力化の重要な要素になると思います。

望者の多い公立高校では、授業を週35時間行っていました。しかし、本校では必ずしも生徒の学習意欲を喚起できていなかったという反省から、20年度以降は授業を週33時間としています。すると、生徒は、増えた可処分時間を使って総合探究のフィールドワークなどに取り組むようになりました。その結果、研究が深まるとともに、数学や理科の知識の必要性に多くの生徒が気づき、教科学習にも熱心に取り組むといった好循環が生まれています。

遠藤 本県でも、多くの進学校で行っていた朝学習を取り止めるなどして、生徒が自由に使える時間を増やし、生徒が主体的に学べる環境づくりを進めています。また、ICTの活用による授業の効率化によって、生徒が主体的に考える時間を増やし、探究学習を推進する必要があると感じています。さらに本校では、生徒主体で探究学習を進められるよう、第1学年に探究の手法や考え方の基礎を学ぶ学校設定科目を設置しています。そうした学校設定科目の設

置も、探究学習の推進において有効であると考えられます。

中森 ただ、探究学習の知見の蓄積が浅い学校が、いきなり教科横断型の学校設定科目を設置するのは大変です。教育委員会が中心となり、学校設定科目の設置や教科横断型の学びのノウハウを提供することが重要でしょう。また、学校設定科目を設置すると、保護者から教科学習の時間が減ることへの不安や不満の声が寄せられる場合もあります。生徒や保護者に、学校設定科目の設置の意義を丁寧に説明することが求められます。

遠藤 学校設定教科・科目の設置では、育成を目指す資質・能力について、教師間で共通理解を図ることも大切です。本校でも、教師間で資質・能力について話す、「この力を育むには、現状の科目では不十分だ」「この授業には、言葉による見方・考え方と、数学的な見方・考え方が必要だから、国語と数学を連携させよう」といった話が出てきます。資質・能力の育成を教育目標にして、「現在の教科・科目の枠組みでは育む

ことができないから新しい科目が必要だ」といった議論ができれば、学校設定教科・科目の必要性が理解され、CP策定に向けた対話が活性化するのではないのでしょうか。

目標が変われば、教師の意識も変わるはずですが、SMの再定義やSPの策定により、目標が進学実績の向上ではなく、資質・能力の育成になれば、教育課程も探究学習をより重視したものになると思います。探究学習が希望進路の実現にもつながると分かれば、その流れは一層加速するでしょう。

安彦 探究学習の充実が大学入試の結果に好影響を与えているというエビデンスも出始めています。何より、すべての生徒が問題を自ら見だし、それを解決するという探究のプロセスを積み重ねることが、これからの社会を生き抜く上で必要な基盤となる資質・能力を育成します。そうした教育を各校が強みを生かしてどのようにして実現していくのかを考えることも、学校の特色化・魅力化につながるのではないのでしょうか。

長野県白馬高校は、急激な生徒数の減少を受けて、1990年代から地域ぐるみで学校の特色化・魅力化を進めてきた。豊かな自然や、外国人観光客が多いことで盛んな観光業などの地域資源を生かした特色ある学校設定科目を導入。2016年度には、観光業の人材育成を目的とした国際観光科を新設し、全国から生徒を募集することで、生徒数の維持を図っている。

白馬の自然と観光業を

生かした学校設定科目で、

地域と連携した

実践的な学びを実施

長野県白馬高校

地域の存続をかけた
地域唯一の高校の特色化

山岳リゾートの聖地として世界中から観光客が訪れる長野県白馬村。同村では、以前から人口減少が課題であり、地域唯一の高校である長野県白馬高校は、1989年度に約400人だった全校生徒数が、

2004年度は約200人と、15年間で半減した。同校が廃校になれば村存続の危機につながると捉え、1993年、同村と、村に隣接する小谷村の教育委員会と小・中学校校長、PTAから成る「白馬高校を育てる懇話会」(以下、懇話会)を設置。地域の特色である観光・環境、山岳スポーツ系のコースの導入などで同校の魅力化を図った。

それでも生徒数は年々減少し、2013年度から2年連続で、統廃合の対象となる全校生徒数160人を下回った。懇話会は、同校の再建案を練って、長野県教育委員会に提出。普通科に加え、全国から生徒を募集する国際観光科を新設することで存続が決まった。同校は、両村長が学校運営に参画するコミュニティ・スクールとなり、寮の設置や運営、校外実

習のためのマイクロバスなども両村が負担。進学希望者のための公営塾も村費で設置された。学校存続に動いた人々の思いを、関正浩校長は次のように代弁する。

「魅力的な学校となれば、インターンやUターンが見込め、地域活性化につながる可能性があります。また、郷土愛を持ち、白馬のために働く人材を育むことも、地域の切実な願いです」

20年以上にわたる取り組みの過程では、どのような魅力を打ち出せばよいか、様々な議論があった。「『優秀な中学生が村外の高校に進学しないよう、大学合格実績の向上を目指すべき』といった声があったのも事実です。しかし、それでは他校との差別化は図れません。白馬だからこそ設置できる魅力的な科目で、目的意識の高い生徒を県外からも募集することを、理想として掲げました」(関校長)

地域資源を生かした
多彩な科目を組み込む

同校は、懇話会や地域の意見を

聞きながら、観光・山岳などの地域資源を生かした学校設定科目を設置した。中でも、16年度に新設した国際観光科では、「グローバル観光」「山岳基礎」「環境」など、

多彩な学校設定科目を導入し、地元ホテルと連携して1泊限定で同校生徒が運営する「高校生ホテル」、地元のネイティブ・スピーカーと英語漬けの1日を過ごす「イングリッシュ・デイ」など、実践的な学びを行っている(図1)。



校長
関 正浩
せき・まさひろ
教職歴35年。同校に赴任して2年目。

国際観光科主任
浅井勝巳
あさい・かつみ
教職歴18年。同校に赴任して5年目。商業科。

学校概要

設立 1951(昭和26)年
形態 全日制/普通科・国際観光科/共学
生徒数 1学年約60人
2021年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、鳥取大、長野県立大、静岡文化芸術大に3人が合格。私立大は、桜美林大、國學院大、専修大、中央大、東洋大、松本大、関西大、近畿大、立命館アジア太平洋大などに延べ23人が合格。

学校設定科目は、授業内容や評価方法をシラバスに明記し、チーム・ティーチング(以下、TT)とすることで、担当教師が異動しても、特色ある教育が継続できるようにしている。国際観光科主任の浅井勝巳先生は説明する。

「例えば、『環境』は理科の教師間で、『観光』は地理歴史・公民科と商業科でTTを行っています。赴任歴の長い教師と赴任したばかりの教師を組み合わせることで、指導のノウハウが継承され、授業の連続性を担保できるようにしています。学校設定科目は、学校の特色を持続する上で重要な位置づけになっています」

学校設定科目の取り組みが進み、地域連携の実績が広まると、地域の協力者が増えたり、違った視点での取り組みが提案されたりと、外部との連携はさらに進んでいった。

例えば、世界的なアウトドアスポーツメーカーからSDGs(＊)に関連した消費者教育での連携を提案された際は、浅井先生が担当する商業科の科目には時間の余裕

図1 地域をフィールドにした、同校の特色ある学び

科目名	取り組み内容
野外と教養	白馬地域を中心とする自然の中での体験学習や創造的な活動を通して、問題解決力や行動力の向上を図る。
時事問題	現代社会の具体的な諸問題を新聞記事から取り上げて考察することで、広い視野から社会と人間についての理解を深め、判断力を身につける。
環境 I・II	地域の大自然をフィールドに観察、調査、実験を行い、生物とそれを取り巻く環境について理解を深める。環境Iでは環境調査についての基礎・基本を身につけ、環境IIでは環境保全のための実践的態度や意欲、思考力・判断力の育成を図る。
観光I	地域を知るフィールドワークを行い、地域の現状と課題について認識を深める。地歴・公民科と商業科の教師のチーム・ティーチングで指導する。
観光II	ホテル・レストランでサービスの提供等各種業務に携わり、おもてなしの心(ホスピタリティ)を身につける。
グローバル観光	地域課題の調査や、ボランティア活動への参加を通じて、持続可能な地域とはどのようなものを学び、地域の理想の未来を提言する。
観光コミュニケーション英語	地域の外国人がツアー客として参加。生徒は、一緒に各所を巡りながら英語でガイドを行う。最後に、地元の観光業者からフィードバックを受ける。

※学校資料を基に編集部で作成。

生徒の心に火をつけることが
進路実現の鍵

がなかったため、カリキュラムを作成中だった2年次の「総合的な探究の時間」で実施できないか、担当教師に相談し、6時間のプログラムを実現させた。

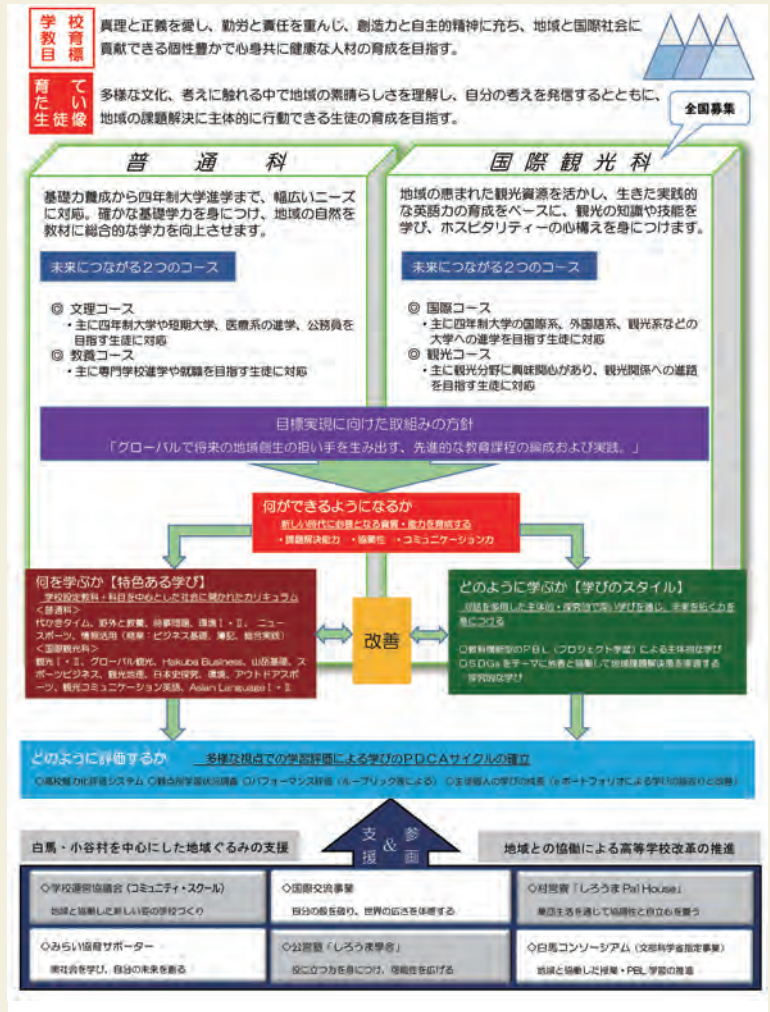
「本校の特色化に関連する外部からの提案は、できる限り受け入れられるようにしています。私も担当教師と一緒に先方の話を聞き、取り組みのねらいや期待される効果を共有して、その取り組みが生徒の成長にどうつながるのかを検討します。連携先と担当教師が、互いに地域の思いを理解して協働できるよう、管理職として環境の整備に努めています」(関校長)

同校は、全国の中学生への広報活動にも積極的だ。学校説明会は、仙台、東京、名古屋、大阪などで実施。観光教育・国際理解教育・環境教育・山岳スポーツの4本柱を前面に出し、「白馬で本物に触れよう」とアピールしている。そうした努力が実り、今や生徒の約4割が、県内他地区及び県外出身者だ。

同校の特色に引かれ、自分のやりたいことができる学校だと、明確な目的意識を持った生徒が入学

＊ Sustainable Development Goals の略。2015年に国連が掲げた、持続可能な開発目標のこと。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17の目標と169のターゲットから成る。

図2 グランドデザイン



※学校資料を一部抜粋して掲載。

するようになった。また、入学時には学力的に厳しかったが、同校で夢や将来像を描き、学校推薦型選抜や総合型選抜で希望進路を実現する生徒が増えている。

「自分の目指す生き方や適性が少しでも見えてくれば、学習にも前向きに取り組むようになりま

す。高校生はまだ発達段階であるからこそ、彼らの心にかに火をつけることができるかが、魅力的な学校であり続ける上での鍵だと思えます」(関校長)

また、地域の人々の意識にも、変化が表れてきた。地域住民へのアンケートの結果では、数年前ま

で「高校卒業後は地元に残ってほしい」といった声が多かったが、今では、「一度、外の世界を見て視野を広げ、白馬のために何ができるかを考えてほしい」といった声が増えている。

「地域について知れば知るほど、地域に親しみを感じ、地域のため

に何かしたくなるものです。地域と連携した取り組みを充実させ、たとえ一度は地域を離れたとしても、白馬のことを考え続ける生徒を育てていきます」(関校長)

新課程では入試も見据え、柔軟な科目選択を可能に

特色化を追求したゆえの課題も出てきた。学校設定科目を最大限増やした結果、国語・数学などの5教科の履修科目数が減少。特に、国際観光科は文系科目に特化した教育課程としたため、理系科目が少なく、受験校が制限される懸念があった。そこで、22年度からの新教育課程は、希望進路に幅広く対応できるよう改訂する。具体的には、国際観光科の生徒が普通科の科目を履修できるよう、選択科目を柔軟に設定する予定だ。

「多彩な学校設定科目や探究学習で視野を広げても、大学入試で必要とされる科目を履修してないことで希望の大学が受験できないことになれば、学習意欲が低下しかねません。そのバランスをどう取

るかが、特色化・魅力化の難しいところだ」（浅井先生）

そうした課題はあるものの、特色化は今後も一層推進していく。その1つが、SDGsを軸にした小・中学校との連携だ。地元の小・中学校では、SDGsをテーマにした授業を地域と連携して実施しており、高校生が小・中学校を訪れ、SDGsについて教えるという交流が始まっている。

「今後は、小・中・高でSDGsについて学ぶ内容を整理・共有し、学びの連続性を持たせたいと考えています。白馬高校に進学すると、環境に配慮した商品開発ができる、断熱材を使った省エネについて研究できるなど、小・中学校での学びを本校ではどのように発展させることができるのかを、小・中学生の段階から伝えていくことで、本校への進学希望者を増やしていきたいと思っています」（関校長）

取り組みを整理して、 グランドデザインを策定

20年度に長野県の公立高校で実

施された「3つの方針」と「グランドデザイン」の策定は、特色化に注力してきた同校が、改めて自校の目指す方向性や育てたい生徒像を振り返る機会になった。同校は、以前から生徒募集で伝えてきた内容を「生徒募集方針」に、学びの内容を「教育課程編成・実施方針」に整理していった。

「グランドデザイン(図2)の策定は、本校が積み上げてきた取り組みを改めて整理し、校内で共有する機会になりました。本校の特色や魅力を対外的にアピールしやすくなり、連携先に本校の教育方針を知っていただくことも容易になりました。地域の方とよりよい教育活動を展開していくための対話のツールになればと考えています」（浅井先生）

さらに、学校設定科目を始めとする特色ある学びが、生徒の学習意欲や生徒育成方針に掲げる「課題解決能力、協働性、コミュニケーション力」にどの程度結びついていくかを生徒による自己評価などによって明らかにし、教育活動の改善につなげている。

長野県教育委員会に聞く

「3つの方針」の 策定は、どのように 進められたのか

3つの方針は、各校が元々掲げている教育目標や校訓・校是を踏まえ、自校の強みや特色等を整理・再構築することなどを通して策定するものです。本県では、最初に育成を目指す生徒像を明確にすることで3つの方針が策定しやすくなると考え、生徒育成方針を定めた上で、教育課程編成・実施方針、生徒募集方針を具体化していく手順を示しました。

当初は、現場から戸惑いの声も上がりました。しかし、策定に向けた生徒・保護者や地域との議論は、自校の強みや特色を再認識する機会となり、教育活動をさらに充実させる動きにもつながったようです。また、学校説明会等で中学生に自校の強みや特色を説明しやすくなったといった声も耳にしています。

3つの方針については、生徒・保護者や地域の声を聞きながら、不断の見直しをしていきます。それにより、各校の特色が一層明確化し、魅力がさらに高まっていくものと期待しています。

「お話を聞いた先生」 学びの改革支援課 教育幹兼高校教育指導係長 廣田昌彦
／高校教育指導係主任指導主事 腰原智達
／高校教育指導係長(当時) 齊藤則章(現・飯田高校校長)／高校教育指導係主任指導主事(当時) 小口雄策
(現・諏訪清陵高校校長)

長野県では、新たな高校のあり方について校長などと繰り返し議論を重ね、2018年9月に策定した「高校改革」夢に挑戦する学び「実施方針」の中で、学校ごとに「3つの方針」と「グランドデザイン」を策定する施策を打ち出しました。これは、カリキュラム・マネジメントの視点から各校の教育活動を体系化して地域や社会と共有し、中学生の進路選択に資するとともに、高校が自校の特色・魅力づくりを進め、さらなる教育の質的向上を図るためのものです。策定にあたり、3つの方針は中学生が理解できる平易な表現にすること、グランドデザインは分かりやすいものにするなどを各校に伝えた上で、教頭を対象とした研修を実施し、19年には教育委員会が各校の試案すべてに対して具体的な助言を行いました。

2017年度、男子校から共学校となった大阪府・私立高槻中学校・高槻高校は、新しい学校づくりに向けて、スクール・ポリシーを策定するとともに、それを指針として特色ある教育活動を拡充。生き生きと輝く生徒の姿は、同校入学希望者のロールモデルとなった。そうした状況は、教師にとっては教育活動を充実させる動機づけになり、学校の魅力化の好循環が生まれている。

推進し、14年度には、3コース制（図1）を導入しました。そうした中、共学化という学校の大きな変化に立ち向かうことは、教師一丸となって改革を進める強い動機づけになりました」

共学化後の生徒像を見据えて

スクール・ポリシーを策定。

3つのコースの特色化が、

新たな学校の魅力を築く

大阪府・私立
高槻中学校・高槻高校

共学化に向けて、
新たな学校づくりを推進

中高一貫の男子校として難関大学の合格者を多数輩出してきた大阪府・私立高槻中学校・高槻高校は、2014年度・16年度に行われた大阪医科大学・大阪薬科大学との法人合併を受け、女子学生の

比率が高い両大学との高大連携を円滑に図るため、共学化することを決定した。15年1月には、2年後の共学化に向けて、副校長、教

頭、各業務分掌の部長、共学校の勤務経験のある教師ら11人から成る「共学化特命プロジェクト」（以下、プロジェクト）を設置。当時の校長が、「今までの伝統と実績を引き継ぐだけではなく、『最優の進学校』を目指して、学校を一から設計しよう」と宣言し、新たな学校づくりが始まった。プロジェクトリーダーを務めた、前田

秀樹教頭は、次のように語る。

「当時の本校は、学校改革の真っただ中で、12年度に制定したスクール・ミッション『Developing Future Leaders With A Global Mindset』（*1）の下、英語教育改革と、国際教育・探究型教育を

教育理念を具体化するもの
として3つのポリシーを策定

プロジェクトで新たな学校像を議論する中で、スクール・ミッションに掲げた次世代のリーダー像を具体化するため、育成を目指す資質・能力を策定することを決めた。加えて、大学で策定が一般化していたディプロマ・カリキュラム・アドミッションの3つのポリシーを自校で策定することを、前田教頭は提案した。

「一から学校づくりを行うとしても、教育理念は伝統として根づいている不変的なものです。そこで、3つのポリシーという切り口で教育理念を具体化するのであれば、校内の賛同を得られやすいのではないかと考えました」

前田教頭はプロジェクトメン

*1 日本語では、「卓越した語学力や国際的な視野を持って、世界を舞台に活躍できる次世代のリーダーを育成する」となる。

学校概要
 設立 1940（昭和15）年
 形態 全日制／普通科／共学
 生徒数 1学年約270人
 2021年度入試合格実績（現浪計） 国立大は、北海道大、東北大、筑波大、東京大、京都大、大阪大、神戸大、九州大などに166人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、近畿大、関西学院大、大阪医科薬科大などに延べ581人が合格。



SSH推進部 奥野直人
 おくの・なおと
 教職歴15年。同校に赴任して7年目。理科（生物）。



SGH推進部 重見高徳
 しげみ・たかのり
 教職歴16年。同校に赴任して4年目。社会科（公民）。



進路指導部長 田中大祐
 たなか・だいすけ
 教職歴20年。同校に赴任して17年目。理科（物理、地学）。



主幹教諭、研究開発本部 林徹治
 はやし・てつはる
 教職歴14年。同校に赴任して8年目。数学科。



教頭 前田秀樹
 まえだ・ひでき
 教職歴26年。同校に赴任して22年目。

図1 3つのコース

GL (グローバル・リーダー) コース

英語運用能力を備え、グローバルマインドセットを持つ次世代リーダーを育成する。クリティカルシンキングなど、知識を「使う」技術や考え方を身につけ、自身の問題意識を基にした探究学習に取り組む。

GS (グローバル・サイエンス) コース

データサイエンスの素養を持ち、グローバルマインドセットを備えた生命科学系リーダーを育成する。SSH事業を中心とし、世界を視野にした探究学習を、同一法人の大阪医科薬科大学や他大学と連携して取り組む。

GA (グローバル・アドバンスト) コース

グローバルヘルス向上の視点を持って国際的な諸課題に創造的に挑戦する次世代リーダーを育成する。2020年度までの5年間、SGH指定校として蓄積してきた実績を基に、文系・理系の枠を超えて、問題解決型学習に取り組む。

※学校資料を基に編集部で作成。

図2 スクール・ポリシーの策定にあたっての枠組み

下記のAはアドミッション・ポリシー、Bはカリキュラム・ポリシー、Cはディプロマ・ポリシーにつながるとして、A～Cにあてはまる言葉を考えながら、スクール・ポリシーを策定した。

本校は、**A** こうした生徒に、
 中高6年間で、**B** のような教育を施し、
 卒業時には **C** こうした力をつけて、次のステップに送り出します。

※学校資料を基に編集部で作成。

同校は、中学2年次までは全生徒がGLコースに所属して、グローバルリーダーに必要な価値観や基礎学力を養い、中学3年次からは生徒の希望に応じて、GS・GAを加えた3つのいずれかのコースに所属する。GLコースは幅広く将来を考えたい生徒向けで、GSコースはSSH（*2）、GAコースはSGH（*3）を軸に教育活動を展開する。SSH推

スクール・ポリシーを軸に3コースの特色を鮮明化

スクール・ポリシーは、教育活動を検討する際によりどころとなり、3つのコースの特色を際立たせることにつながっている。

バーに、3つのポリシーを、「本校でどんな生徒を、どういった教育活動で、どのような人材に育てて卒業させたいか」といった枠組みで考えようと提案（図2）。それを基にメンバーが考えた意見をもち寄って議論を進めた。共学校の勤務経験者としてプロジェクトメンバーとなった林徹治先生は、

次のように振り返る。「ポリシーという耳慣れない言葉に戸惑いましたが、示された枠組みは、本校が行っている教育を言語化するものでしたので、とても考えやすかったです。当時赴任1年目だった私にとって、プロジェクトでの議論は、本校の教育理念を深く理解する機会にもなり

ました」議論の内容は職員会議で報告し、そこで出された意見についてもプロジェクトで検討し、全校の理解を得ながら形にしていた。そして、10回の議論を経て、15年5月、「3つの方針（スクール・ポリシー）」「育てたい『10の資質』」を策定した（P.16 図3）。

* 2 文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」。同校は、2014年度から指定を受け、現在2期目。 * 3 文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」。同校は、2015年度にSGHアソシエイト、2016年度からSGHの指定を受け、事業終了後の現在は、SGHネットワークの参加校。

図3 建学の精神、スクール・ミッション、スクール・ポリシー

- **建学の精神** 国家・社会を担う人物の育成
- **スクール・ミッション** Developing Future Leaders With A Global Mindset
- **アドミッション・ポリシー** [求める生徒像]
 - 1 本校の使命や教育方針を理解する生徒
 - 2 学力が優秀で知的好奇心が豊かな生徒
 - 3 自分で考え、積極的に行動できる生徒
 - 4 人間尊重の精神*を持ち、社会貢献の意識が高い生徒

*人間尊重の精神……生命の尊重、人格の尊重、人権の尊重、人間愛などの精神

● **カリキュラム・ポリシー** [教育の方針]
 確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養うことを教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。

- 1 6年一貫教育のメリットを生かしたカリキュラムを編成し、高い学力が確かに身につく指導を行います。
- 2 次代を担う人物に求められる力は何かを常に考慮し、最高水準を追求した教育活動を展開します。
- 3 規律ある学校生活を通して、自らを律して行動する力や規範意識、高い倫理観を育みます。
- 4 コミュニケーション力やリーダーシップ、レジリエンス（しなやかな強さ）を身につけ、さらに生涯にわたって健やかな生活を送るための体力を育成します。
- 5 国際教育に積極的に取り組み、卓越した語学力とグローバルマインドセットを養うために様々な教育プログラムを提供します。
- 6 学びを支えるリテラシーや批判的思考力、プレゼンテーション力、自己管理能力を育成し、生徒自らが課題を発見し解決する意欲と能力を育むため探究型の教育を行います。
- 7 学校行事や課外活動、高大連携講座、ボランティア活動などを通して視野を拡げ、主体性と協働意識、他者尊重と社会貢献の精神を涵養します。

● **ディプロマ・ポリシー** [卒業時に身につける力・卒業認定]
 幅広い知識と高い学力、課題解決力を身につけ、国内外のトップレベルの大学に進学し、国際的視野を持って主体的に自らの進路や社会の未来を切り拓く力と豊かな人間性を備えた多様な人物の輩出を目指します。

● 育てたい「10の資質」

- | | | | |
|-------------|------------------------|----------------------------|--------------|
| ● 個人的能力や思考 | ● 全体を見渡して判断し、主体的に行動する力 | ● 論理的に思考し、日本語および英語で表現する力 | ● 自己管理能力 |
| ● 他者との関係 | ● 創造性（知識や情報を発展的に活用する力） | ● 多様な他者を理解し思いやる力 | ● コミュニケーション力 |
| ● 社会や文化との関係 | ● コラボレーション力（チームワーク） | ● 国際社会の持続的発展や平和に貢献しようとする意志 | ● 倫理観 |
| | ● 日本の伝統・文化を尊重する心 | | |

同校では、上記のほかにも、校訓、教育理念、教育スローガン、目指すリーダー像を設定。それらはすべて同校のウェブサイトにて公開している。 ※学校資料を基に編集部で作成。

進部の奥野直人先生は、教育活動はすべてスクール・ポリシーに結ぶつけて構築していると説明する。「Gコースの場合、SSHの趣旨に沿って、理系人材の育成の視点で探究学習や高大連携などを取り入れ、スクール・ポリシーを踏まえて、生徒主体で他者との協

働などができるといった活動内容を工夫しています。その学校で何が学べるかを示すカリキュラムは、生徒が学校の魅力を判断する重要な要素であり、カリキュラム・ポリシーは学校の魅力化の鍵を握るものと考えています」
 Gコースは、SSH・SGHという対外的に分かりやすい魅力

の間に埋もれないよう、教育活動を構築している。例えば、同校への入学希望者を対象としたイベントを生徒が企画・運営する「オーブンキャンパス・プロジェクト」(図4)や、自分たちの遠足を企画・提案し、採用された案が実施される旅行会社でのインターンシップなど、生徒が自ら課題を発見し、

「パラオの肥満問題に取り組んだ生徒は、現地調査ができなくなったため、連携先の大学教員に相談し、オンラインで現地の人たちにインタビューをして研究を続け、身体活動を向上させるカードゲームを考案しました。インターン前には、大学教員から質問項目のチェックを受けるなど、一

考えた企画を実践する場を、スクール・ポリシーに照らし合わせて設けている。Gコース担当の田中大祐先生は、次のように語る。「最後に実践の場がある活動は、どんなに大変でも形にするという責任が伴いますが、だからこそ、生徒は真剣に取り組む、他者と協働し、創造性を発揮していきます。それが、自分の思いを実現できるといった本コースの大きな魅力になっています」

SGHがカリキュラムの軸となるGコースでは、特色である海外連携がコロナ禍において制限されている。それでも、外部人材などのリソースを活用し、探究学習を継続させていると、SGHN推進部の重見高徳先生は説明する。

図 4 特色ある教育活動の一例

活動名	活動内容
オープンキャンパス・プロジェクト	GLコースの高校1年生が、同校入学希望の小学5年生とその保護者を対象としたイベントを企画・運営。当日行う学校説明やワークショップ、会場の設営や来場者の誘導など、すべてを生徒が行う。
学修インタビュー	年度末に、生徒は自身の1年間を振り返ってまとめ、どんな思いで、何を学び、どのように成長したのかについて、担任・保護者にプレゼンテーションする。中学1年次から生徒全員が行う。

※学校資料を基に編集部で作成。

スクール・ポリシーで活動の意味づけが容易に

で、新たな教育活動への挑戦もスクール・ポリシーがあることで、新たな教育活動への挑戦も

線で活躍する研究者の指導を受けられるのは、本コースの大きな魅力の1つです。特色づくりには、自校のリソースをうまく活用することが重要だと感じています」

やすくなった。同校の代表的な取り組みの1つである「学修インタビュー」(図4)は、カリキュラム・ポリシーにプレゼンテーション力を育成する教育が掲げられていることを根拠として導入した。「大学入試直前に面接練習をするだけでは、プレゼンテーション力を育成しているとは言えず、生徒が中学1年次から定期的にプレゼンテーションする場が必要だと説明すると、校内の賛同を得られました」(前田教頭)

また、この5年間で全教師の約3割が入れ替わったが、スクール・ポリシーがあることで、新しく赴任した教師と指導方針を共有することが容易になった。6年前、スクール・ポリシー策定後に赴任した奥野先生は、自身の体験を次のように振り返る。

「特別活動の企画書には、スクール・ポリシーを踏まえて立てられた活動の目標が必ず明記されています。それを目にする機会を積み重ねることによって、本校で求められる指導を常に意識することができるようになったと思います」

目の前の生徒が輝くことが魅力ある学校であり続ける鍵

21年度で共学化5年目を迎えた同校の新たな学校づくりは、軌道に乗り始めている。その成果として、S HやS G Hで探究学習を突き詰めた生徒が全国大会で入賞したり、国際政治学者を目指す生徒が、ほかの生徒にも国際政治に関心を持ってほしいと、校長に大使経験者を招いた講演会を提案し、それを実現させたりと、生徒一人ひとりがそれぞれの輝きを放っている。「学校が活性化し、勢いを感じています」と、前田教頭は言う。

「オープンキャンパスなどでは、在校生と本校入学希望者が直接触れ合う機会を設けています。在校生に憧れて入学した生徒が、本校で活躍して憧られる側となるという好循環が生まれ始めました。教師も、活躍する生徒の姿に、教育活動を一層充実させようと意欲的です。今本校に通う生徒が生き生きと活動して輝くことが、魅力的な学校を持続可能なものにする

のだと実感しています」

同校は、アドミッション・ポリシーに応じて入試問題を見直し、「自分で考える」力を評価するため、国語・算数で記述式問題を増やした。

「自分で考えて行動する生徒が増えていると感じます。以前は本校入学後に学力が伸び悩む傾向がありました。今は、入学後に生徒が伸びる学校という評価を、保護者からいただくようになりました」(林先生)

22年度、共学校1期生が卒業を迎える。それを一区切りとしてこれまでの成果と課題を整理し、スクール・ポリシーの点検や見直しを行う予定だ。

「スクール・ポリシーの策定後、情報化やグローバル化が一層進み、STEAM教育(*4)の重要性も高まっています。自校の課題とともに、社会の変化に応じた視点でも、本校が目指す学校像を検証し、その結果をスクール・ポリシーにも反映させていきたいと考えています」(前田教頭)

* 4 Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics の頭文字で、科学・技術・工学・芸術を始めとする文化的教養と数学に重点を置いた教育、人材育成のこと。

実践事例 3

香川県立高松北中学校・高校は、県内唯一の公立中高一貫教育校として、6年間を見通した教育活動を展開している。その土台となっているのが、県が全国の自治体に先駆けて各校に策定を求めた「スクール・ポリシー」だ。多様な教育活動の意義をスクール・ポリシーの下で改めて整理し、それぞれの活動に取り組む教師、生徒の意識改革へとつなげている。

スクール・ポリシーを軸に、 多様な教育活動を再編。

生徒、教師、地域が 活動の価値をともに理解する

香川県立 高松北中学校・高校

スクール・ポリシーで
学校の進化を促す

香川県唯一の公立中高一貫教育校である香川県立高松北中学校・高校。現在、難関国公立大学を目指す飛翔コース、国公立大学文系学部を目指すグローバルコース、国公立大学理系学部を目指す

サイエンスコース、そして、学校推薦型選抜、総合型選抜での進学を目指すカルチャーコース、スポーツコースの5コースを設置している。部活動にも力を入れており、全国大会へ出場している部も多い。また、近年はグローバル教育を軸にしたキャリア教育に力を入れてきた。そうした積み重ねは、「東大からオリンピックまで」のスローガンに昇華し、長く地域の信頼を得てきた。だが一方で、

「中学校と高校の連携が不十分で、コースや分掌がバラバラに動いている」「それぞれの教師がどんな課題意識を持ち、学校全体としてどのような生徒の育成を目指しているのかが見えにくい」といった課題も教師たちは感じていた。2020年3月、香川県は「魅力あふれる県立高校推進ビジョン」

」を策定し、特色ある県立中学校・高校づくりを加速。全県立中学校・高校で21年度に「スクール・ポリシー」を策定することを決定した。20年度には、高校入試で全国募集を開始した高松北中学校・高校を含む14校が先行してスクール・ポリシーを公開した(図1)。國木健司校長は「本校が積み重ねてきた教育活動を整理しながらスクール・ポリシーを考えた」と振り返る。

「これまでの教育活動を土台に、生徒、保護者、地域が持っている期待や課題などの現状も踏まえてスクール・ポリシーをつくることで、教育活動を再編成し、学校の進化を促進したいと考えました」

生徒の持つ力に目を向け、
理想の学校像を描く

教頭として同校に勤めた経験もある國木校長は、同校赴任歴の長い教師たちの声なども参考に、生徒の現状を整理していった。その際、特に重視したのが「生徒が持つ強み」だった。

学校概要
 設立 1983（昭和58）年
 形態 全日制／普通科／共学
 生徒数 1学年約230人
2021年度入試合格実績（現浪計） 国公立
 大は、北海道大、東京外国語大、京都大、神戸大、
 広島大、香川大、大阪市立大などに44人が合格。
 私立大は、青山学院大、法政大、明治大、同
 志社大、立命館大、龍谷大、関西大、近畿大
 などに延べ299人が合格。



校長
國木健司
 くいき・けんじ
 教職歴36年。同校に赴任し
 て4年目。



進路指導部長
大野郁子
 おの・いくこ
 教職歴31年。同校に赴任し
 て5年目。英語科。



主幹教諭
宮地幸喜
 みやうち・こうき
 教職歴30年。同校に赴任し
 て2年目。国語科。



3年生担任
筒井京
 つつい・けい
 教職歴22年。同校に赴任し
 て12年目。地理歴史・公民科。

「本校には、放課後、学校に残って勉強する生徒がたくさんいます。先生たちも校務の合間に生徒の様子を見に行き、親身に指導するなど、生徒と教師のつながりが

図1 スクール・ポリシー

●このような生徒を求めています。

- 1 主体的な探究・実践意欲にあふれ、高い志をもって積極的に学習に取り組む生徒
- 2 部活動等のすぐれた成果や実績を、入学後もさらに伸ばす意欲のある生徒

●このような学びを行います。

北高独自の5大プロジェクトを中心に、次のような先進的な学びを計画的に行います。

- 1 計画的なグローバル教育を展開し、豊かな国際感覚と高度な英語コミュニケーション能力を育む。
- 2 探究型・課題解決型の教育を展開し、主体的に課題を発見・解決していく探究力・実践力を育む。
- 3 幅広い年齢層との交流行事や国内外への多彩な研修旅行を通して、豊かな人間性や社会性を育む。

●卒業までにこのような生徒を育てます。

幅広い知識と高い学力、課題解決に向けた探究力・実践力を身につけ、グローバルな視野をもって主体的に社会の未来を切り拓く力と心豊かな人間性を備えた次世代社会創生リーダーを育成する。

※学校資料を基に編集部で作成。

とても強い学校です。また、生徒たちは挨拶もしっかりできます。勉強やスポーツに限らず、生徒はいろいろなよさを持つていることに気づいた私は、どんな長所も伸ばせる学校、生徒の夢は全部かなになりました」（國木校長）

図2 指導計画

すべての生徒が輝き未来を創造する / 高松北高校

グローバルな感性と幅広い視野、主体的な行動力・実践力で新たな社会を切り拓く

「次世代社会創生リーダー」を育成

北高独自の5大プロジェクト

<p>キャリア開発プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専大からオンラインで学ぶ「キャリア開発」講座 ○ キャリア教育推進計画で学校の授業 ○ キャリア・イベントによる計画的なキャリア形成 	<p>探究プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専大からオンラインで学ぶ「探究」講座 ○ 探究型授業 ○ 探究型授業 ○ 探究型授業 	<p>グローバル人材育成プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3年間の計画的なグローバル教育 ○ 豊かな国際感覚と高度な英語コミュニケーション能力の育成 ○ 国内外への多彩な研修旅行実施 	<p>探究力育成プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 探究型授業 ○ 探究型授業 ○ 探究型授業 	<p>スーパーアスリート育成プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校独自の体育指導 ○ スポーツによる国際理解 ○ 学校創設での交流
---	--	--	---	--

※学校資料をそのまま掲載。

國木校長は「すべての生徒が輝く、活力にあふれた学校づくりを実現し、次世代の社会を創生する人材を育成する」ことを目指した中高6年間のスクール・ポリシーを策定、さらにキャリア教育、学力育成、グローバル教育、探究学習、そしてアスリート支援と、同

校がこれまで重点的に取り組んできた5つの教育活動を、5大プロジェクトとして再編成した指導計画(図2)を職員会議で提案した。長所や得意分野、そして進路も多様な生徒を多様なコースで育てる本校だからこそ、「すべての生徒が輝く」というフレーズが教師

の共感を呼んだと、同校の卒業生でもある筒井京先生は語る。

「そのフレーズにハッとすると同時に、どうすればそれが実現できるのだろうかと考えました。そして、きつとそれぞれの教師が、得意分野を生かしながら今まで以上に連携し、1人の教師として輝けば、生徒たちはさらに輝くのではないかと思いました」

スクール・ポリシーを通して 教育活動の価値を再考

スクール・ポリシーと指導計画を公開した20年度、その実現に向けて、同校は様々なアクションを起こした。その1つが中学校との連携だ。進路指導部長の大野郁子先生は、「スクール・ポリシーによって、中学校と高校の6年間でどのような生徒を育てるのかの目標合わせができた」と語る。

「中高が連携した早期の大学入試対策として、高校の飛翔コースに接続する『先取りコース』を中学校につくったこともあり、中高の教師がこれまで以上に授業の内

図3 スクール・ポリシーに対するアンケート

「高北スクールミッション達成のための3つのポリシー」について

3月職員会議資料でお示ししました標記のことについて、ご意見等をお願いします。

○アドミッションポリシー（求める生徒像）

保護者や小・中学生にとって
もっと分かりやすい表現に

①の「教育目標を理解する生徒」とすると、北中を志望する小学6年生にはハードルが高いものになると思います。「理解しようとしている」とか「賛同している」とか、もう少し表現をやわらげるのはいかがでしょうか。

○カリキュラムポリシー（教育方針）について

育成を目指す生徒像を伝わりやすく

「自ら困難に立ち向かうたくましい人間」とすると、自ら進んで困難にむかっていくように受け取ります（私自身は）。「困難を乗り越えることができる人間」というような表現に変えるのはいかがでしょうか。

○ディプロマポリシー（卒業時に身に付ける力）について

評価の仕組みづくり
の必要性を確認

幅広い知識や高い学力、探求力や行動力など、基準をどこにもってくるのかなと思います。後々、練っていく話だとは思いますが…

○育てたい「10の資質」について

育成を目指す資質・能力
を現場感覚で問い直す

「論理的・多角的に探求していく力」に多面的という言葉は不要でしょうか。一つの事象に対して、別の面から探求する力も必要かもしれないと思います。

21年3月、職員会議で全教師にスクール・ポリシーに対して改善すべき点がないかを聞くアンケートを実施した。複数の教師がチェックすることで、言葉遣いから育成を目指す資質・能力の設定、さらにはその評価の仕組みまで、様々な観点の意見が挙がった。

※学校資料をそのまま掲載。

容などについて情報を共有する機会が増えました。『北高に行くまでに、この生徒のこんな力を伸ばしてあげたい』といった言葉を、中学校の先生方からよく聞くようになりました」（大野先生）

主幹教諭の宮宇地幸喜先生は、グローバル教育や探究学習が、スクール・ポリシーを実現するためのものとしてつながりを持って理

解できるようになったと語る。

「県内に居住する外国人との交流や、地元企業、商工会などと連携した地域課題研究で、生徒は様々な人たちと接します。そうした活動が表面的なものにとどまらないよう、活動ごとに学年主任が目標を掲げ、それを生徒と共有し、昨年度から活用している『キャリア・パスポート』で振り返りをさ

せています。スクール・ポリシーを土台に各活動の目標を、教師はもちろん、生徒も常に意識することができるようになりました」

「スクール・ポリシーは、各教室に掲示しており、生徒にも浸透していますが、私たち教師も、スクール・ポリシーを意識すること、探究力の土台としての思考力を測るテスト問題の精選など授業

改善につながっています」(大野先生)

部活動のような既存の活動の価値の再確認につながったと、応援部顧問でもある筒井先生は語る。

「スクール・ポリシーにおいて、本校が世界を目指すアスリート为学校全体として支援していることが明示されたことで、応援部の生徒は、自分たちの活動の価値を再確認することができました。また、私自身も、応援部の活動が生徒のどのような資質・能力を高めているのかを改めて考え、それを論文にまとめることができました」

スクール・ポリシーで 校内外がつながっていく

近隣の小・中学校、さらには塾に広報活動を行う際に、同校の教師たちはスクール・ポリシーについて丁寧に説明するようになった。在校生の保護者にもスクール・ポリシーは浸透し、保護者から「子どもには、高校時代に5大プロジェクトにこうかかわらせたい」などと希望を聞くことも増えたと

いう。また、スクール・ポリシーを公開したことで、近隣の大学やNGO、経済団体など、外部組織へも学校としての教育活動の目標が伝えやすくなり、外部連携がスムーズになるというメリットが得られた。既に同校では、5大プロジェクトすべてにおいて、外部組織と継続的な協力を得られるよう、協定を結んだという。

スクール・ポリシーは毎年、アンケート(図3)を通じて見直しを行っている。

「本校が創立時から掲げる信条『人に迷惑をかけない・人を侮辱しない・困難から逃げない』を盛り込んでどうか、課題研究の成果を踏まえた社会貢献の観点を強く打ち出しているか、さらには小・中学生向けにもっと平易な言葉にしてはどうかなど、多くの意見が先生方から集まっています。スクール・ポリシーを軸に、すべての生徒、すべての教師、そして5つのプロジェクトがつながり、輝くことができるように、スクール・ポリシーと教育活動の見直しを続けていきます」(國木校長)

香川県教育委員会に聞く

2021年度 すべての県立高校が スクール・ポリシーを策定

急速な社会の変化、そして、生徒の学びのニーズの多様化などを踏まえ、香川県では2020年3月に「魅力あふれる県立高校推進ビジョン」未来を生きる力を育む 特色ある学びの場をめざして」を策定し、県を挙げて「学校の特色化・魅力化」を進めています。具体的には、すべての県立高校において、「地域課題を題材とした課題解決学習」「多様な国内外の高校、大学、研究機関、企業等との交流」「現代社会の諸課題への主体的な取り組み」を共通して推進。その上で、各学科・課程において特色を生かした教育活動の展開を目指しています。

各県立高校が特色ある教育活動を行う中で、中学生が自らの志望にふさわしい高校を選んでいくためには、各校の教育内容に関する十分な

情報が必要です。そこで、香川県では、今年度、22年度高校入試に向けて県内すべての県立高校が「スクール・ポリシー」を策定し、「どのような生徒を求めているのか」「高校ではどのような学びを行い、どのような資質・能力を育成するのか」「高校卒業時までどのような人物を育てるのか」の3点を具体的に示して周知を図ることにしました。それに先立って、21年度高校入試では、全国からの生徒募集を始めた14の学校・学科が、スクール・ポリシーを発表しました。スクール・ポリシーは、広報面のみならず、入学から卒業までの教育活動における一貫性を強化するという点でも意味があります。そして、自校の強みを再認識した上で、育成を目指す生徒像をどのように実現していくのか、教師が校内で対話していく土壌づくりにつながることが期待されます。

22年度以降、各校には毎年スクール・ポリシーの見直しを求める予定です。目の前の生徒を見つめながら、柔軟に変えていくべきもの、変えてはいけないものを各校で追究する営みが続いていくこととなります。

「お話を聞いた先生 高校教育課課長補佐(兼)主任指導主事 橋本和之先生 / 高校教育課主任指導主事 住野正和先生

本特集テーマ の next

一般財団法人地域・教育魅力化
プラットフォーム 代表理事

岩本 悠 いわもと・ゆう



学生時代にアジア・アフリカ・オセアニアを
流学し、帰国後、20か国・地域を訪問した体
験記、『流学日記』（文芸社）を出版。卒業後、
企業で人材育成や社会貢献事業に携わる一方、
学校の開業教育・キャリア教育にも取り組む。
2006年から島根県立隠岐島前高校の魅力
化事業に、15年から島根県教育魅力化特命官
として高校魅力化に従事。

魅力化の評価を基にした ステークホルダーの対話が、 より実質的で 持続可能な取り組みを築く

スクール・ポリシーの策定を始めたとして、特色化・魅力化に向けた方策を
持続可能な取り組みとするためには、どのような視点を持つことが重要な
のか。特色化・魅力化の先に見える教育の未来とは――。島根県の離島に
ある島根県立隠岐島前高校を中心とした学校と地域の魅力化に取り組み、
現在は全国各地の高校の魅力化を支援する岩本悠氏に話を聞いた。

理想の学校を追究し続ける
終わりなき取り組み

2006年度に始めた島根県立
隠岐島前高校の魅力化事業では、
地域を挙げて人づくりやまちづく
りを推進しました。現在は、島根県
教育魅力化特命官として、魅力あ
る高校づくりの実践を県内全域に

広げること力を入れています。

学校の特色化・魅力化は、突き
詰めると、自校が理想とする学校
像や生徒像を地域とともに考え抜
き、その実現に向けてPDCAサ
イクルを回し続ける、終わりなき
取り組みだと考えます。「どんな生
徒の育成が求められているのか」
「その実現のために、どういった教

育活動が必要なのか」といったこ
とを考え、様々な取り組みを積み
重ねていくうちに、その学校らし
い特色や魅力が芽生える。それが
結果的に、他校との差異になって
いくのではないだろうか。

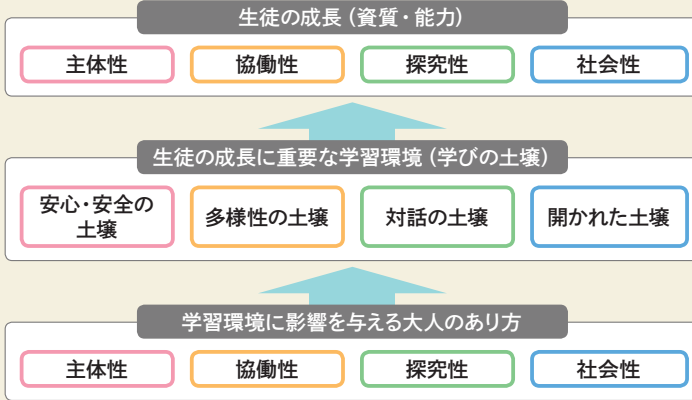
隠岐島前高校の魅力化事業で
は、1年目は学校や自治体、地域
の関係者との関係づくりに徹し、
2年目に1年間をかけて教師や生
徒、保護者と対話を重ね、今と言
うスクール・ポリシーに近い、グ
ランドデザインをつくり上げまし
た。そして、それを基に教育課程
を編成し、島外から入学者を募る
「島留学」や、放課後の学習の場
となる公営塾など、様々な施策に
つなげていきました。

エビデンスに基づく対話が
次のアクションにつながる

PDCAサイクルを回し続ける
ためには、取り組みによって生徒
が成長したかどうかを検証する評
価が必要です。そこで、外部機関
との連携により、魅力化事業の成
果を評価する「高校魅力化評価シ

図1 「高校魅力化評価システム」の概要

- 調査方法 生徒及び取り組みにかかわる大人を対象にアンケート調査を実施
- 調査項目



● 評価システムの活用場面

- 職員会議 高校の魅力化に関する現状・目標・ビジョンを共有するために。
- 学年会議 学校目標、学年目標、クラス目標などを検討するために。
- 地域との協働の場 魅力化にかかわる自らのあり方を振り返るきっかけに。
- 教育委員会 施策のPDCAサイクルの推進や成果の可視化、学校現場の支援のために。

※岩本氏提供資料を基に編集部で作成。

「高校魅力化評価システム」の詳細については、「高校魅力化プラットフォーム」のウェブサイト参照。https://cn-miryokuka.jp/project/project04/

システム」を開発しました。生徒の意識や行動は、教育活動だけでなく、教師を始めとする大人の考え方や行動様式、学習環境など、いわゆるヒドゥン・カリキュラム（隠れたカリキュラム）からも大きな影響を受けます。そこで、本評価システムでは、生徒の成長に加えて、生徒の成長にかかわる学習環境や大人のあり方も評価対

象にしました（図1）。そして、評価の結果を次の活動に生かすため、生徒や教師、地域住民とエビデンスを基に対話することを大切にしました。例えば、「生徒の主体的に学習に取り組む態度は育ちつつあるが、社会参画の意識がまだ弱い」という声が入れば、社会に開かれた教育環境づくりに力を入れよう」といった声対話の中で多

く上がったことを受けて、グラウンドデザインを見直し、具体的な改善策を検討した学校もあります。そうした対話は、教師を始めとする関係者間の温度差の解消にもつながります。特色化・魅力化の取り組みは、一部の熱心な教師が主導する形がちです。しかし、教師であれ地域住民であれ、特色・魅力ある教育活動がもたらす目の前の生徒の変容を可視化して対話を重ねることで、スクール・ポリシーに掲げられた生徒像や教育方針と生徒の実態がしっかり結びつけば、生徒の成長にかかわる1人として当事者意識が醸成されていきます。そのようにしてステークホルダー同士の連携を深めていくことは、取り組みの持続可能性を高めるためにも欠かせません。また、取り組みの継続には一定の予算も必要で、その獲得のためにもエビデンスは重要です。教育委員会や学校の予算の範囲内だけで進めようとすると限界がありま

取り組みの推進に不可欠な教師の3つの力

特色化・魅力化の推進には、教師が次の3つの力を持つことも重要だと考えています。1つめは、学びの場やプロセスを整えて主体的・対話的で深い学びを引き出す「ファシリテート」、2つめは、教室外の多様な教育資源を生徒の学びにつなぐ「コーディネート」、3つめは、限られたリソースを生かして学びの価値を生み出す「マネジメント」です。それらの力は、知識を習得すれば発揮できるものではなく、非認知的な能力が求められます。そのため、私たちが企画する教員研修は、参加者自身が課題を見つけて目標を設定し、講師に伴走支援を受けながら探究するPBL（*）型にしています。教師自身が講師からファシリテートなどを受けながら、気づきを得たり、失敗したりする中で、生徒の学びをどう支援すればよいのかを体験的に学ぶことができます。また、研修の参加者を教師に限

* Problem Based Learning、あるいは Project Based Learning の略。

定する閉じた環境では、新たな発想は生まれにくい。そのため、研修を外部に開いて校外の人を招くことも大切にしてきました。

そして、それら3つの力を1人の教師がすべて高いレベルで備えることは容易ではありません。多様な教師がそれぞれの個性や強みを生かし、連携することも、今後一層求められると思います。

多彩な選択肢を用意して 個別最適な学びの実現へ

これからの時代に生徒に求められる資質・能力の育成を考えると、複数の学校や地域をまたぐ取り組みも重要になると考えます。現在は、各校が個別に特色化・魅力化を推進していますが、学校単位のスクール・ポリシーは、計画的、連続的、効率的な教育課程に基づいており、それらは言わば、学校最適な発想です。そうしたポリシーは、生徒一人ひとりにとって最適であるとは限りません。

コロナ禍に象徴されるように、この先、生徒は非連続な社会を生

きていかなければなりません。そのために必要な資質・能力を効果的に育成する可能性を秘める教育の1つが、異なる環境や文化の中で学ぶ「越境」だと考えます。

私が代表理事を務める「地域・教育魅力化プラットフォーム」では、他地域の高校に1年間国内留学できる「地域みらい留学（高2留学）」という仕組みを構築しました。越境して非連続な学びに身を投じ、自らの力で学びをつくり出す中で、予測が困難な社会に対応できる資質・能力が育まれていきます。

今後、各校の特色化・魅力化が進めば、生徒一人ひとりの資質・能力や志向に応じた多彩な学びの選択が可能となるため、越境する学びが大きな意味を持ちます。各校の特色化・魅力化の先には、生徒が自らのカリキュラムをマネジメントし、個別最適な学びを形づくる教育が見えてくるはず。そうした教育が実現した時に、学校や教師には生徒の個別最適な学びを支える伴走的な役割も求められるでしょう。

イベントのご案内

VIEWnext PRESENTS

2021年
8月2日(月)
オンラインで
開催!

本誌特集テーマとも連動!

自校の研修・会議に使える!

対話促進スキル向上・オンライン講座

主な講師・ファシリテーター



一般財団法人地域・教育
魅力化プラットフォーム
代表理事

岩本 悠

© 2006年から島根県立隠岐島前高校の魅力化事業に、15年から島根県教育魅力化特命官として高校魅力化に従事。

答えが1つではない問いに向き合うことが求められる現代。学校における研修や会議においても、参加者が互いの考えや思いを共有する「対話」の重要性が高まっています。今号から、対話型の研修や会議を実現するために必要な対話促進スキルの向上を目的としたオンライン講座を、特集のテーマと連動させる形で開催します。今回の講師は、全国各地の学校の魅力化を支援する中で、これまで対話型のワークショップやフォーラムを開催されてきた、岩本悠氏です。岩本氏と編集部が、今号の特集について解説した上で、岩本氏に、対話に有効なツールや心構えなどをお話しいたします。

開催日時 2021年8月2日(月) 16時00分～17時10分

形式 オンライン(ライブ配信) ※お申し込みいただいた方に、詳しい参加方法をご案内します。

参加申し込み方法 右の2次元コード、または下記 URL から登録してください。

<https://enquete.benesse.ne.jp/forms/o/we7fd569f5/form.php>

参加申し込み締め切り 2021年7月28日(水) 参加費 無料



For School Section

学校改革や組織運営に役立つ
事例や情報を、
先生方の思いを乗せてお届けする

P.26

新課程に向けて描く 「学校教育デザイン」

新課程で求められるカリキュラム・マネジメントの
視点での学校づくりとは？

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

進路担当

大分県立大分雄城台高校

単元配列表と単元デザインシートを通じて、
資質・能力の視点での授業を实践

P.30

一疑問や課題を解決！実践につながる！ 新課程レポート

新課程初年度に向けた自校の計画・実践に
つながる事例や解説記事を提供

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

秋田県立湯沢高校

資質・能力ベースの授業改善
科目別ルーブリックを授業に落とし込み、
教師の指導、生徒の学びの質を高める

P.34

指導変革の軌跡

その時、教師は何を考え、どう動いたか。
学校改革の過程を当事者の言葉で追う

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

進路担当

福岡県立戸畑高校

組織的な生徒理解と指導
緊密な生徒情報の共有と探究学習を始めとする
活躍の場の充実により、生徒の潜在能力を引き出す

P.38

輝く 学年団を訪ねて

学年経営に悩む先生方に！
チームづくりの秘訣を掘り下げる

お勧めの分掌 ▶

学年団

担任

岡山県立岡山工業高校 3学年団

専門科の垣根を超えた
横のつながりを強化し、生徒を見守る

P.42

学校 危機管理 基礎講座

お勧めの分掌 ▶

管理職

いざという時の対応は平時の準備で決まる。学校危機管理の専門家が解説

保護者対応

新課程に向けて描く

「学校教育デザイン」

単元配列表と単元デザインシートを通じて、 資質・能力の視点での授業を実践

大分県立大分雄城台高校

アウトライン

単元ごとに育成を目指す資質・能力を明確化



教科学習と社会とのつながりを
生徒に実感させたい

2020年度、大分県立大分雄城台高校は、国立教育政策研究所から教育課程研究指定(*1)を受け、持続可能な社会の実現を目指して行うESD(*2)を軸とした、教科横断による資質・能力の育成に取り組み始めた。かつて同校に12年間勤務し、19年度に再赴任した堤荘司教頭は、その背景を次のように語る。

「本校の校訓は『誠実・自主・創造』です。部活動による文武両道の精神が根つき、真面目で素直な生徒が多く、『誠実』は達成しています。一方で、自ら考え、問題に

向き合う力が弱く、『自主・創造』に課題がありました。例えば、大分県『学習習慣等実態調査』では、学習の意義や疑問点の解決などの項目(*3)の肯定率が他の普通科高校に比べて低い状況でした」

そこで、ESDで求められる資質・能力の育成を教科指導の軸とし、生徒に教科学習で培ったことが社会でどう役立つのかを実感させることで、主体的に学習に取り組む態度を強化しようと考えた。

3年間にける資質・能力の 育成計画を単元配列表で示す

まず、学校教育目標である『誠実・自主・創造』の校訓の下、社

会において遅く生き抜き、社会貢献できる生徒の育成」の具体化・共有化を図るために、育成を目指す資質・能力を明確にした。「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(例)」を基に、自校で育成を目指す資質・能力を「情報整理力・課題解決力・発信力・協働・自他の尊重・チャレンジ精神」の6つに整理し、それぞれの到達度を5段階で設定したルーブリックを作成した。

6つの資質・能力と、各教科・科目、及び「総合的な探究の時間」(以下、総合探究)の学習とのつながりを示したのが、20年度に作成に着手した単元配列表と単元デザインシートだ。

*1 「ESDを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究」。 *2 Education for Sustainable Developmentの略。「持続可能な開発のための教育」と訳される。環境、貧困、人権、平和、開発などの地球規模の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことや、それによって持続可能な社会を創造していく姿勢の育成を目指す学習や活動のこと。

SCHOOL PROFILE

設立 1973 (昭和 48) 年
形態 全日制／普通科／共学
生徒数 1学年約 240 人



2021年度入試合格実績 (現浪計)

国立大は、広島大、山口大、九州大、佐賀大、熊本大、大分大、宮崎大、鹿児島大、大阪市立大、北九州市立大、大分県立看護科学大などに 96 人が合格。私立大は、立命館大、近畿大、関西学院大、西南学院大、福岡大、立命館アジア太平洋大などに延べ 230 人が合格。

図1 単元配列表 (抜粋)

国語	国語総合	4	5	6	7
		小説「旅する力」	小説「羅生門」	評論「サイボーグとヒューマン人間」	
		随想「旅する力」 随想を読んで 他者の物の見方や感じ方を理解し、自分の考えを広げる。	登場人物の心理や行動の意図を、表現に即して的確に読み取り、自己の生き方を考える。	対比に着目し、筆者の主張を読み取り、物事を多角的に物事を見つめる。	
		資質・能力 A 情報整理力 B 協働 C 主体的な学び	情報整理力 D 読解力 E 協働 F 主体的な学び	情報整理力 G 読解力 H 協働 I 主体的な学び	情報整理力 J 読解力 K 協働 L 主体的な学び
公民	現代社会	4	5	6	7
		古文「学治拾遺物語」	古文「十訓抄」	漢文「故事成語」	古文「徒然草」
		古文を語る基礎を学び、古典への興味を広げる。	登場人物の心情を表現に即して読み味わう。	漢文を読む基礎を学び、示唆に富む内容を読み味わい、故事成語への理解を深める。	随筆の内容を理解して、人間・社会などに対する作者の思想や感情を読み取り、自分に引きつけて考える。
		情報整理力 A 読解力 B 協働 C 主体的な学び	情報整理力 D 読解力 E 協働 F 主体的な学び	情報整理力 G 読解力 H 協働 I 主体的な学び	読解力 J 読解力 K 協働 L 主体的な学び
数学	現代社会	4	5	6	7
		現代社会の諸課題	現代国家と民主政治	平和主義をめぐる問題を、法や規範に基づいて各個人を通して、権利や自由が保障	
		社会的な見方・考え方を働かせ、社会の課題を適切に捉え、効果的な取り組みや対策を分析・表現で	民主政治のあり方を理解する。 各国の政治体制の違いをまとめる。	平和主義をめぐる問題を、法や規範に基づいて各個人を通して、権利や自由が保障	
		読解力 A 読解力 B 協働 C 主体的な学び	読解力 D 読解力 E 協働 F 主体的な学び	読解力 G 読解力 H 協働 I 主体的な学び	読解力 J 読解力 K 協働 L 主体的な学び

6つの資質・能力について、「情報整理力」は紫、「協働」は赤などと色分けし、単元ごとに6つのうちのどの資質・能力の育成を目指すのか、ひと目で分かるようにした。
 ※学校資料を抜粋して掲載。単元配列表は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp/>) からダウンロードできます。「HOME→教育情報→高校向け」をご覧ください。

図2 単元デザインシート (国語科 現代文B)

国語科 (現代文B) 単元デザインシート

単元名: 評論『『である』ことと『する』こと』を読んで論理性を評価することを通して自分の考えを深める。

単元目標: 文章を読んで批評することを通して社会について自分の考えを深めようとする。【関心・意欲・態度】
 単元の内容を現代の自分に関連づけて自らの社会観を深めたい見聞させたりする。【読む能力】

学習課題 (主たる問い):

- 情報整理力
- 読解力
- 協働
- 主体的な学び
- 読解力

身につけたい資質・能力

- 文章の構成や展開を読み取る。
- 接続詞や指示語、具体例などに注意し、キーワードやキーセンテンスを抜き出す。
- 本文構図図を書く。

身についた力を見取るための課題

- ペアやグループで文章の構成や展開について話し合い、問いに対する考えをまとめる。
- ペアワークやバスセッションを行い、相手を示しながら考察する。
- 考えた内容を短い文章にまとめる。
- 知識構成型ジグソー法を用いて、他の文章を読んで複合的に考察点について考察する。
- グループごとの意見交換をし、個人の考えをまとめる。
- 話し合った内容を基に、課題に対する意見を800字で論述する。
 「『価値の再転倒』のためには、どのように思考し、行動すべきか?」

課題の評価基準

【評価基準 (ルーブリック)】
 A: 筆者の主張を正確に捉えたとうえで、現代日本の問題を本文の内容に即して具体的に述べている。
 B: 筆者の主張を捉えたとうえで、現代日本の問題を本文の内容に即して述べている。
 C: 本文の内容を踏まえ、現代日本の問題を述べている。

※学校資料をそのまま掲載。

* 3 「授業に積極的に取り組むことができているか?」「目的や自分の課題を明確にして授業に参加しているか?」「授業などの学習を通じて生じた疑問点を自分で調べたり、教員や友人に聞いて解決しようとしたりしているか?」の3項目。

単元配列表は、総合探究も含む全教科・科目について、3年間の単元の配置を一覧表にしたものだ。単元ごとに、学習材と、育成を目指す資質・能力を示すとともに、6つの資質・能力を色分けし、その単元で特に重視する資質・能力を明記した(図1枠A)。いつ、何の単元で、どの資質・能力を育成するのか、全教科を通して6つ

の資質・能力をバランスよく育むカリキュラムになっているかをひと目で把握できるようにした。単元配列表の作成は、20年4月、各教科担当に依頼。8月には、各教科の試案に対して気づいたことを出し合う全体研修を実施した。そこでの意見を踏まえて、12月までに練り直し、21年1月の全体研修で現在の形になった。

**単元デザインシートで
目標、指導、評価を一体化**

単元デザインシートは、単元目標と学習課題、評価基準などを示したものだ(図2)。20年4月から、単元配列表の作成と同時に、宇佐美悦子先生(現・大分県立大分西高校)と小野裕史先生(現・同鶴崎工業高校)が主導し、各教科・科目

で1学期の授業分から作成した。

資質・能力の育成を意識した授業づくりができるよう、その単元で育成を目指す資質・能力に○をつけ、単元名は、コンテンツ名だけでなく、育成を目指す資質・能力で記すように工夫した。例えば、「現代文B」の評論では、単元名を「評論『である』ことと「すること」を読んで論理性を評価すること」を通して自分の考えを深める」とし、「身についた力を見取るための課題」と「課題の評価基準」も明記した。

単元デザインシートは、教科内の教師だけでなく、生徒とも共有し、生徒が見通しを持って授業に臨めるようにした。主幹教諭の岩田友佳子先生は、次のように説明する。

「以前から、授業では単元目標を示し、授業後の振り返りを行っていました。今回、育成を目指す資質・能力と、その到達度を測る課題を明示したことで、何を学習目標とし、どのように振り返って、次の単元につなげるのかがより明確になり、目標、指導、評価の一体化を図ることができました」

自分の希望進路と結びつけた探究テーマを設定

総合探究では、20年度から「OGI学プロジェクト」(*4)を開始した。1年次は、「探究ナビ」(*5)を用いて身近な問題解決から探究の基礎を学んだ上で、「住みたくなるまちづくり」をテーマに探究学習を実施。2年次は、キャリア形成を見据えて、興味・関心とSDGs(*6)、希望進路を重ね合わせて生徒自身がテーマを設定して探究する。21年3月には1・2年生の成果発表会を実施した。

「今まで生徒大会などの場面で積極的な発言に乏しかった生徒たちが、成果発表会では活発に発言していました。中には、2年生に『こうした方がもっとよくなるのではないか』といった建設的な提案をする1年生もいました。さらに、生徒からは、『発表を聞いて、授業での学びが探究学習に役立つことを実感できた』という声が聞かれました。私たちの期待をはるかに上回る生徒の成長に、驚きと感動がありました」(岩田先生)

ブレイクスルー

生徒の変化で改革の成功を確信

資質・能力で授業を捉える視点を教科・科目を超えて指摘し合う

堤教頭が最初にESDを提案した際、教師からは戸惑いの声が上がった。現在はSTEAM(*7)教育主任として改革を牽引する大塚孝一郎先生もその1人だった。

「資質・能力ベースの取り組みがESDの推進に重要であることは理解できましたが、全体像をうまくイメージできず、漠然とした負担感を覚えました」

そうした中、8月の全体研修で、単元配列表の試案を教科・科目を超えて議論したことが転換点になったと、大塚先生は振り返る。

「担当する地理歴史・公民科では、知識の習得が大事だと考え、当初、コンテンツベースで単元名を示していました。しかし、研修

で他教科の教師から指摘を受けて、知識を使って何ができるのかというところまで考えなければ資質・能力ベースの授業にならないことが分かりました」

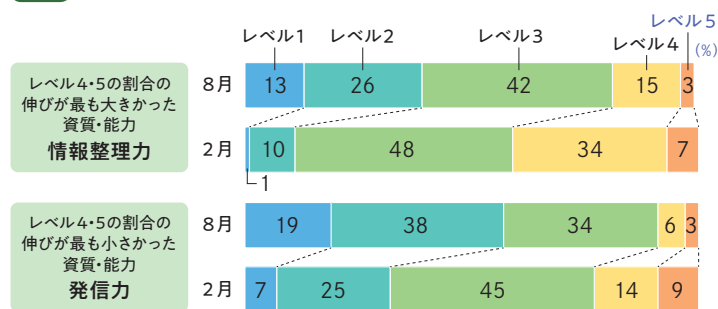
そうして浮き彫りになった課題を踏まえ、単元名は、何ができるようになるかを生徒が理解できる文言にする点を共有し、資質・能力ベースの授業への共通理解を深めたことが、取り組みを大きく前進させた。成果発表会で生徒から、教科学習と総合探究とのつながりを実感したという声が上がったのは、そうした教師の意識の変化が授業に反映されていたからだろう。

また、生徒は、SDGsを意識した発言を日常的にするようになった。例えば、美化・図書などの委員会ごとに活動内容とSDGs

*4 「大分から世界への創造的なひらめきを学ぶプロジェクト」という意味を込め、「Oita Global Inspiration」の頭文字を取って、「OGI学プロジェクト」と名づけた。
*5 ベネッセの教材の1つで、実社会で必要な力を身につけるための探究実践のワザとコツが分かる教材。 *6 Sustainable Development Goalsの略。
2015年に国連が掲げた、持続可能な開発目標のこと。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17の目標と169のターゲットから成る。 *7 Science、Technology、Engineering、Arts、Mathematicsの頭文字で、科学・技術・工学・芸術を始めとする文化的教養・数学に重点を置いた教育や、人材育成のこと。



図3 6つの資質・能力の2020年度2年生の自己評価(抜粋)



レベルは、ルーブリックで示した5段階の到達度のこと。※学校資料を基に編集部で作成。

アップグレード

単元配列表と観点別学習状況の評価の連動を図る

とのかかわりを示した一覧表を作り、SDGsの啓発に努めている。「3年生になり、大学の志望理由や入試に向けた小論文で書く内容などにESDの影響が表れてくれば、さらに多くの先生方が取り組みの成功を確信するでしょう。新学習指導要領が実施される際、好スタートが切れる自信を持ってました」(大塚先生)

生徒の自己評価を年2回実施し、指導改善に生かす

同校では、育成を目指す6つの資質・能力を生徒が自己評価する機会を年2回設け、その結果を基に指導改善を進めている。20年度の2年生では、6つの資質・能力のいずれも、2回目の方が自己評価は高かった。ただし、課題解決力と発信力は、他の4つよりも評価が低く、生徒が課題として認識していることが分かった(図3)。「取り組みの改善を図るためにはエビデンスが必要です。結果が数値で示されることは、プレッシャーにもモチベーションにもなりません。期待した結果が出なくても、次のアクションにつながるのには確かなので、データから目を

背けず、改善に生かしていきたいと思えます」(大塚先生)

今後の課題は、22年1月までに、すべての単元デザインシートを完成させることだ。普段から資質・能力の育成を意識した授業を行う

ためにも、一通り作成し、教科内はもちろん、生徒と共有することが重要だと捉えている。また、単元配列表においては、

育成を目指す資質・能力に偏りがなにか見直し、単元ごとに行う観点別学習状況の評価の結果がひと目で分かる書式に整える予定だ。

「新学習指導要領で実施が求められる観点別学習状況の評価を単元ごとに行うことができるようにすることが次の目標です。研究指定が終わる21年度末までに、しっかりと取り組んでいきます」(堤教頭)



教頭
堤 荘司
つつみ・しょうじ

教職歴33年。同校に赴任して3年目。



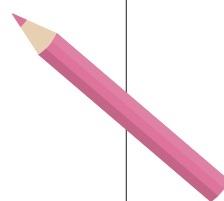
主幹教諭
岩田友佳子
いわた・ゆかこ

教職歴31年。同校に赴任して6年目。国語科。



STEAM 教育主任
大塚孝一郎
おおつか・こういちろう

教職歴27年。同校に赴任して3年目。地理歴史・公民科(世界史)。



新学習指導要領の実施が2022年度に迫る中、21年度は、新課程に向けた計画とその実践を通じた授業と評価の改善が求められる。新課程初年度に向け、実践事例や解説記事により現場の疑問や課題を解決し、自校の計画・実践につながる情報を提供する。

— 疑問や課題を解決！実践につながる！ —

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

テーマ

資質・能力ベースの授業改善

実践レポート

科目別ルーブリックを授業に落とし込み、
教師の指導、生徒の学びの質を高める

秋田県立湯沢高校

本誌4月号より取材を続ける秋田県立湯沢高校では、2019年度から全教師が一丸となって教育改革に着手している。現在は、育成を目指す資質・能力（「湯高力」）の科目別の到達度を示すルーブリックを作成し、22年度からの新教育課程に向けた授業改善を推進中だ。今号では、具体的な授業改善の状況を聞いた。

Q1 育成を目指す資質・能力を
どのように授業で育むのか

A1 学校全体で検討した育成を目指す資質・能力の到達度を
示す科目別のルーブリックを教科団で作成し、それらを
基に各教師が授業改善を図る

全員で作った「湯高力」を
教科団でブレークダウン

平田恵子先生（1学年主任）

本校では、育成を目指す8つの資質・能力を「湯高力」と呼んでいます（本誌2021年4月号P.

27。「習得↓利用↓活用」の3段階で表される「湯高力」のルーブリックを、各教科団で話し合いながら教科・科目別に作成しました（図1）。
実際に科目別のルーブリックを作成してみると、科目によって発

揮する場面がイメージしにくい資質・能力があることが分かりました。例えば、国語科では「課題対応能力」「公共心」は、授業の中で発揮する場面をどのようにつくればよいかイメージしにくい資質・能力でした。しかし、ほかの教科団の先生方と話をしてみると、国語科ではイメージしにくかった資質・能力が、ほかの教科や学校行事等の特別活動では、発揮する場面が容易にイメージできることが分かりました。そのことで、「湯高力」は3年間を通じて、様々な教科・科目の中で総合的に

設立 1943（昭和18）年
形態 全日制／普通科・理数科／共学
生徒数 1学年約175人

2021年度入試合格実績（現浪計）

国公立大は、弘前大、東北大、秋田大、福島大、一橋大、新潟大などに70人が合格。私立大は、岩手医科大、東京理科大、日本体育大、同志社大などに延べ171人が合格。

図1 「湯高力」の到達度を示す科目別ルーブリック (『国語総合』)

科目		国語総合【現代文・古典】		授業時数	週5単位
目標		国語を的確に理解する能力を育成し、適切な表現を通して伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばし、言語文化に対する関心を深める態度を身につける。			
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性		
湯高力	【知識・技能】	【課題対応能力】【論理的思考力】 【対話力】	【協働力】【自己管理能力】 【前向きにやり続ける力】【公共心】		
活用の （使える）	●読解力と読解のための技法を使い、複雑な論理展開ができる。また、抽象度の高い語彙や表現を使いこなすことができる。 ●古典の読解を通して古代の知恵を自己のものにし、他の古典作品の読解に役立てることができる。	●複雑な論理展開や複雑な表現を分析して、わかりやすく説明したり、自らの考えを論理的に表現したりできる。 ●他作品と比較しながら、その作品の特色をつかむことができる。	●広く社会に目を向け、現象から原理を導き出したり、因果関係を導き出したりする主体性や探究心を身に付けている。 ●古代の人の知恵を自己のものにし、現代の社会や人の在り方について探究しようとする力を身に付けている。		
学びの 段階 利用 （できる）	●論理の構成や表現技法を理解し、論理的な文章や文章作品を捉まることができる。また、自分の考えを表現することができる。 ●古典や古典文法、古典の背景を踏まえて古典作品を理解することができる。	●論理の展開や表現技法を把握しつつ、文章の主題を的確に捉え、表現することができる。 ●既習作品の内容を踏まえ、他の古典作品を読むことができる。	●論理的・論理的に、自分の考えを他者と伝え合うとする力を身に付けている。 ●古典作品を自ら手に取り、古代人の知恵や歴史を眺めようとする力を身に付けている。		
習得 （わかる）	●語句の意味や基本的な文法の意味を正確に理解したうえで、「話す・聞く・読む・書く」ができる。 ●古代の語句や基本的な文法を理解し、古典を読むことができる。	●基礎的な読解力・文法力に基づき筋道を立てて考え、それを表現することができる。 ●基本的な読解力・文法力に基づき、文脈を捉えながら内容を捉えることができる。	●積極的に読解力を高め、話し・聞き・読み・書き、言語技法を豊かにしようとする態度を身に付けている。 ●古典の世界に関心をもち、文学作品に傾くという態度を身に付けている。		
	・授業時の観察	・授業時の観察	・授業時の姿勢や発声		



平田先生

科目別のルーブリックは同じフォーマットを使い、各教科で話し合って作成しました。教科によって進捗に差はありましたが、「湯高力」を科目の特性を踏まえて評価の3観点に振り分けていく際に、しっかりこないこともありましたが、ほかの科目のルーブリックを見ることで、資質・能力のすべてを自分たちの科目だけで育成するわけではないことを、実感を持って理解できました。また、他科目のルーブリックの記述で参考になる部分を取り入れることもできました。

育むものであり、すべての資質・能力を1つの科目で無理に育成する必要はないのだと気づきました。
小松弘樹校長 平田先生が例に挙げた「課題対応能力」は、授業で学んだことを生かして具体的な課題に取り組む際に特に発揮される

資質・能力です。したがって、1つの科目の授業の枠の中にとどまらず、他教科や探究学習、特別活動など、ほかの教育活動と結びつけて発揮していく方が自然です。そのように、ある科目では育成が難しい資質・能力があった時、そもそも私たちが育てようとしてい

「湯高力」の観点で、授業・家庭学習・定期考査を見直す
平田先生 国語の授業の冒頭では、私は本時の目標として、特に育成を目指す資質・能力を、黒板のマグネットシートを使って生徒に提示しています。また、予習・復習のプリントでは、発揮することが求められる資質・能力を単元や設問ごとに明記しています(P.32写真)。

32写真。こうした取り組みは国語以外の教科でも行われています。授業やプリントで「湯高力」を提示する中で、自分の授業での活動の偏りに気がつくことがあります。また、定期考査の問題も、「湯高力」の観点で見直すことで、知識・技能を問う問題が多くなっていくことに気づき、学力の3要素のバランスをより意識した作問を行うようになりました。

A₂ Q₂

科目別のルーブリックを作成することで、授業は具体的にどのようなように変わるのか

授業のねらいを教師と生徒が共有でき、ねらいに適した指導法や学習場面をデザインできるようになった

るのはどのような生徒なのかを考
えれば、自教科の授業実践にとど
まらず、ほかの教科・科目との連
携にもつなげることができま
す。重要なのは、ルーブリックを作る
ことではなく、そもそも私たちは

どんな生徒を育てようとしている
のか、授業はその目的に見合った
ものなのかを振り返り、「湯高力」
や科目別のルーブリックも柔軟に
見直していくことです。

そもそも以前は、定期考査の範囲を念頭に置いた進度重視で、ややもすると、目標が不明瞭な授業をしていたように思います。しかし、「湯高力」を生徒に提示することで、進度以上に発問の内容や活動ごとの時間配分、授業と家庭学習の役割分担に気を配るようになりました。具体的には、知識・技能の育成が目的のものは家庭学習とし、授業で取り組むべきことを厳選することで、結果的に単元ごとの進度も今までより速くなりました。

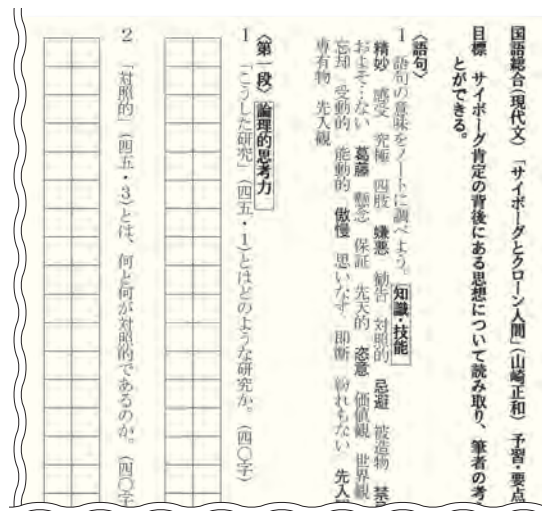
私の授業観が変化したことで、少しずつ生徒の意識も変わってきました。例えば、湯高力に関する生徒向けのアンケート結果を分析すると、2021年度の2年生は「うまくいくかどうか分からない状況でも問題に取り組んでみよう」という項目において、1年前と比較して意識の高まりが見られました。それは、「湯高力」の1つである「前向きにやり遂げる力」を掲げながら、私たちが授業や「総合的な探究の時間」の中で「失敗しても大丈夫」「状況を丁寧に分析すれば解決策は見つかる」

と、何度も声かけしたことが影響していると思います。生徒に、「こくなつてほしい」と繰り返し言葉をかけることで、生徒の意識は大きく変わります。

研究授業が「湯高力」の浸透の鍵

平田先生 科目別のルーブリックを絵に描いた餅で終わらせず、日々の授業に生かせるようになったのは、研究授業が要因の1つだと思います。科目別のルーブリックを作成した19年度、本校では、高校教育課の指導主事を迎えた研究授業、秋田県から指定を受けた探究活動等実践モデル校の公開授業、さらには、校内で定期的に実施している互見授業で、「湯高力」を踏まえた授業改善にチャレンジしました。実際に授業を行ったのは数名の教師ですが、指導案は教科団で作成し、授業後の振り返りには全校教師が参加しました。授業のねらいを資質・能力ベースで意識することの大切さは、そうした一連の取り組みの中で全員が理

写真 「湯高力」の育成に向けた実践



平田先生

授業やプリントなどで「湯高力」を明示して、「何を指した学びなのか」を生徒と共有するようになって、今までの自分の授業は、定期考査の範囲をこなすことを優先したものになっていたのかもしれないと、課題意識を持つようになりました。生徒が8つの資質・能力「湯高力」を意識しながら学ぶようになったからこそ、「湯高力」の何がどれだけ向上したのか、それが評定にどう結びついているのか、生徒が把握できる仕組み作りが必要になっています。

解できたと思います。育成を目指す資質・能力を授業に落とし込む大切さは、本校では周知のものとなっていますが、「湯高力」を活用した多面的な評価のあり方と評価方法の理解が今年度の課題です。既に定期考査などでは、「湯高力」との紐づけが始まっていますが、それを評定にどう結びつけるのか、教科ごとに検討を

している段階です。「湯高力」を踏まえて3つの観点で評定をつける際、「AAAなら4以上」「BBなら3」「思考・判断・表現は、『湯高力』の重点領域だから、それがBなら4とする」などと、評定の基準や定義を、まずは1学期中に各教科で話し合い、たたき台をつくることにしています。

Q3

教科を超えた「湯高力」育成の取り組みなど、今後の展望は？

A3

教科・分掌の垣根を超えた「教師にとっての学び」を生む校内環境をつくる

パラダイム転換を起こしやすい環境づくりを

小松校長 本校の先生方は今、「ルーブリックがなくても授業はできたけれど、ルーブリックがあることで、育てたい資質・能力を意識し、授業をブラッシュアップしていくことができる」ということを身をもって理解している段階です。先日は、「総合的な探究の時間」や学校行事にも「湯高力」のルーブリックを活用することができないか話し合いました。

教師が、「1年間の探究学習でどのような資質・能力を身につけるのか」「これから取り組む行事でどんな力を伸ばすのか」といったことを語ることは、生徒にとつ

ては「今、自分がここにいる理由」につながります。生徒の取り組みの姿勢はもちろん、教師の指導のあり方も変わっていくでしょう。学校改革を進める上で、今後も大切にしていきたいと考えているのは、先生方に「改革のレーン」は1本ではない」ことを示し続けることです。「湯高力」を評価・評定にどうつなげていくか、今、各教科で検討が行われていますが、論点や検討の進捗は様々ではありません。しかし、私はその「違い」が重要だと思っています。学校としての指針・方針を共有しながら、教科や分掌の特性を踏まえて、それぞれの考え、ペースで検討しながら、ほかの教科や分掌の考えからも学び、納得できれば自分たち

の考えを大きく転換する。言わば校内で小さなパラダイム転換が起きやすくなるような環境をつくるのが私の役割です。そのために、例えば、1学年団と進路の先生方に1つのテーマについて一緒に取り組んでもらうなど、意図的に複数の教科同士、分掌同士を結びつけるようにしています。

私は、よく先生方に「私を疑ってくださいね」と言います。学校改革にはこうすればうまくいくという正解はないからです。今後も、先生方と対話的に改革に取り組んでいきたいと思っています。



校長
小松弘樹
こまつ・ひろき
教職歴36年。同校に赴任して2年目。



1学年主任
平田恵子
ひらた・けいこ
教職歴18年。同校に赴任して4年目。国語科。

新課程に関する情報は、
『ハイスクールオンライン』でお届けします！



事例・解説

- 全国の学校の指導事例を紹介
- 過去のオンラインセミナーのアーカイブ動画・資料も掲載



動画解説

- 有識者による新課程の動画解説も満載

福岡県立戸畑高校

組織的な生徒理解と指導

緊密な生徒情報の共有と探究学習を始めとする活躍の場の充実により、生徒の潜在能力を引き出す



学校概要

- ◎設立 1936 (昭和11) 年
- ◎形態 全日制／普通科／共学
- ◎生徒数 1学年約240人
- ◎2021年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、岡山大、広島大、九州工業大、九州大、熊本大、北九州市立大などに121人が合格。私立大は、青山学院大、東京理科大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、近畿大、関西学院大、産業医科大などに延べ256人が合格。

変革の背景

生徒が社会課題に目を向け、主体性を発揮するきっかけをつくる

「自主・調和」の校訓の下、「たくましく心豊かな創造者を育成する」を教育目標に掲げる福岡県立戸畑高校。盛んな部活動や、生徒主体で進められる戸高祭(文化祭)、体育祭などの学校行事が、地域から高く評価されてきた。そうした同校の生徒の、近年の変化について、3学年主任の久保紀美恵先生は次のように説明する。

「本校の生徒は真面目かつ素直で、潜在能力も高いと思います。ただ最近、進路選択に

おいてもっと大きな夢を描けばよいのにも思いうちもあります。高い目標を目指す力があるのに、『自宅から通える国公立大学に合格できれば十分です』といった言葉を生徒から聞くと、もったいないと思います」

進路指導課長の百瀬博先生は、大きな夢を描く力には、社会に対する視野の広がりに関係しているのではないかと指摘する。

「生徒は、スマートフォンで自分の関心のある情報だけを得て、保護者とテレビのニュースや新聞記事を見て話をする機会も減っているように思います。世の中で今、何が問題になっているのかが分からないため、『社会のこの問題の解決に貢献できるよう、この学問を学びたい。だから、この進路を目

指そう』といった大志を持ちにくく、安易に進路を選びがちなのかもしれません」

生徒の社会課題に対する視野を広げたいため、久保先生は、生徒に関心を持ってほしいと思った出来事やキーワードを自身のコメントとともに紹介する(写真1)など、個々の教師が自分のできることをしてきた。だが、ここ数年、進学校での指導経験がない教師や若手の教師の割合が高くなり、「学校全体として指導力を高めていく必要性が高まってきた」と、古屋敷悟校長は語る。

「生徒個々の実態を多角的に把握し、3年間を通して適切な時期に適切な指導をするこ

とで、生徒の主体性を育むことができます。これまででは、教師一人ひとりの熱意と経験で

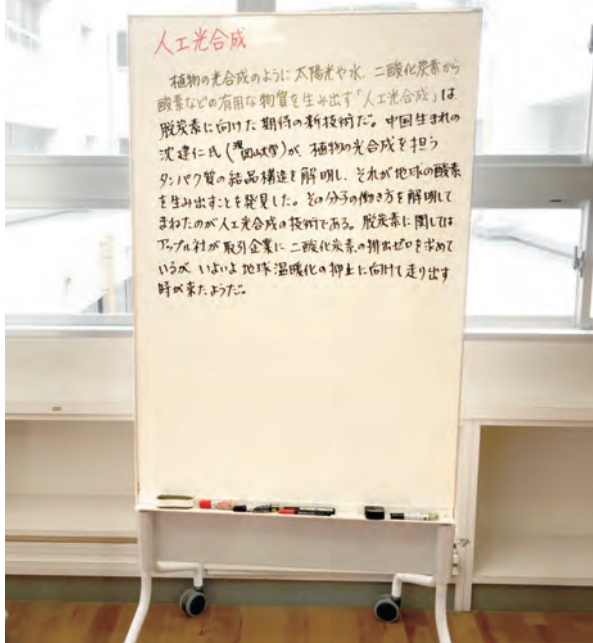


写真1 社会課題に対する生徒の視野を広げようと、3学年主任の久保先生は旬の話題に自身の解説を加えて生徒に紹介。ほかにも、社会課題に関する1分間スピーチをさせる教師や、新聞記事の要約と感想をClassiに投稿させる教師など、各教師が創意工夫してきた。

それを実現していましたが、組織として、教師同士が支え合いながら取り組んでいくことが今、求められているのだと認識しています」
加えて、進路部の園田祥穂先生は、生徒の課題について次のように語る。

「生徒は、文章を書く、発表をするといった表現力についても課題がありました。潜在能力はある生徒たちだとは思っていたので、アウトプットする機会を多くつくることで、表現力を高めようと考えました」

同校では、生徒を丁寧に見取るために教師間の情報共有を深め、「総合的な探究の時

間」で生徒の表現力や主体性の育成を図っている。また、それらの取り組みの結果、生徒は『さくら』を贈るプロジェクトにおいて、大きな変容を見せた。その軌跡を見ていく。

変革の一手

教師同士の対話を通じて、組織的に指導力を高める

同校では週に1回、進路会議と3学年担任会議が開かれている。進路会議には、各学年主任、各学年の進路チーフ、進路部長が参加、3学年担任会議には、3学年の担任、3学年主任、進路部長が参加する。緊密な情報交換によって、学年やクラスを超えた指導の共通認識を持つことが目的の会議だ。

「いずれの会議でも、『この生徒にはこんな声かけが必要』などと、具体的な支援の方法を教師間で共有します。若手の担任が、『受け持つクラスに、建築学科を志望している生徒がいる』と話すと、ベテランの担任が、『建築学を広い視点で捉えられるように、建築学に関係する社会課題についても投げかけてみてはどうか』とアドバイスするなど、ベテランから若手への指導の伝承の場にもなっています」(百瀬先生)

同様に、11月と1月に行われる3学年進路検討会も、以前は生徒の志望を確認することを目的とした場にとどまっていたが、近年はベテラン教師が若手教師に指導の知見を共有する場へと変化した。

また、1・2学年では各学期に1回、進路部による進路説明会を実施し、クラス間で指導に温度差が生じないように配慮している。さらに、同校での赴任歴が長い教師を中心に、面談での声かけを学び合う自主的な研修会を継続的に実施しており、「個」ではなく、「教師集団」としてのスキルアップにつながる取り組みを重ねている。

生徒の様子を丁寧に見取り、適切な支援を行いながら、生徒が主体的に活動する場の充実も図っている。その1つが、1・2年次の「総合的な探究の時間」で行っている「Ace Program」(P.36写真2)だ。生徒は自分の興味・関心のあるテーマの課題研究にグループで取り組むが、1・2学年団の教師全員がグループを受け持ち、生徒たちの探究に伴走する。園田先生は、「Ace Program」は教科の授業だけでは見ることのできない生徒の一面を理解する機会だと考える。

「19年度の『Ace Program』では、70のグループのうち、優秀な成果を収めた2つのグループがステージ発表に臨みました。その様子を

見て、何人もの生徒が、『発表できていいな』『やってみたかったな』といった言葉を口にしていました。生徒たちは、私が思っている以上にチャレンジしてみたいという気持ちを持っていくことに気づきました」

「[Ace Program]での生徒とのかかわりの中で、『生徒は積極性に乏しいのではなく、積極性を発揮する場が不足していたのだと多くの教師が気づいた』と、久保先生は語る。

「学校外で実施されるワークショップなどへの参加も、学年集会などで呼びかけても手を挙げる生徒は少ないのですが、生徒に個別に声をかけると、『実は興味を持っていました』と前向きに反応します。積極性を発揮する場を具体的に提示し、『やってみたら？』と背中を押すことで、生徒のその後の行動は大きく変化するのだと気づきました」

生徒の潜在能力を知ることが 授業改善の原動力になる

2020年度末、同校の教師が生徒の秘めた力の大きさを実感する出来事があった。大塚製薬株式会社「カロリーメイト」が展開する『さくら』を贈るプロジェクト（写真3）で、同校の有志生徒が協働することになったのだ。同プロジェクトは、コロナ禍のため卒業式で歌が歌えない学校が多い状況を受



写真2 「総合的な探究の時間」で行っている「Ace Program」の2年生のポスターセッション。先輩の発表を見る1年生に、「内容」「伝え方」「自分がやってみたい工夫」などの観点を提示することで、自身が探究活動に取り組む際のイメージを深めさせた。

けて、歌手の森山直太郎氏が同氏の曲「さくら」を歌う中で、友人や恩師との思い出の映像などとともに感謝の気持ちを伝える動画を制作する取り組みだ。大塚製薬を始めとする東京の制作チームと戸畑高校の有志生徒、そして森山氏がオンライン会議ツールを活用してミーティングを重ねた結果、コロナ禍の1年間、様々な面で我慢を求められた3年生に向けて、在校生が「さくら」を合唱する動画を作成し、3月の予餞会（在校生が卒業生を送る会）で披露するという企画になった。在校生や教師が「さくら」を歌う動画の撮影・編集はすべてプロのスタッフが事前に行い、



校長
古屋敷 悟 こやしき・さとる
教職歴36年。同校に赴任して2年目。



教務部長
大村高敏 おおむら・たかとし
教職歴21年。同校に赴任して4年目。英語科。



3学年主任
久保紀美恵 くぼ・きみえ
教職歴33年。同校に赴任して9年目。英語科。



広報課長
加藤敦子 かとう・あつこ
教職歴23年。同校に赴任して4年目。家庭科・情報科。



進路指導課長
百瀬 博 ももせ・ひろし
教職歴18年。同校に赴任して3年目。数学科。



進路部
園田祥穂 そのだ・さちほ
教職歴8年。同校に赴任して3年目。理科。

予餞会当日に東京のスタジオから森山氏が生中継でサプライズ出演した模様は、動画投稿サイトで公開され、大きな反響を呼んだ。教務部長の大村高敏先生は、『さくら』を贈るプロジェクト」は生徒の課題解決力を育



写真3 公開中の「森山直太郎×カロリーメイト『さくら』を贈るプロジェクト」卒業ドキュメンタリー。生徒が歌う「さくら」、予餞会の様子、そして森山氏と予餞会を企画・運営する生徒とのミーティングの様子なども紹介されている。
<https://youtu.be/n0sH9F5AIHU>

成するよい機会だったと振り返る。

「先輩のために何かできることがあるはずだと考え、外部の大人たちと対話し、コロナ禍の中でもよりよい予餞会を目指して模索する様子は、Project Based Learning そのものでした。生徒たちが発揮した力は、まさに『Ace Program』で育成を目指した力であり、私たち教師は、『やはり、本校の生徒はこれだけの力を持っていたんだ』『生徒が活躍する場をもっとつくりたい』と改めて思いました」

「Ace Program」や「さくら」を贈るプロジェクト

クト」での生徒の活躍は、「私たち教師にとって授業改善を後押しする力となっている」と、広報課長の加藤敦子先生は話す。

「自分で考え、決めた学びや取り組みのことでこそ、人は大きく成長するということを、生徒は教えてくれました。だから私も、生徒が自分で考え、他者のために行動できるようなグループ活動を、授業の中にもっと取り入れていこうと思うようになりました。『さくら』を贈るプロジェクト』は生徒の真の力を知る場になりましたが、これからは、日々の授業の中でもっと生徒が力を発揮できる機会をつくってまいります」

変革の成果・展望

どうすればできるかを考え、
新しいものを創り出す力を獲得

「Ace Program」で社会を知る経験を積んだことによって、社会課題に対して自分が成し遂げたいことを表明し、そのためにはどんな学問を学び、どの大学に進むべきかを考える生徒が増えてきた。また、「Ace Program」で発表経験を積み重ねたことにより、表現力が向上し、発表することに対して意欲的な姿勢を見せるようになった。


そして、『さくら』を贈るプロジェクトは、生徒たちの中に鮮烈な成功体験として息づいている。

「やるかやらないかで悩むのではなく、やると決めてしまつて、どうすればできるかを考えよう』『このチャンスを生かして、自分しかできない経験をしてみよう』といった教師の言葉を、生徒がしっかりと受け止めてくれるようになりました」(百瀬先生)


「生徒たちは、コロナ禍においても、学校生活に主体的に参画しています。自分にはできないと諦めるのではなく、現状から、新しい何かを探し、創り出す力に身につけたのです」(大村先生)

今後は、「Ace Program」において、より体系的に指導ができるよう、構成のブラッシュアップを検討する予定です。

VIEWn-expressでは、
福岡県立戸畑高校の
「『さくら』を贈るプロジェクト」
における生徒の学びや
気づきについて
詳しく紹介！
ぜひご覧ください



坪井美樹さん
(3年生)



山田慎之助さん
(3年生)

VIEW n-express

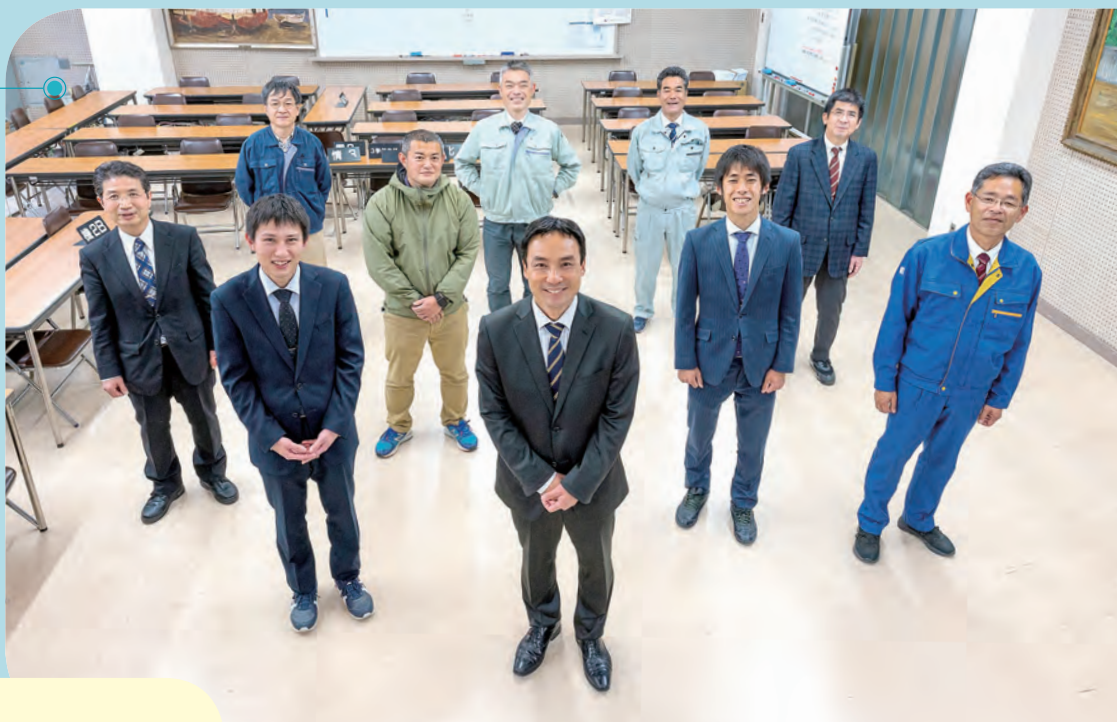


学年団を訪ねて

専門科の垣根を超えた 横のつながりを強化し、生徒を見守る

岡山県立岡山工業高校 3学年団

同校では、専門科内での教師の結びつきが強い一方で、科を超えた横のつながりは強固なものではなかった。科の枠を超えて生徒の情報を共有し、生徒の希望進路実現をより手厚く支援するために、学年主任となった江口先生は、学年会議の定期的な開催などに着手した。



直面した課題

- ◎専門科内の縦のつながりに比べて、学年団の横のつながりが弱かったため、1人の生徒に様々な学科の教師が多様にかかわり、指導することが難しかった。
- ◎専門科内での教師と生徒の強い結びつきは尊重しながらも、進路に対して幅広く関心を持つ生徒の目標を実現するためには、複数の教師による多角的視点からの支援が必要だった。

学校概要

「誠実勤勉」の校訓の下、創立以来120年にわたって、工業にかかわる高度な知識と技術・技能を習得した3万人超の人材を送り出す伝統校。将来のスペシャリストとしての専門分野の基礎・基本を学ぶとともに、STEAM教育を柱に、問題解決に向けた柔軟な発想力と創造的な思考力を育成する。ボクシング部、水泳部、陸上競技部、バスケットボール部、ラグビー部、自転車競技部など、多くの部活動が全国大会への出場経験を持つ。



設立 1901(明治34)年

形態 全日制/機械科、土木科、化学工学科、デザイン科、建築科、情報技術科、電気科/共学

生徒数 1学年320人

2021年度進路実績(現役のみ) 4年制大は、名古屋工業大、大阪教育大、岡山大、愛媛大、高知大、岡山県立大、日本大などに58人が合格。短大・高専・専門学校進学66人。就職192人。

学年内の横のつながりを強めて、 生徒の志望実現を厚く支援したい

専門高校、中でも、多くの学科が設置されている工業高校や科学技術高校では、教師たちは1日のほとんどの時間を専門科ごとの職員室か実習室で過ごすといったケースが少なくない。専門科、さらには担当教科を超えて教師が集うことは、学年内であつてもまれだ。そして、生徒たちも自分が所属する専門科の教師とのつながりの強さから、「□□科の生徒」という自覚を持つ。生徒同士も、科が異なれば、同学年であつてもかかわりは少ないというのが実情だ。

専門科内で教師、生徒がまさに「師弟」として深い関係性を築き、専門分野を学んでいく専門高校のよさを尊重した上で、「1人の生徒にもっといろいろな専門科、教科の教師がかかわる場面をつくりたいと思った」と、江口雅也先生は、岡山県立岡山工業高校の1学年主任となつた2019年4月の自身の思いを振り返る。

「近年、技術革新や新しい価値創出のため、文理の枠組みを超えて学ぶSTEAM教育の重要性が、高校現場でも話題に上るようになってきました。これからの工業高校の生徒にも、所属する専門科の知識・技能を土台にしなが

ら、より幅広い視点で事象を捉える力、多様な価値観を持つ他者と協働する力が求められると思います。また、本校には、国公立大学を始め4年制大学に進学を希望する生徒が多く、専門科の教師と進学指導の経験がある教師の連携も求められます。時代に合わせた生徒の学びの実現や、進路指導のさらなる充実のために、専門科を超えて様々な教師が生徒にかかわっていくよう、学年団という横のつながりを強化したいと考えました」

工業高校卒業者であり、19年度に初任で同校に赴任し、江口学年団の一員となつた松本匠史先生は、江口先生の考えに賛同する。

「工業高校では、所属する専門科の特色を生かして就職する生徒が多いので、当初は科を超えた連携の必要性を感じていませんでした。しかし、本校の生徒と話をしてみると、進路に対して幅広く関心を持っていることが分かりました。中には、建築科に籍を置いているけれども、大学ではデザイン学を学びたいという生徒もいました。そうした生徒の志望に応えるためには、科を超えて各教師が連携して指導することが必要だと感じました。本校は大学進学希望者も多いので、専門科の教師とともに、受験指導の経験が豊富な教師が支援することで、希望進路実現の可能性がさらに高まるのではないかと思います」



学年主任に聞く！

5つのQ&A

Q どのようなチームを目指しましたか？

A 専門科を軸にしながらも、学年として生徒指導や進路指導でまとまったチームです。

Q リーダーとして心がけていることは？

A 先生方が安心して生徒にかかわることができるよう、全体を見て、準備をしたり、環境を整えたりすることです。できていないこともあります。

Q 学年団としての「成功」は？

A ありきたりですが、3年間を振り返った時、この学年団でよかったと先生方が思ってくださったら、自分としても満足です。

Q 学年主任として自覚する長所は何ですか？

A 常に前向きに、新しいことにもチャレンジする気持ちを大切にしているところでしょうか。あとは、和やかな雰囲気をつくることだと思います。

Q 学年主任として自覚する短所は何ですか？

A 学年の取り組みのよいところや改善点などを、学校全体で共有できればと思うのですが、なかなかそこまでの連携ができていないところですね。



学年団を訪ねて



松本匠史 まつもと・たくみ
教職歴2年。同校に赴任して3年目。
建築科。



杉山勝彦すぎやま・かつひこ
教職歴29年。同校に赴任して2年目。
1学年主任。地理歴史・公民科。



3学年主任
江口雅也えぐち・まさなり
教職歴20年。同校に赴任して6年目。
数学科。

江口学年団がスタートして数か月が経ったある日、進路担当だった田中先生は、江口先生から「4年制大学を志望する生徒に面談をしてもよいですか」と、申し出を受けたという。

「進路担当として1学年の生徒に進路希望調査を実施していましたが、普通科進学校での指導経験もある江口先生は、高い目標を持つ生徒には、早期から面談の機会を設けたいと考え、相談してくれたのです。そして、面

談で得た生徒の情報は学年団全体に共有されたので(図1)、学年団のメンバーが『1人の生徒をみんなで育てるのだ』という意識を持つことにつながりました(田中先生)

徐々に広がっていく 「横のつながり」を大切にする文化

学年団が2学年に持ち上がると、江口先生は、夏季休業中に「進路計画表」(図2)を作成することを生徒に課した。それは、2年生8月から卒業までの学校行事や進路イベントとともに、就職や進学に向けていつ、どのようなことに取り組むのかを見通し、現段階の志望先や自己PRをまとめるものだ。

「生徒の進路意識を早期に刺激し、現時点での志望を学年団で把握しようと考えました。志望先を一覧化したところ、同じ企業を複数の専門科の生徒が志望していることが分かりました。そこで、第1志望だけでなく、第2、第3志望も考えさせること、進路選択で大切にしたいことを生徒に意識させることなどの指導方針を、学年団のメンバーと共有し、3年生になるまでの進路観の深掘りへとつなげていきました」(江口先生)

昨年度まで江口先生と同じ学年団で活動し、今年度からは1学年主任となった杉山先

生は、江口先生同様に毎月1回の学年会議開催を目指していると明かす。

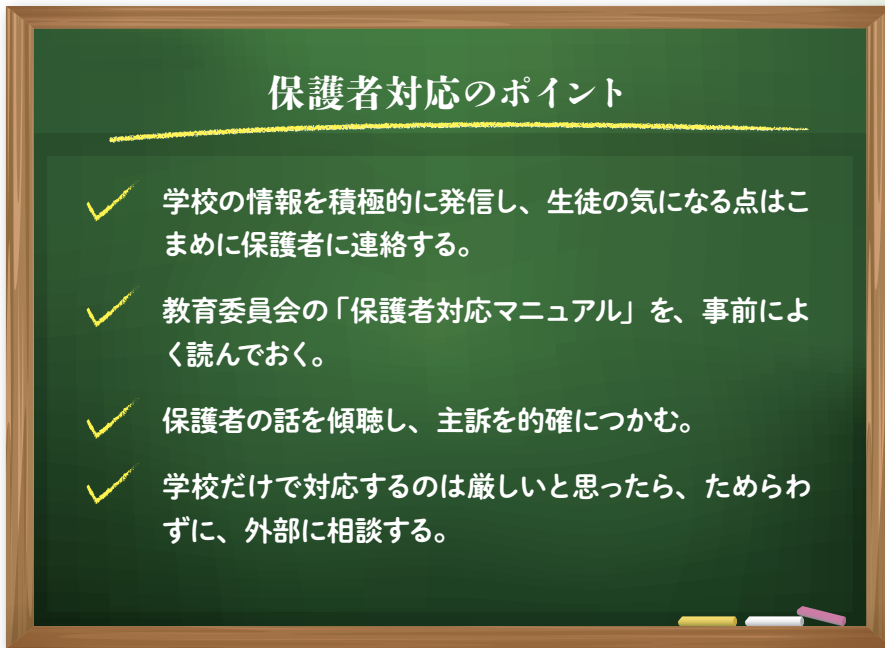
「江口学年団での経験を通じて、学年団の横のつながりの大切さを改めて実感しました。各科の生徒の志向や特性を生かしながら、『総合的な探究の時間』や学校行事、さらには進路指導、生活指導など、専門科での学習以外の時間をよりよいものにしていくためには、横のつながりを私たちの学年でも強固にしていく必要があると考えています」

今年度、江口学年団は3学年となり、生徒は進路実現の時を迎える。横のつながりが生む大きな成果に注目したい。

* 学年団 輝きのポイント *

- * 生徒の幅広い希望進路を支援するため、科を超えた横のつながりを強化。定期的な学年会議で指導の目線合わせを図った
- * 学年主任は、メンバーの意見を尊重して学年運営を行いつつ、率先して生徒情報を収集・共有した

保護者対応



- ✓ 学校の情報を積極的に発信し、生徒の気になる点はこまめに保護者に連絡する。
- ✓ 教育委員会の「保護者対応マニュアル」を、事前によく読んでおく。
- ✓ 保護者の話を傾聴し、主訴を的確につかむ。
- ✓ 学校だけで対応するのは厳しいと思ったら、ためらわずに、外部に相談する。

学校で起こり得る危機に対し、どのような備えをしておくべきか。事故や災害などが発生したら、被害を最小限にとどめるためにどう対応すればよいのか。学校の危機管理について研究する坂田仰教授が解説する本コーナー。第2回のテーマは、保護者対応だ。

保護者が不要な不安を抱かぬよう、積極的な情報発信とこまめな連絡を

保護者対応が校務の課題に上がるようになったのは、1990年代後半からです。89年に国連で「児童の権利に関する条約」が採択され、子どもの権利運動が盛んに行われた頃の中高生が保護者となってから、学校を法的観点で捉える傾向が強くなり、保護者が学校に求めることが増えたと、私は考えています。学校としては、法的な問題に発展する場合もあることを想定し、それを未然に防ぐための体制を整える必要があります。

まず大切なのは、保護者への情報発信です。労働災害における経験則を示した「ハイリッヒの法則」は、保護者対応に活用でき

解説者



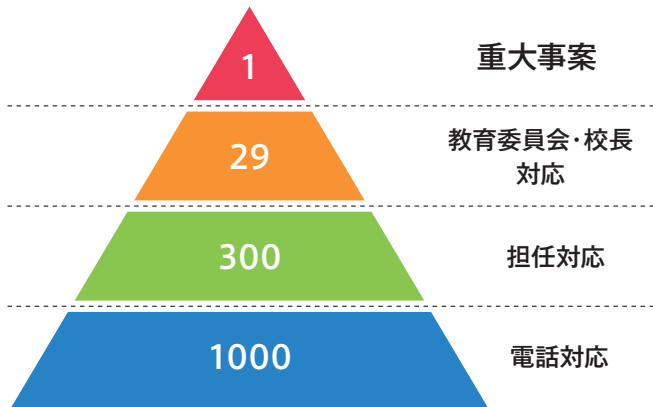
日本女子大学
教職教育開発センター
教授 坂田 仰

大阪府の公立高校に勤務後、東京大学大学院法学政治学研究所公法専攻博士課程単位取得退学。1996年、日本女子大学に赴任。専門は、憲法学、公教育制度論。教職員支援機構などでスクール・コンプライアンス体制の確立に向けた活動を展開。

ると考えています。法則にのっとると、1件の重大事案の背後には、教育委員会や校長が対応した29件の事案があり、その背後には担任が対応した300件の事案、さらにその背後には保護者から学校への連絡が1000件あると言えます(図)。保護者が学校に連絡をしてくるのは、指導に不安や疑問があるからです。ウェブサイトや学校便りなどで学校の状態を発信し、保護者が安心して子どもを送り出せるようにすることが、重大事案の発生防止へとつながります。

生徒に気になる点が見られたら、担任が保護者に連絡し、一緒に生徒を支えることも重要です。特に遅刻や早退、保健室に行く回数が増えたら何か問題を抱えていると捉え、まず保護者に伝えます。そうした日頃のやり取り

図 “学校危機管理”ハインリッヒの法則



労働災害における経験則を示した「ハインリッヒの法則」は、1つの重大な事故の背後には、29の軽微な事故があり、さらにその背後には、300のヒヤリハット(異常)が存在するという法則だ。それは、学校で起こる重大事案にもあてはまると考えられる。最初に寄せられる保護者の声にしっかり対応することが、重大事案の防止につながる。

りが、学校への信頼につながり、問題が起きた際も意思疎通がしやすくなります。

保護者の話を落ち着いて傾聴し、要求や不満の背景をつかむ

教育委員会が作成する「保護者対応マニュアル」に事前に目を通しておくことも大切です。保護者対応に慣れていない若手教師を対象にロールプレイを行うと、なおよいでしょう。

マニュアルには保護者対応の基本が示されていますから、詳細はそれに譲るとして、本コーナーでは保護者の話を聞く際に最も重要なポイントを伝えます。それは、保護者の話を傾聴し、主訴を的確につかむことです。彼らが何を知りたいのか、何を問題としているのか。それからずれていたら、いくら丁寧に対応しても、保護者の不満や不安は解消できません。

傾聴は案外難しく、感情的になっていると話が混乱し、内容を捉えるのが難しくなります。また、答えを急ぐと、相手の話の途中で、「それはこうではありませんか？」と先走って言ってしまいがちです。保護者の話を遮らずに、その思いをくみ取りながら、要求や不満の背景に何があるのかを聞き取ることが、その後の対応を適切に行うために重要です。多くの保護者は、子どもを思い、心配を抱えた状態で学校に連絡してきているわけですから、学校は保護者のその思いに寄り添った上で、冷静に話を聞くように心がけましょう。

ただ、そうして解決できる案件ばかりとは限りません。解決は難しいと感じた場合は、その場しのぎで返事をせず、持ち帰って管理職と対応を検討し、改めて学校としての見解を伝えるようにすることも重要です。

複雑化した問題を整理し、学校が疲弊する前に外部に相談を

校長の対応が必要な事態になると、問題は複雑化していると考えられます。校長は、関係者から話を聞き、主訴を整理します。話をよく聞くと、感情の行き違いが原因の場合もあります。例えば、最初に担任が話を聞いてくれなかった不満がこじれの原因になっているのであれば、校長が教師の配慮不足の改善を説明することで解決できるかもしれません。

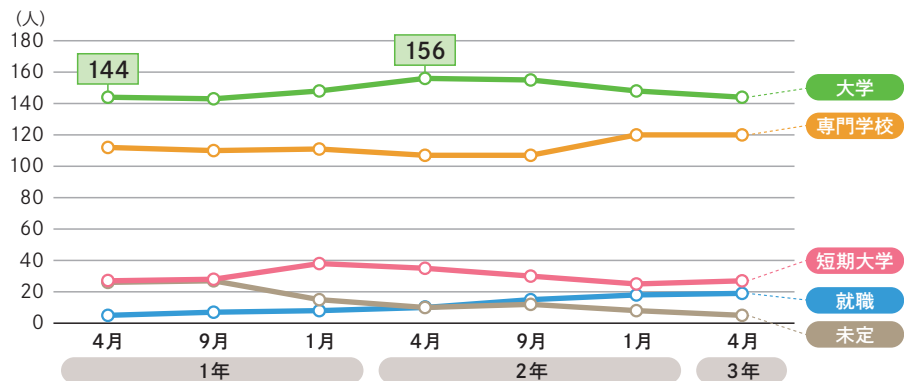
聞き取りの結果、教育の問題であれば、生徒や教師をスクールカウンセラーに取り次いだり、校長が受け持ったりして、問題の対応にあたります。福祉の問題であれば、スクールソーシャルワーカーや児童相談所に、法的な問題であれば、スクールロイヤーに相談します。学校が外部に頼ることをためらう気持ちもあるかもしれませんが、教師が心身ともに疲弊し、教育活動に支障を来さないためにも、外部との連携は重要です。学校を支援する制度があることを研修などで周知し、利用の垣根を低くしておくことも、危機管理の一環となります。また、法的な問題かを見極めるために、いじめ防止対策推進法や障害者差別解消法など、教育に関する法律もある程度、知っておくとよいでしょう。

生徒一人ひとりの希望進路を 定期的・多角的に見取る

ピックアップデータ ベネッセコーポレーション「実力診断テスト」(*)

データ 進路が多様な高校における希望進路の変化

① 1年4月～3年4月の 各希望進路の 生徒数の推移



注1) 進路が多様なA高校における1年4月～3年4月(同一学年)の「実力診断テスト」での希望進路アンケート結果の推移。

② 2年4月時点で、 1年4月から希望進路 を変更した生徒数

		2年4月(321人)						計(人)
		大学	短期大学	専門学校	就職	その他	未定	
1年4月(318人)	大学	113	10	15	2	1	3	144
	短期大学	5	12	10	0	0	0	27
	専門学校	24	10	71	2	2	3	112
	就職	0	0	0	4	0	1	5
	その他	3	0	4	0	0	0	7
	未定	11	3	7	2	0	3	26
計(人)		156	35	107	10	3	10	

注2) 1年4月と2年4月の希望進路アンケート結果のクロス分析。

2年4月時点の
大学進学希望者
12人の増加の背景

= (①新たに大学進学を目指した43人) - (②別の進路に変えた31人)

進路が多様なA高校における、ベネッセの「実力診断テスト」の結果を集計した希望進路に関する2つのデータを見てみる。各希望進路の生徒数の推移のうち、大学進学希望者に着目すると、1年4月から2年4月の1年間で12人増えている(データ①)。その2時点における希望進路のクロス分析をすると、新たに大学進学を目指した43人と、大学進学から別の進路に変えた31人がいることが分かった(データ②)。

そのように、生徒の進路が多様な高校では、生徒の希望進路が、大学から就職へ、専門学校から大学へなど変化することがしばしば見られる。だからこそ、希望進路調査は定期的に行い、生徒のその時点での希望進路を把握するだけでなく、以前との変化に着目することがポイントだ。そして、希望進路を変更した生徒に対しては、変更理由を確認し、その理由に応じた指導をしていきたい。

さらに、データから自校の生徒の傾向をつかみ、対策を考えることは、学校全体で組織的な指導を行う上で有効な手段だ。生徒の学力や学習習慣、進路のこだわりなどから傾向を探ったり、特定の時期に希望進路を変更する生徒が多いと自校のデータから読み取れる場合は、それ以前に実施している進路行事の内容や形を見直したりすることなども、多角的なデータ活用の一例だ。

データを一面的に捉えることなく、様々な面から分析し、指導に生かしていきたい。

進路が多様なA高校における、ベネッセの「実力診断テスト」の結果を集計した希望進路に関する2つのデータを見てみる。各希望進路の生徒数の推移のうち、大学進学希望者に着目すると、1年4月から2年4月の1年間で12人増えている(データ①)。その2時点における希望進路のクロス分析をすると、新たに大学進学を目指した43人と、大学進学から別の進路に変えた31人がいることが分かった(データ②)。

そのように、生徒の進路が多様な高校では、生徒の希望進路が、大学から就職へ、専門学校から大学へなど変化することがしばしば見られる。だからこそ、希望進路調査は定期的に行い、生徒のその時点での希望進路を把握するだけでなく、以前との変化に着目することがポイントだ。そして、希望進路を変更した生徒に対しては、変更理由を確認し、その理由に応じた指導をしていきたい。

さらに、データから自校の生徒の傾向をつかみ、対策を考えることは、学校全体で組織的な指導を行う上で有効な手段だ。生徒の学力や学習習慣、進路のこだわりなどから傾向を探ったり、特定の時期に希望進路を変更する生徒が多いと自校のデータから読み取れる場合は、それ以前に実施している進路行事の内容や形を見直したりすることなども、多角的なデータ活用の一例だ。

データを一面的に捉えることなく、様々な面から分析し、指導に生かしていきたい。

* ベネッセが提供する、生徒の「なりたい自分さがし」と「なりたい自分づくり」をサポートする教材「進路マップ」シリーズの1つで、教科書レベルを中心に基礎学力を測る記述式テスト。

For Teacher Section

教師個々の教科指導・進路指導に
役立つ事例や情報を、
先生方の思いを乗せてお届けする

P.46

発問・課題設定をキーに見る

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

教科の見方・考え方を働かせる
問いや課題を通じて学びが深まる授業に迫る

お勧めの分掌 ▶

教務担当

担任

英語 山梨県立青洲高校 飯室雄大

P.46

事前の家庭学習で知りたい意欲を湧かせ、
授業での主体的な学び合いに導く

情報 愛知県立高蔵寺高校 田中 健

P.50

単元を貫く問いを設定し、作品制作や
他者との対話を通じて本質的な理解に導く

P.54



SDGsの
視点で見る
大学の学び

持続可能な社会の実現に向けた
問題解決に取り組む大学の研究とは？

お勧めの分掌 ▶

進路担当

担任

解説 目標 12 つくる責任つかう責任

P.54

目標 16 平和と公正をすべての人に

大学の学び 目標 12 立命館大学

P.56

生命科学部 生物工学科 生物機能工学研究室

目標 16 東京外国語大学

P.58

国際社会学部 国際関係コース 篠田英朗研究室

P.60

これからの
進路指導のための
世の中トレンド解説

お勧めの分掌 ▶

進路担当

担任

生徒の将来に影響する社会の動きが「働く」「学ぶ」「暮らす」の視点で分かる
トレンド・ワード ライフシフト

P.64

誌上で見学 学びのnext

これから求められる学びとは？
一歩先を行く授業を実践者が紹介

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

担任

経済金融教育
宮城県・私立常盤木学園高校

女性が自立して生きていくために必要な
金融知識とライフプランの立て方を学ぶ

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

英語

事前の家庭学習で知りたい意欲を湧かせ、
授業での主体的な学び合いに導く

山梨県立青洲高校 せいしゅうこう
飯室雄大 いむろたけひろ

10:40 本時の目標と学習内容の説明



まず、生徒はくじを引いて席順を決めた。毎回異なる生徒同士で学び合いができるようにするための、飯室先生の工夫だ。生徒が席に着くと、飯室先生は、本時の目標が「時制の表現の違いを理解し、使い分けられるようになること」であることを示し、学習内容と流れを英語で説明した。

本時の概要

【対象／教科／科目】1年生／英語／英語表現1 【分野・単元】Lesson3 My Hometown (本時は、全3時間のうちの1時間目。P.49に単元の指導計画を掲載)

【育成を目指す資質・能力】知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性

【学習内容】各自が事前の家庭学習で、時制の文構造を分析したり、例文を考えたりするワークシートに取り組み。本時では、ワークシートを使ってグループ内で各自が考えを発表し、時制の理解を深める学び合いを行い、最後にグループの代表者が発表して、各グループでの気づきや学びを共有した。

主 主体的な学び
対 対話的な学び
深 深い学び

10:58 グループでの学び合い



全員の発表が終わったのを見計らい、飯室先生が「分からなかったことを共有して、もやもやを解消しよう」と呼びかけると、各グループで学び合いが始まった。飯室先生は、「時制は、イラストやジェスチャーで説明すると分かりやすいかも」と、説明のヒントを出した。

いむろ・たけひろ 教職歴12年。同校に赴任して1年目。英語科。企業勤務を経て、教職に就く。文部科学省によるアメリカ研修などで、指導や評価に関する知見を深め、現在の授業スタイルを確立した。

学校概要

◎山梨県立市川高校、同峡南高校、同増穂商業高校を統合し、県内初の単位制・総合制高校として開校。校訓に「進取、敬愛、共創」を掲げる。各科の専門性を生かし、生徒の希望進路に応じた知識・技能の習得を支え、学科横断の選択科目も設定する。学校設定科目「峡南地域学」と「総合的な探究の時間」では、学科の垣根を超え、地域の防災や歴史、文化、産業、自然などについて探究する「青洲学」を実施。

- ◎設立 2020(令和2)年
- ◎形態 全日制／普通科・工業科・商業科／共学
- ◎生徒数 1学年約270人
- ◎2021年度進路実績 2020年度に開校したため、卒業生はまだいない。



10:48 「時制の違い」をグループ内で発表



対
深

グループワークに移り、家庭学習で取り組んだワークシートを基に、1人1分間でそれぞれ異なる設問に関する文構造の説明やオリジナル例文などを発表した。飯室先生は、「過去形と過去進行形の違いは、どう説明できる？」などと、思考や説明のポイントを提示した。

10:44 ウォームアップ



対

「Do you like your hometown and why?」と、飯室先生が問いかけ、まずは先生自身の故郷への思いを英語で話した後、同じ話題でペアワークを行わせた。その間、飯室先生は、「アイコンタクトやジェスチャーを使って」などと、声をかけた。終了後、数人の生徒が話した内容を発表した。

11:05 代表者による「文法プレゼン」



主
深

各グループの代表者が約1分間でプレゼンテーションを行った。飯室先生は、発表内容に関連させて、「どこを変えると過去形になる?」「現在形と進行形の違いは?」など、時制を使い分けるためのヒントを投げかけたり、適宜補足説明をしたりして、時制の本質への理解を深めさせた。

11:00 発表の準備



グループごとに、現在形・現在進行形・過去形・過去進行形・状態動詞の項目が割り振られ、グループの代表者は、ワークシートで取り組んだ内容を基に、発表のための説明を板書した。その間、飯室先生は、生徒に質問したり、ワークシートをチェックしたりしながら、生徒の理解度を確認した。

●私が目指す授業

努力と成功体験を積み重ね、
英語を使う自信と勇気を育む

私の理想は、生徒が教室外でも英語を使いたくなり、学びが広がっていくことです。主体的・対話的で深い学びを中心とした授業を通して、生徒が小さな努力と成功体験を積み重ねられるようにし、失敗を恐れずに英語を使うようにし、失敗を恐れず育みながら、実践的な英語運用能力を身につけさせることに重点を置いています。そこで、本時の「文法プレゼン」以外の、「英語表現」や「コミュニケーション英語」などの授業はすべて、オール・イングリッシュで行っています。それにより、A・L・Tの授業も含め、すべての英語の授業が有機的に連動するようにしています。

授業づくりでは、文部科学省によるアメリカ研修で学んだ「スチューデント・センタード・ラーニング」を意識しています。それは、授業で最も多く発言するのは教師ではなく、生徒であること、生徒の意見を授業に取り入れることという、2つの考え方です。私もそれを基に、授業中の生徒の様子を徹底的に観察

し、ファシリテーターとして生徒のパフォーマンスを肯定して意欲を引き出したり、生徒個々の考えをつなげたりする指導を心がけています。

●私の発問・課題設定の観点

グループやクラス、学年全体で生徒主体の学び合いを生み出す

文法は、英語学習の基礎として重要ですが、生徒が学習をおろそかにしがちなことに課題を感じていました。そこで、文法学習の必然性を感じさせる方法として考え出したのが、本時で行った「文法プレゼン」です。それは、生徒が家庭学習で、私が作成したワークシートに沿って文法について調べ、自分なりに理解した上でオリジナルの例文を作り、授業ではそれを基にグループで学び合い、理解したことや気づきを最後にクラス全体で発表するというものです。

本時では、現在形など5つの時制について、「時制の表現の違いを理解し、使い分けられるようになること」を目標としました。グループワークでは、ほかの生徒が理解できるように説明することを求めています。生徒は自分なりに学習して授業に臨みますが、理解が不十分なところも

あります。授業では、最初にグループ内でそれぞれが理解した内容を発表し合い、それでも理解できないことを話し合います。かつての文法の授業を「のどが渴いているように水を飲まされているように」と例えた生徒が、「文法プレゼン」について、「のどが渴き切った時に仲間や先生から水をもらえろ」と言うほど、皆、ほかの生徒の話を意欲的に聞きます。また、他者に説明することで理解を深める姿も見られます。

最後に、グループでの学びを教室全体に広げるため、グループの代表者に発表させます。発表の中で生徒に必ず押さえてほしい事項は、私が発表者を褒めながら強調したり、解説したりします。発表に補足や修正を要する場合は、私が解説するのはなく、「別の考え方をしたグループはある？」と生徒に問いかけます。そこでも、生徒同士の学び合いで気づきが生まれ、理解が深まるようにしています。また、ワークシートは、学年全体での学び合いのきっかけとなるよう、参考にしてほしいものを廊下に掲示しています(写真)。

なお、本単元は2時間連続で授業を行い、次時には、本時に扱った時制の活用を主眼に置いたライティング



写真 他の生徒の見本となるワークシートは、「Good examples」として、飯室先生が参考にしてほしい点を書いた付箋紙とともに、廊下に掲示。学年全体で共有できるようにしている。授業の前後には生徒が掲示に集まり、他のクラスの生徒のワークシートをじっくり見ている。

グを行いました。

私の授業では、1年間で教科書を2周します。1周目では、生徒同士の学び合いと「文法プレゼン」により、文法事項の理解を深め、理解したばかりの文法を活用したライティングを行うことで主体的な学びを演出します(本単元の1・2時間目)。数か月後に行う2周目では、1周目と同じテーマでライティングを行うことで、前回からの英語力の成長を実感させるようにしています(本単元の3時間目)。また、GTECを

年2回実施し、英語力を客観的指標で評価するとともに、生徒に成長実感を感じ、自信をつけさせることをねらっています。

●成果と展望

生徒が前向きに授業に臨み、英語を使う場を求めるように

前任校では、「文法プレゼン」を取り入れてから、生徒の英語力が着実に伸び、昨年度の大学入学共通テストでは、校内平均点がセンター試

VIEWn-expressでは、
本時の授業の様子を
ダイジェスト動画で
紹介しています。
生徒の学び合いや、先生の
声かけの様子を視聴できます。
ぜひ、ご覧ください。

VIEW n-express

験の時よりも高くなりました。学力
下位層の成績も向上し、全体的に底
上げされました。

また、かつては推薦入試などで早
期に進路が決定すると、その後の授
業に集中できない生徒もいました
が、今の授業スタイルを取り入れて
から、生徒の集中力は卒業まで持続
するようになりました。それは、個
ではなく、集団での学び合いの大き
な効能と考えています。

何よりうれしいのは、英語が好き
になり、国際交流の活動などに参加
する生徒が増えていることです。積
極的に英語を使う姿が見られるよう
になり、英語力に加え、英語を使おう
とする自信と勇気が確かに育ってい
ることを感じます。これからも、英
語を使う場を増やして、外に学びを
つなげていきたいと考えています。

単元の指導計画

【教科・科目】英語・英語表現I 【分野・単元】Lesson3 My Hometown 【テーマ・作品】自分の住んでいる町や故郷について語り合おう 【設定時数】全3時間（本時は1時間目） 【単元目標】学んだ知識や技能を用いてテーマに沿った自分の意見を表現し、それらの共有を通じて英語の質を向上させることができる。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> Warm-up "Do you like your hometown and why?" 文法プレゼン Showcase check homework 	<ul style="list-style-type: none"> 知識や技能を自ら主体的に学ぶことができる。 学んだ知識を自分の言葉で説明することができる。 学んだ知識を使って問題を解くことができる。 <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> Warm-Up でスピーキングのペアワークと Showcase を行う。 事前にワークシートを使って調べ、理解した内容を、生徒各自が作った例文を用いながらグループ内で説明する。 分からない点は、グループ内で学び合う。 グループの代表者が前に出て、グループで学んだことを発表する。 	<p>【主体的な学び】 数多くある情報源の中から、必要な情報を探し、自分に合うものを取捨選択し、知識として取り入れるように促す。</p> <p>【対話的な学び】 グループワークや発表を通じて、生徒同士の刺激を促し、文法知識の獲得に関しても多様なアプローチがあることを理解させる。</p> <p>【深い学び】 他者との共有や発表を通じて、事前の家庭学習で得た知識をさらに深化させ、より確かなもののできるように促し、授業の前と後の進歩を実感させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業での活動 ワークシートの記入内容 定期考査
2	<ul style="list-style-type: none"> Warm-up Get More Informed "Listen Up" Write on your own (1回目) Showcase 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学んだ知識や技能を用いて、間違いを恐れずに英語を使い、自分の考えを表現することができる。 表現した内容について、互いに意見を交わすことができる。 他者との共有を通じて、自分の間違いを発見したり、他者の表現を取り入れたりと、英語の質を向上させることができる。 <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> Warm-Up で教科書のリスニング問題を解く。 テーマに沿った英作文を書く。 意識するポイントを変えて、異なる相手と英作文の共有を4回行う。 指名された生徒は、前に出て発表する。 	<p>【主体的な学び】 与えられたテーマについて、自分の考えを持ち、表現できるように、適切に補助する。</p> <p>【対話的な学び】 他者との共有を通じて、自分の意見や表現方法と他者のものを比較し、刺激を受け、必要に応じて表現を自己評価したり、改善したりすることができるように促す。</p> <p>【深い学び】 自己評価や自身での改善を通して、1時間の授業の中でも表現技術の向上を実感できるように促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業での活動 ノートの記入内容 定期考査
3	<p>(教科書の2周目：冬ごろを想定)</p> <ul style="list-style-type: none"> Warm-up: Get More Informed "Read Up" Check and Update the sentence Write on your own (2回目) Showcase 	<ul style="list-style-type: none"> 成長を実感し、自信を持つことができる。 前回よりも増えた知識や技能を用いて、以前書いた英文を修正すること、または質を向上させることができる。 前回よりも質の高い共有をすることができる。 <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> Warm-Up で教科書のリーディング問題を解く。 数か月前の2時間目に書いた自分の英作文を読み返し、ミスを訂正し、質を向上させる。 2時間目と同じテーマで英作文を書く。 意識するポイントを変えて、異なる相手と英作文の共有を5回行う。 指名された生徒は、前に出て発表する。 	<p>【主体的な学び】 数か月前に書いた英作文の自己評価を通じて、成長を実感し、今後の学習への動機づけとなるように促す。</p> <p>【対話的な学び】 他者との共有を通じて、自分の意見や表現方法と他者のものを比較し、刺激を受け、必要に応じて表現を自己評価したり、改善したりすることができるように促す。</p> <p>【深い学び】 数か月前に書いた英作文を自己評価し、前回よりも質の高い表現ができるように促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業での活動 ノートの記入内容 定期考査

※飯室先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

情報

単元を貫く問いを設定し、作品制作や

他者との対話を通じて本質的な理解に導く

愛知県立高蔵寺高校 田中 健

14:20 本時の流れを説明



田中先生は、本時の流れとして、1人ずつ前に出て、自分が制作したピクトグラムを、手元に原稿を置かず45秒間でプレゼンテーションし、他の生徒は、「制作の意図を表す作品になっていたか」「プレゼンテーションは理解しやすかったか」という視点で評価することを説明した。

本時の概要

【対象／教科／科目】3年生／情報／社会と情報 【分野／単元】情報デザイン、コミュニケーション（本時は、全4時間のうちの4時間目。P.53に単元の指導計画を掲載）
 【育成を目指す資質・能力】思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、コミュニケーション力
 【学習内容】前時までに、生徒は個々に「10年後の自分自身」についてのピクトグラムをベイントソフトで制作。本時は、制作の意図と工夫点を全員が発表し、発表内容について相互評価を実施。最後に、単元の冒頭に投げかけた「情報デザインとは何か」という問いについて、改めて考えをまとめさせた。

主 主体的な学び
対 対話的な学び
深 深い学び

15:00 生徒同士で相互評価



ピクトグラムとプレゼンテーションを総合して最もよいと思った発表者の学籍番号と評価の理由をワークシートに記入。評価の理由には、「何を表しているかひと目で理解できるデザインだった」「色の種類を少なくすることで伝わりやすさが増していた」といったことが書かれていた。

たなか・けん 教職歴19年。同校に赴任して2年目。情報科。修士（インターネット言語教育学）。2022年度用教科書『高等学校 情報Ⅰ』『情報Ⅰ Next』（ともに数研出版）の著者の1人。2010年より、センター試験の「情報関係基礎」を中心に、「情報」を受験教科にした大学入試について実践・研究を行っている。

学校概要

◎愛知県春日井市の北東部に位置する普通科進学校。校訓に「よりたくましく、よりゆたかに、よりさとく」を掲げる。伝統的に学校行事や部活動にも力を注ぎ、例年、多くの部が県大会以上の大会に出場している。

◎設立 1980（昭和55）年

◎形態 全日制／普通科／共学 ◎生徒数 1学年約360人

◎2021年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、信州大、岐阜大、愛知教育大、名古屋工業大、名古屋大、京都大、神戸大、愛知県立大などに102人が合格。私立大は、慶應義塾大、愛知大、金城学院大、中京大、中部大、南山大、名城大、同志社大、立命館大、近畿大、関西大などに延べ1,456人が合格。



田中先生の
ウェブセミナー公開中

田中先生が講師を務めたウェブセミナー「今から始める新教育課程『情報』の準備」の動画・資料を、ベネッセハイスクールオンラインで公開しています。https://bhso.benesse.ne.jp/hs_online/shinkatei/kyoka_joho.html

14:57 「情報デザインとは何か」を再考察



深

生徒は、単元の冒頭で提示した「情報デザインとは何か」という問いを改めて考え、ワークシートに記入した。田中先生は、生徒の思考を活性化させようと、「情報デザインとは、そもそも何か?」「アートとインフォメーションの違いは何だと思う?」などと問いかけた。

14:23 プレゼンテーション



主

生徒は1人ずつ前に出て、前時までに制作したピクトグラムのデザインについて、制作意図と工夫点を交えて発表した。「国際的な人道支援の仕事に就く様子を表現した」「社会人になってからも大好きな音楽がそばにある生活をイメージした」など、様々な将来像が語られた。

15:08 単元のまとめ



深

生徒の発表を受け、田中先生は、「芸術分野のデザインは、100人いたら100通りの受け止め方がある制作者の思想や感情を表現するものだが、情報デザインは、100人に対して同じ内容や意図を伝えることを目的になされるもの」と説明し、授業を締めくくった。

15:04 全体で考えを共有



対

深

「情報デザインとは何か」という問いについて、数人の生徒が自分の考えを発表した。「情報デザインは、自分が伝えたいことを言葉を用いずに簡潔に表現する手法」「他者に情報を過不足なく伝えるためのデザイン」といった考えがクラス全体で共有され、各自で考えを深めた。

●私が目指す授業

汎用的な知識・技能を育む課題を、生徒に身近なテーマで設定

情報科の目標の1つとして、情報と情報技術を活用するための知識・技能の習得が挙げられます。そのため、例えば「パソコン教室」のようにO Aスキルを習得することが教科「情報」の目的だと、長らく全国的に曲解されてきたかと思えます。もちろん、O Aスキルは社会的に不可欠ですが、情報科教育の目的はその習得ではなく、その活用方法を考えるところにあります。2022年度に実施される新学習指導要領の「情報」では、O Aスキルの活用方法を含めた陳腐化しない知識・技能が習得させるべき資質・能力と言えます。そうした資質・能力を育成するために心がけているのは、日常生活に結びつけた課題を設定することで。例えば、本時で取り上げた単元では、「情報デザインとは何か」という問いに対して、教科書に書かれた文言を借用して答えるのではなく、実体験を通じた自身の言葉で答えられるよう、日常生活に溶け込んでいるピクトグラムを制作する課題

を設定しました。

また、授業では、生徒が主体的に課題に取り組みながら、批判的に物事を考えたり、エビデンスを示して相手を説得したりするといった活動を行い、思考力や表現力などの資質・能力の育成も重視しています。将来、コンピューターを活用する仕事に携わらないとしても、授業で学んだことがその後の生きる力となることを目指しています。

●私の発問・課題設定の観点

実行錯誤を経て理解を深め、自分なりの言葉で解答させる

20年度から試験的に、「22年度の『情報Ⅰ』を見据えた年間学習指導計画」(図1)を作成し、実践しています。21年度は全9クラス18単位を受け持つことになり、文系の「社会と情報」、理系の「情報の科学」の両方で、新学習指導要領の必修科目である「情報Ⅰ」の学習内容を想定した年間指導計画を立てました。

最初の単元には、「情報Ⅰ」でまず全学習者が学ぶ「情報デザイン」を配置しました。本時で扱った単元で、100×100ピクセルのキャンバスに、ペイントソフトで10年後

図1 2022年度の「情報Ⅰ」を見据えた年間学習指導計画

- 1～4時間目 「10年後の自己自身」を表すピクトグラムの制作 (情報デザイン、コミュニケーション)
- 5～16時間目 デジタル表現 (デジタル表現)
- 17～22時間目 サイコロの出目調査 (モデル化とシミュレーション、データの分析)
- 23～28時間目 成績表作成 (データベース、プログラミング～VBA)
- 29～36時間目 Webプログラミング (ネットワーク、プログラミング～HTML/CSS)
- 37～50時間目 卒業研究 (問題解決、データの活用、法とセキュリティ、情報リテラシー、ほか多数)

田中先生が、昨年度の「情報の科学」で展開した授業内容。()内が、「情報Ⅰ」に相当する単元構成となる。 ※田中先生提供資料を基に編集部で作成。

の自分自身を伝えるピクトグラムを制作し、制作意図と工夫点をプレゼンテーションするという内容です。単元のキーとなる発問は、「情報デザインとは何か」です。模範解答は、「100人いれば100人に対して同じ内容や意図が伝わるデザイン」であり、それを理解すれば、単元の学習目的は概ね達成できたと言えます。しかし、教師が言葉で説

図2 「情報デザイン」のワークシート (抜粋)

3年 組 番 氏名:

◎45秒プレゼンテーション向け、制作したピクトグラム「10年後の自分自身」の制作意図が伝わるよう、適宜発表原稿(400字程度)をまとめること

※発表時本原稿持参不可

ピクトグラムは、自分の思いや気持ちや考えを表現する手段として、コミュニケーションの重要な役割を果たしている。ピクトグラムは、言葉だけでは伝えきれない情報を、視覚的に伝えることができる。また、ピクトグラムは、文化や習慣の違いを超えて、世界中の人々に理解されることが多い。今回の課題では、自分自身の未来を表現するために、ピクトグラムを作成し、発表する。発表の準備として、制作意図を整理し、発表原稿を作成する。

◎問、再び。
情報デザインとは何? その目的は? 芸術のデザインとの違いはどこにある?
情報デザインは、自分の思いや気持ちや考えを表現する手段として、コミュニケーションの重要な役割を果たしている。芸術のデザインは、美的価値を追求し、視覚的に表現することを目指す。情報デザインは、コミュニケーションの目的を達成するために、視覚的に表現することを目指す。また、情報デザインは、文化や習慣の違いを超えて、世界中の人々に理解されることが多い。今回の課題では、自分自身の未来を表現するために、ピクトグラムを作成し、発表する。発表の準備として、制作意図を整理し、発表原稿を作成する。

◎ピクトグラムとプレゼンテーションの総合相互評価
他者の作品と実施したプレゼンテーションについて、クラス内で一番良いと判じた作品の作者の番号(4ケタ)とその理由を記述すること

No.	選出理由
3326	犬を助けて、それを世界に広げようと思った、すごいと思った。



生徒が制作したピクトグラム。仕事もプライベートも充実した将来像がイメージされている。

ピクトグラムの制作と制作意図のプレゼンテーションの後、単元の最初に投げかけた「情報デザインとは何か」という問いに対して、自分の考えを言語化させた。

明するだけでは、多くの生徒にとっては、見た人すべてに同じ内容や意図が伝わるデザインはどのようなものか、その本質を理解するのは難しいでしょう。自身の課題としてデザインを制作し、他者の作品と比較する中で理解が深まると考えます。そこで、単元を次のように構成しました。まず、「情報デザインとは何か」と生徒に問いかけ、自分の考

えを書かせてから、グループ内で考えを共有。その上で、個々にピクトグラムを制作し、デザインの制作意図と工夫点をプレゼンテーションすることを課しました。自身が発表し、他者の発表を聞くという活動を通じて、意図が伝わるように表現することの難しさを実感させてから、単元の最後に改めて「情報デザインとは何か」と問いかけて考えを深めさせ、

ワークシートに最終的な考えを記入させました(図2)。

多くの場合、当初はデザインすることばかりに関心が向き、1000人いたら100通りの解釈ができるような芸術性を志向しがちです。しかし、ディスカッション、ピクトグラム制作、プレゼンテーション、相互評価を通じて教師が誘導することで、「1000人の解釈が合致するもの」という「情報デザイン」の本質を最後には理解できるはず。

例えば、本時の気づきとして、「最初はできるだけ多くの要素を盛り込もうとしたが、他の作品を見るうちに、実は簡潔なデザインの方が伝わりやすいことに気づいた」と書いた生徒がいました。実際に考えを表現する作品制作の中で、伝わる表現とほどのようなものかを考え、試行錯誤したからこそその気づきでしょう。

●成果と展望

新課程では、授業で扱う内容の精選が鍵

情報科目を3年次に配置している本校ですが、現時点では「情報」を受験で利用する生徒はほとんどいま

せん。しかし、大学入試に関係なくとも、真剣に作品を制作し、活発に意見を交わす姿を目のあたりにして、知的好奇心を育むことに寄与できているという手応えがあります。

新学習指導要領が実施される22年度以降の課題には、「情報I」で取り扱う内容がこれまでより広く深くなること、大学入試センターが発表している通り、大学入学共通テストの出題教科になることなどが挙げられます。それらは、高校の情報教育において確実に大きな転換点であり、同時に「情報の先生」に求められることも大きく変わっていくでしょう。

学習内容は増えますが、標準単位数の変更はないため、授業で扱う内容の思い切った精選が重要になることも考えられます。既に公開されている大学入学共通テストのサンプル問題を、生徒自身で解答できるような能力の育成も見据えなければなりません。そのためには、知識や技能の習得だけを目的とする指導から脱却し、生徒に自ら学ぶ姿勢を身につけさせることによって、資質・能力を効果的に育成する指導への転換が必要ではないでしょうか。

単元の指導計画

【教科・科目】情報・社会と情報(理系クラスの「情報の科学」でも実施) 【分野・単元】情報デザイン、コミュニケーション(「情報I」の先行実施) 【テーマ・作品】ピクトグラム制作とプレゼンテーション 【設定時数】全4時間(本時は4時間目) 【単元目標】情報デザインについて、その用途と目的を理解する。

時数	学習内容	身につけさせたい資質・能力	授業の流れ	新課程「情報I」に向けた教師の配慮
1	・1年間のオリエンテーション	【思考力、主体性、協働性】	①教科「情報」について、1年間の基本的な授業の流れを説明。 ②「情報デザインとは何か」をテーマにディスカッションを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 教師は、講義者ではなく司会者という立ち位置で、教えすぎないようにする。 教科書に模範解答が記されておらず、かつ、生徒の日常生活と関連のあるテーマを提示し、ディスカッションを行う。 ディスカッションでは、 <ol style="list-style-type: none"> ①自身の考えを言語化する ②他者の考えを聞いて回る ③自身の考えの変化や深まりを言語化する ④クラス全体で考えを共有することで、生徒が自身の考えを表現し、他者の考えと突き合わせることで、自身の考えを深めることを目指す。 教師は、テーマの提示、話題が脱線した際の軌道修正、メリハリの維持、最終的なまとめといった全体の調整に徹し、生徒主体の学びの実現を目指す。
2	・デザイン(情報・芸術)の目的についての理解 ・「画素」の理解 ・「10年後の自分自身」を表すピクトグラムの制作	【技能、思考力、主体性、協働性】	①「情報分野と芸術分野のデザインの違いと目的」をテーマにディスカッションを行う。 ②ラスタ形式の画像における「画素」の概念を理解する。 ③「10年後の自分自身」をテーマにしたピクトグラムを制作する。	
3	・「10年後の自分自身」を表すピクトグラムの制作 ・プレゼンテーション用の原稿の作成	【技能、思考力、主体性、協働性】	①前時に続けてピクトグラムを制作し、完成させる。 ②プレゼンテーション用の原稿(45秒間、400字程度)を作成する。 ③各自で発表の練習・リハーサルを行う。	
4	・ピクトグラムのプレゼンテーションと相互評価	【技能、思考力、判断力、主体性】	①ピクトグラムのプレゼンテーションを1人45秒間で行う。 ②ピクトグラムとプレゼンテーションの相互評価を行う。 ③単元のまとめとして、「情報デザインとは何か」を改めて考え、ワークシートに記入する。	

※田中先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。



SDGsの達成に向けた取り組みや研究の視点で、大学の学びを紹介する本コーナー。
今号では、持続可能な生産消費形態の確保を目指す目標12と、平和と公正の実現を目指す目標16に関する大学の学びを取り上げる。
まずは、それぞれの目標について、世界と日本の状況を解説した後、目標12は立命館大学、目標16は東京外国語大学の学びを紹介する。



解説

12 つくる責任
つかう責任



目標12
持続可能な生産消費形態を確保する

世界の状況
化学物質や廃棄物の
放出削減への意識が高まる

目標12では、天然資源の持続可能な管理と効率的利用、食品ロスの削減、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出量を大幅に削減することを目指しています。

EU諸国では、農業分野において、化学物質削減への意識が確実に高まっています。例えば、2020

年5月、欧州委員会は、30年までの10年間で化学農薬の使用量を半減させ、有機栽培の面積を全農地の25%に拡大することを宣言しました。

農業使用に関する厳しい基準や規制を設ける国も増えていきます。日本では広く使用されていますが、昆虫に対して毒性のあるネオニコチノイド系農薬は、フランスでは18年から使用が全面的に禁止されました。アジアでも、ベトナムでは、厳しい農薬の使用基準を設けています。ベトナム戦争で撒布された枯葉剤の影

解説

16 平和と公正を
すべての人に



目標16
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

世界の状況
紛争要因や形態が複雑化し、
紛争が困難に

目標16では、国や人種を問わず、誰もが平等になる法律を整え、平和な社会をつくることを目指しています。その際、大きな脅威となっているのが、紛争や暴力、不正です。

SDGsの前身であるMDGs（ミレニアム開発目標）が打ち出されていた2000年代には、国際社会の努力により、紛争やその犠牲者

の数は減っていました。しかし、10年代以降、再び増加しています。その理由の1つが、中東や北アフリカの国々で起こった「アラブの春」と呼ばれる民主化運動です。ほかにも、アフリカのサヘルや南アジアでの紛争も問題となっています。

紛争解決が難しいのは、原因が複雑化しているからです。例えば、アメリカは、対テロ戦争開始から20年を迎える今年の9月までにアフガニスタンの駐留米軍を完全撤退させると表明しましたが、現地の人同士の

* 1 2017年の有機農業の取組面積。出典は、農林水産省「有機農業をめぐる事情」(令和元年8月)。 * 2 Internet of Thingsの略。スマートフォンやパソコンだけでなく、様々な物に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり、相互に通信したりして、自動制御や情報収集などを行うこと。

響で多大な健康被害が起きた歴史から、国民が農業への危機意識を持っているからです。

日本の状況

生産性と安全性を両立する循環型農業の推進を

1960年代までの日本は、堆肥や下肥（しよへ）を利用し、生物の循環を利用した有機農法を行っていました。しかし、農作業の機械化が進み、農作物の規格化が図られるにつれて、化学肥料を使う割合が増えていきまし。現在、国内の化学肥料や農薬を使用しない有機農業の面積は、農地面積のうち、0.5%です（*1）。そうした現状を打開すべく、農林水産省は、50年までに、環境負荷の

少ない持続可能な農林水産業の実現を目指し、農業分野では、有機農業の面積を国内の農地面積の25%にあたる100万ヘクタールまで拡大する計画を立てました。

そうした循環型農業を広げていくためには、生産者や消費者に有機農法の有用性や安全性を啓蒙する必要があるのでしよう。私の研究でも、化学肥料を使った土壌は微生物が少なく、野菜に必要な栄養分（窒素・リンなど）が不足していることが分かりました。一方、有機肥料を用いた土壌は有機物が多く、ミネラルなどの栄養素が高い野菜を収穫できることが明らかになっています。

また、安心・安全な野菜を多くの消費者に届けるためのシステムづくりも重要です。例えば、農家や企業、大学などが連携し、A-1やO-1（*2）を活用した高い生産性と安全性を両立する次世代の農業への転換が求められています。

P.56～57で、目標12の達成に向けた「立命館大学」の学びを紹介します。

解説者



立命館大学
生命科学部 教授
久保幹
くぼ・もとき

専門分野は、環境科学、環境微生物学、農学。広島大学大学院工学研究科博士課程前期課程修了。博士（工学）。立命館大学理工学部助教、同大学理工学部教授を経て、2008年から現職。

争いが拡大しているというのが現状です。また、紛争の形も、軍事ドローンが使われるなど、大きく変わってきました。

紛争解決を目指すには、国境横断的に問題に取り組む必要があります。具体的には、国際連合に加え、地域機構や準地域機構（*3）が手を取り合い、ネットワーク型の紛争解決の手立てを考えなければならぬいでしよう。

日本の状況

平和と公正の意味を本質的に見直し、国際貢献を

日本は紛争がなく、殺人や暴力などの発生件数も他国に比べて少ないため、17の目標のうち、既に達成し

た数少ない目標の1つです。しかし、自国と他国のための取り組み、そのどちらにおいても課題があります。

国内では、特に公正に関する課題に取り組む必要があるでしょう。ターゲット5の「あらゆる形態の汚職や贈賄を大幅に減らす」を例に挙げると、確かに日本では、途上国で起きているような汚職や賄賂はありません。ただ、汚職度ランキング（*4）では、180か国中19位で、上を目指せる余地があります。ジェンダー平等に関してはさらに課題があり、国会議員の女性の数は、193か国中166位（*5）で、積極的な取り組みが必要です。

他国の平和と公正のために、資金援助などの国際貢献を行うことは重要です。詳細な数値目標にとらわれ過ぎず、そもそも平和で公正な社会とはどうあるべきか、現状を本質的に見直し、具体的な取り組みを考える必要があるでしょう。

P.58～59で、目標16の達成に向けた「東京外国語大学」の学びを紹介します。

解説者



東京外国語大学
大学院
総合国際学研究院
教授
篠田英朗
しのだ・ひろあき

専門分野は、国際政治学、平和構築。早稲田大学大学院政治学研究所修士課程修了、ロンドン大学大学院にて国際関係学Ph.D.取得。広島大学准教授などを経て、2013年から現職。

* 3 政治や経済の協力を進めるために結成する組織のこと。代表的な地域機構にEUやASEANなどがある。 * 4 2020年、Transparency International「腐敗認識指数」より。 * 5 2021年3月、列国議会同盟より。

大学の学び

生命科学の基礎と思考力を生かし、
安心・安全な野菜作りを目指す
立命館大学 生命科学部 生物工学科
生物機能工学研究室

低学年次は生命科学の基礎を
幅広く学び、興味を広げる

立命館大学生命科学部生物工学科は、食料・環境・生物資源・エネルギーに関する諸問題の解決に貢献する研究者や技術者を育成する学科だ。

私たちが紹介します



立命館大学大学院
生命科学研究所
修士課程2年
雲川雄悟
くもかわ・ゆうご

京都府・私立立命館中学・高校卒業。立命館大学生命科学部生物工学科卒業。



立命館大学大学院
生命科学研究所
修士課程2年
坪倉美紗
つぼくら・みさ

京都市立西京高校卒業。立命館大学生命科学部生物工学科卒業。

同大学大学院生命科学研究所修士課程2年の坪倉美紗さんは、同学科を志望した理由を次のように話す。

「高校時代、生物の授業が好きで、中でも肉眼で見えない微生物に興味を持ちました。農学や生物学などを幅広く学びながら、微生物の働きの1つ『発酵』について理解を深めたいと考え、本学科に入学しました」

同学科の1・2年次は、全学科共通の専門基礎科目を履修し、化学、生物、物理、数学、情報の基礎を学ぶ。2年次からは専門科目も履修する。

坪倉さんは、微生物の発酵というミクロな視点での研究に興味があったが、学科の専門科目の1つである「地球環境学」を履修し、マクロの視点で学ぶことにも関心を持った。

「琵琶湖について学ぶ授業では、琵琶湖の特徴や、固有種『ゴロブナ

を使った鮎寿司あなづしの歴史などを通して、生物の多様性や保全について学びました。環境は、社会や文化と深く結びついていることを知り、視野を広く持つて学ぶ大切さを実感しました」

同研究科修士課程2年の雲川雄悟さんは、環境や生物など、マクロな視点で学びたいと同学科に入学したが、2年次の専門科目「微生物学」を履修し、微生物に興味を持った。

「石油タンカーが座礁した際、海に流出した原油を除去するために微生物が利用されていることを知りました。様々な場面で活躍する微生物を深く研究したいと考えました」

自ら手法を考え、仮説を
立証していく重要性を実感

3年次では、専門領域を体系的に

学びながら、後期には研究室に所属する。2人はともに、久保幹教授もとみの生物機能工学研究室に入った。久保教授は、化学肥料を使わない、新しい農業システムの開発など、「目標12 つくる責任つかう責任」に貢献する研究を行っている。坪倉さんは、1年次から米の無農薬栽培を行う自主ゼミで活動した経験から、同研究室で微生物の働きを活用した有機栽培を研究したいと考えた。

研究室に入るとまず、自分たちで手法を考えて、土壌から微生物を抽出する実験を行い、その成果を発表する。

「条件の違いで抽出できる微生物が異なり、研究の面白さを感じるとともに、手法をいくつも変える重要性を認識しました」(坪倉さん)

4年次には、個人でテーマを設定

この学びに関する
他のSDGsの目標



して、卒業研究に取り組む。研究室では、学部生と院生が学び合う。「学部生の発表にも、院生が毎回コメントをしてくれます。試薬の混ぜ方一つとっても効果的な方法があることを助言してもらい、勉強になりました」（雲川さん）

陸の資源を活用し、安全な野菜作りへの貢献を目指す

2人は大学院に進学し、同じ研究室で学部生時代の研究を続けている。坪倉さんの研究テーマは、肥料の種類と作物の根張りの関連だ（写真1）。有機肥料と化学肥料の違いが根張りにどのような影響を及ぼすのかは、科学的に実証されていない。そこで坪倉さんは、根の張



写真1 坪倉さんは、肥料の違いによる根張りの影響に関する研究に取り組んでいる。たくさんのサンプルを検証するため、丁寧な作業が求められる。

り方をどのように評価するか、その方法の研究から始めた。特に苦慮したのは、実験の条件を整えることだった。

「有機肥料と化学肥料とでは、養分が植物に吸収されるまでのプロセスが異なるため、同じ量の肥料を与えても、根に有効に働く物理量が変わります。どの条件にそろえればよいのか、試行錯誤しました。また、根が見えやすいよう透明の容器で栽培しました。根の数や伸びの角度を計測し、全重量に対する根の割合も算出するなど、定量的な評価を行って、比較分析しました」（坪倉さん）

その結果、同じ期間で栽培しても、有機肥料を与えた方が側根が多く、葉も大きく育つことが分かった。

「有機肥料など、陸の資源を上手に使い（目標15）、安心・安全な農作物の収穫量を上げることに関献したいです（目標2）」（坪倉さん）

雲川さんは、学部生時代からアブラナ科の野菜の根が変形する「根こぶ病」について研究している（写真2）。微生物を多く含む有機土壌で育てると、この病気の発症が抑えられることが分かってきた。



写真2 大学近くの畑で野菜の生育状況を確認する雲川さん。根こぶ病を抑制できる土壌を研究し、野菜の収穫量増加に貢献したいと考えている。

「今後は、微生物が有効に働くメカニズムの解析をしたいと考えています。植物を用いた実験は、個体差や季節による発育差が影響するため、難しいですが、根気強く取り組み、安心・安全な野菜の栽培に貢献したいです（目標12）」（雲川さん）

2人は、研究で培った経験を生かせる農業関連の組織・企業への就職を希望している。

「研究を通じて、仮説に対して自分なりの答えを発見することによりがいを感じたので、研究職を目指しています」（雲川さん）

「研究の社会的な意義を理解し、実験を深めるために、評価法を考えるなど、様々な角度から考えることの大切さを学びました。その視点を仕事に生かしたいです」（坪倉さん）

学びとSDGs

研究に必要な思考力を 試行錯誤しながら身につける



生命科学部 教授
久保幹 くん・もとき

私の研究室では、自然の物質循環を生かした安心・安全な農作物の生産上の微生物と植物の成長について研究しています。学生それぞれが、農業に貢献することを目指し、実践的な研究を行っています。

私が研究で最も大切だと考えるのは、思考力です。課題設定から問題解決まで、1つの軸を持って物事を進めるための重要なスキルだからです。科学技術の進歩とともに、求められるスキルは日々変化していきます。ですから、学生にはまず、土台となる思考力をしっかり身につけてほしいと考えています。学部で行う学生実験は答えがあります。研究室での研究は自ら問いを立てるところから始めるため、苦労の連続です。そこで、研究室表彰や学科表彰などの体制を整え、学生が前向きに、意欲を持って研究を続けられるようにしています。

生命科学に興味のある高校生には、自然とその中の生命活動を意識した体験や勉強をしてほしいと思います。



大学の学び

実践的な問題解決能力を身につけ、 各地域での平和構築への道筋を考える

東京外国語大学 国際社会学部 国際関係コース
篠田英朗研究室

専攻言語の運用能力を身につけながら、その地域の状況も学ぶ

東京外国語大学国際社会学部は、グローバルな視点で問題を考え、その解決ができる実践的な能力を備える人材を育成している。

1・2年次は、全学部共通の教養科目を履修しながら、14の地域、27の言語から入学時に選択した地域と

私たちが紹介します



国際社会学部
国際関係コース4年
洲鎌 慎吾
すがま・しんご
東京都立小松川高校卒業。



国際社会学部
国際関係コース4年
山崎 有紗
やまざき・ありさ
千葉県立東葛飾高校卒業。

言語にかかわる基礎的な内容を学ぶ。同大学国際社会学部国際関係コース4年の山崎有紗さんは、中央アジア地域、ロシア語を選択した。

「将来の夢は、国連で働き、途上国の教育支援に携わることです。そこで、英語以外にもう1つ国連公用語を習得したいと考えました」

選択した言語の高度な運用能力を身につけるため、1・2年次は、週5日、文法や読解などの語学の授業を履修する。同学部4年の洲鎌慎吾さんは、ラテンアメリカ地域、スペイン語を選択した。

「2年次は、読解の課題文のテーマが、ラテンアメリカの経済や古典文学、難民問題などになり、専攻地域についての知識が身につきました。また、概論科目で理論を学ぶ際にも、専攻地域を具体例として考える

ことで、理論が理解しやすくなりました」(洲鎌さん)

国際機関で用いられる 問題解決の手法を学ぶ

2年次後期からは、同学科の3コース(*1)の専門科目を履修する。

『ふつうの人々とナチ体制・ホロコースト』という授業で、当時の手紙や日記などを分析し、『ふつうの人々』がどのようにナチス体制に関与していたかを学んだことで、人の攻撃性に関心を持つようになりまし

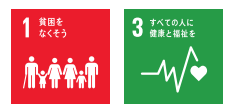
た(洲鎌さん)
3年次には、3つのコースから選択した1コースに進み、同時に研究室にも所属する。2人は国際関係コースに進み、平和構築や紛争解決にかかわる研究をする篠田英朗教授

の研究室に入った。

「1年次の冬に、ケニアの孤児院と小学校でボランティア活動をしました。水くみのために学校を休む子どもにも『学校に来るように』と言えなかつた経験が、強烈に印象に残りました。そこで、まずは命を守る人道支援をしたいと考えました(目標1,3)」(山崎さん)

篠田研究室では、「目標16 平和と公正をすべての人に」への貢献を目指す研究を行っている。研究室の学びで大切にしているのは、問題解決能力の育成だ。国際機関への就職を希望する学生に加え、コンサルティング会社や商社へ就職する学生も多いため、汎用的なスキルを鍛えていく。JICAや大手コンサルティング会社などで用いられる問題解決の手法を学びながら、政策立案

この学びに関する
他のSDGsの目標



*1 地域社会研究コース、現代世界論コース、国際関係コース。

を実践する。

「商品売るためのマーケティングから紛争問題まで、様々なテーマの問題分析に取り組みました。何度も取り組むことで、問題を構造的に分析するイメージを少しずつつかむことができました。JICAや国連の手法を学べたのも、政策立案を理解する上で貴重でした」(洲鎌さん)

留学経験を生かし、 平和構築のための研究を行う

同研究室には、3年後期から留学をする学生が多い。山崎さんは「トビタテ！留学JAPAN」(※2)に応募し、ウクライナの大学に留学した(写真1)。

「ホストファザーからは徴兵の経



写真1 山崎さんは、ウクライナの大学で約1年間、ロシア語の授業を履修。現地の学生や大使館職員、ジャーナリストと交流し、人脈をつくることができた。



写真2 コロンビアの先住民地区の住民にインタビューする洲鎌さん。国内避難民や元ゲリラ兵にも会い、コロンビアの現状への理解が深まった。

験を、大学の友人からは日常的に戦車が走っていた状況などを聞き、この国で紛争が起きていたことをリアルに感じました。また、大使館の方などからは、ウクライナの情報にはフェイクニュースが多いと聞きまし
た。卒業論文では、正確な情報を収集し、ウクライナ東部の紛争解決への道筋を自分なりに考えていきたいです(目標16)(山崎さん)

洲鎌さんは、大学の交換留学制度を利用してコロンビアに留学し、同国の平和構築を学んだ(写真2)。

「コロンビア政府は2016年に左派ゲリラと和平合意を結びましたが、和平合意から離脱する勢力の出現や、政府による合意内容履行の停滞などの問題から、一部では激しい暴力が続いています。安定した平和

のために、加害者側の社会復帰に着目する重要性を強く感じるようになりました」(洲鎌さん)

洲鎌さんは、卒業論文では、テロリストのリハビリテーションをテーマに、暴力を容認しないよう、対象者の考え方を変容させる脱過激化の手法について考察した(目標16)。

「政治学などに加えて犯罪学や心理学の文献と研究室で学んだ問題解決手法を用い、テロリストの脱過激化のプロセスとその実現可能性を分析していきました」(洲鎌さん)

多様な地域・言語を選択した仲間が集まる研究室では、学び合いも盛んだ。コロナ禍で授業がオンラインになった際は、ゼミ生が声をかけ合い、自主ゼミを実施した。

「コロンビア以外の紛争解決の事例を知るとは、世界の問題を把握し、自分の研究を深める上でも有意義だと感じました」(洲鎌さん)

大学卒業後、2人はともに紛争解決学が盛んなイギリスの大学院への進学を希望している。

「将来的には国際機関に入り、ロシア語圏を中心に人道支援に携わりたいです」(山崎さん)

学びとSDGs

問いに対する解決策を適切に
デザインする力を鍛える



東京外国語大学大学院
総合国際学研究院
教授
篠田英朗
しのだ・ひであき

私の研究室で最も力を入れているのは、問題解決能力の育成です。問いの設定から解決に至るまで、論理的に考えることを重視しています。

特に重要なのは、問いに対する解決策を、実現可能性や予算などを考慮し、適切にデザインすることです。この「適切さ」をつかむためには、自分が何に着眼して、どのような答えに導きたいのかといった視点を持つことが基本となります。例えば、紛争の解決策を考える際には、原因をピラミッド型の階層にし、その中の1つに焦点をあてて分析するという手法があります。そのように焦点を絞り、問いのレベルに合った解決策を考え出す手法を様々な学びます。

そして、学んだ理論や手法を用いて学生が主体的に学べるよう、3年次はワークショップ形式で様々なタイプの問題解決に取り組んだり、グループで関心のあるテーマに対して政策立案を行ったりして、机上の空論に終わらせないようにしています。

* 2 グローバル化に対応する人材育成を強化するため、国が企業や団体と連携し、海外留学を支援する制度。

トレンド・ワード

ライフシフト

生徒の学びや進路選択、そしてその後の人生に影響を与えるような革新的な技術や価値観を「社会のトレンド」として、「働く」「学ぶ」「暮らす」の観点から解説する本コーナー。今回は「ライフシフト」を取り上げる。人生100年時代と言われる長寿社会では、旧来の人生モデルは通用せず、生涯にわたって柔軟にキャリアを形成する生き方への転換、いわゆる「ライフシフト」が必要だという考えが、1冊の書籍をきっかけに広まっている。ライフシフトの考え方や、マルチステージの人生に必要な資質・能力などについて、一般社団法人日本ライフシフト協会(*1)の松下尚史代表理事に話を聞いた。

一般社団法人日本ライフシフト協会 代表理事



解説者

松下尚史

まつした・ひさし
 大手メーカー、外資系経営コンサルタント、外資系IT企業の人材育成担当と、約9年半ごとにライフステージをシフトした後、現在は自動車外資系企業のカントリーHRリーダーを務める。2017年、一般社団法人日本ライフシフト協会を設立。

サマリー

人生100年時代に適応して柔軟にキャリアを形成することで、自分らしい人生を実現

医療や教育などの改善で、世界的に長寿化

人生100年時代の生き方や働き方を提唱し、世界的ベストセラーとなった『THE 100-YEAR LIFE』100年時代の人生戦略(*2)。ライフシフトは、長寿化が進む中で、経済成長の先に出現した、多様な価値観が受け入れられる社会の変化に適応し、自らの

幸せな人生とは何かを希求して、全うしていく生き方を意味する。一般社団法人日本ライフシフト協会の松下尚史代表理事は、こう説明する。

『ライフシフト』は、原著では使われておらず、日本語版発刊に際して考案された日本独自の言葉になります。それが広く浸透したのは、社会の変化を受け、これまで正しいとされてきた生き方に不安が生じ、本

書で提唱された考え方が多くの共感を得られたからだと考えています」

世界各国で寿命が延びている背景には、医療や教育などの改善、科学技術などの発展が挙げられる。特に日本は、世界で最も平均寿命が長い国の1つだ(図1)。「THE 100-YEAR LIFE」では、2007年に日本で生まれた子ども半数は107年間以上生きるとされ、50年までに100歳以上人口は

100万人を超えるといった国連の推計が紹介されている。

社会の変化に合わせて、人生モデルの転換が必要

ライフシフトが注目されているのは、これまでの「教育↓仕事↓引退」という「3ステージ」の人生モデルでは、生活が成り立たなくなるためだ。「人生100年」とすると、60歳で退職した後に貯蓄と年金だけで生活するのは厳しいでしょう。高齢期にそれまでと同じペースで仕事を続けるのは大変ですし、持っている知識や技能が、役に立たなくなっている

*1 一般社団法人日本ライフシフト協会問い合わせ先 sec@life-shift.or.jp *2 ロンドン・ビジネススクールのリンダ・グラットン教授、アンドリュー・スコット教授による共著。原題は、『THE 100-YEAR LIFE』。日本では、東洋経済新報社から2016年に刊行。

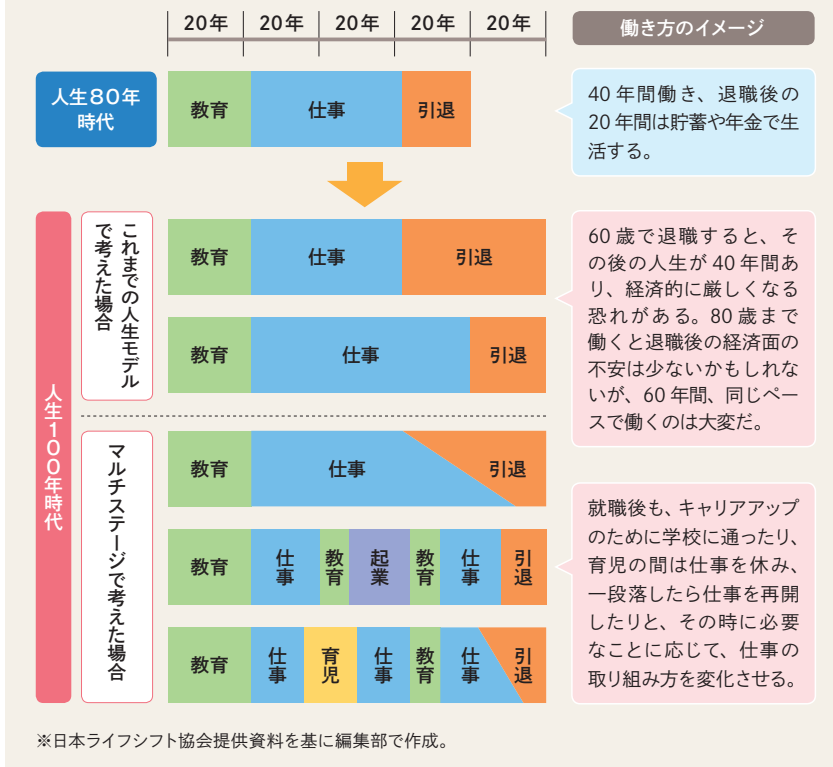
図1 世界各国の平均寿命(抜粋)

男性(歳)	順位	国名(年)	平均寿命(歳)	女性(歳)	順位	国名(年)	平均寿命(歳)
	1	スイス(2018*)	81.7		1	日本(2019*)	87.45
	2	日本(2019*)	81.41		2	スペイン(2019*)	86.22
	3	シンガポール(2019*)	81.4		3	韓国(2018*)	85.7
	4	スウェーデン(2019*)	81.34		4	シンガポール(2019*)	85.7
	5	ノルウェー(2019*)	81.19		5	フランス(2019*)	85.6
	6	アイスランド(2018*)	81.0		6	スイス(2018*)	85.4
	7	イタリア(2018*)	80.88		7	イタリア(2018*)	85.182
	8	スペイン(2019*)	80.87		8	オーストラリア(2016-2018*)	84.9

注1) 国連「Demographic Yearbook 2018」。()内は、作成基礎期間。*印は、平均寿命が当該政府の資料によるもの。*厚生労働省「令和元年簡易生命表の概況」を基に編集部で作成。

かもしれません。そこで、年齢に応じて仕事のペースを変えたり、仕事の変化に合わせて学び直したりと、働き方を柔軟に変える『マルチステージ』の考えが出てきたのです(図2)。
長寿化だけではなく、科学技術の急速な進展やグローバル化による国

図2 「3ステージ」から「マルチステージ」の人生へ



際競争の激化によっても、学びと仕事を生き残るキャリア形成の重要性は高まると考えられている。
決まった人生モデルがなく、自分らしい生き方を追求
長寿化によって変化するのは、働

き方だけではない。教育のあり方や家族との関係、余暇の過ごし方、住まいの考え方、結婚や出産のタイミングなど、人生のあらゆることに影響するといえる。平均寿命とともに健康寿命も延びると考えられており、70歳、80歳になっても、若々し

く生活や仕事を楽しむ人が増えるなど、新たな高齢者像がつけられることにもなりそうだ。
ライフシフトで提唱されるマルチステージの人生では、多様な生き方が存在する。3ステージの人生モデルが通用しなくなり、自分の考えや能力を頼りにキャリアを形成することに、不安や戸惑いを感じる人がいるかもしれない。その反面、自分らしい人生を実現しやすい時代とも言える。
「これからは、多様な選択肢から自らキャリアを選び、自分の人生をつくり上げていく喜びが得られやすい世の中となるでしょう。年代によって受け止め方は異なると思いますが、基本的にはどんな年代の人であってもポジティブな気持ちでライフシフトに取り組むことで、長寿化を恩恵と捉え、長い人生を一層楽しめるようになるに違いありません」

●次ページからは、「働く」「学ぶ」「暮らす」の3つの切り口で、ライフシフトによる、社会や生活の変化を具体的に見ていく。

働く

人生の段階に合わせて働き方を変化させる

長寿化が進むと、人生の中で働く期間は長くなる。それは、生活費や退職後の生活に向けた貯蓄のためだけでなく、長い人生において張り合いのある毎日を過ごし、自己実現を

目指すといった意味合いも持つ。働く上で必要とされる知識や技能は時代によって変わるが、科学技術の進化が著しい現代は、その変化が激しい。

図3 マルチステージにおける3つの生き方

エクスプローラー (探検者)

様々な可能性を試す、探検・探索の期間。新しい町に移ってその土地の人と知り合ったり、知らない国を旅して自分の生き方について考えたりするなどの活動が考えられる。知識や技能の再習得に取り組む時期も含まれる。

インディペンデント・ プロデューサー (独立生産者)

組織に雇われず、起業家やフリーランスといった独立した立場で生産的な活動に携わり、専門的な知識・スキルを身につけていくステージ。企業と新たなタイプのパートナー関係を結ぶなどの形態も考えられる。

ポートフォリオ・ ワーカー

異なる活動を同時並行で行う時期。例えば、平日5日のうち、組織に所属して所得を得るための仕事が3日で、残り2日は1日が地域でのボランティア活動、1日がNPOの理事会に出席といった形が考えられる。

※日本ライフシフト協会提供資料を基に編集部で作成。

「生涯にわたってリカレント教育(学び直し)による『Re-Creation(自己再生)』を繰り返し、その時々々に求められる知識や技能を獲得し直す姿勢が不可欠になるでしょう」

マルチステージの人生モデルでは、「エクスプローラー(探検者)」「インディペンデント・プロデューサー(独立生産者)」「ポートフォリオ・ワーカー」という新たな3つの生き方が提唱されている(図3)。

「これまでの人生モデ

ルでは、『学校教育は20代まで』など、教育を受ける期間や仕事を行う期間が年齢と結びついていました。マルチステージでは、教育や仕事は、年齢や経験にかかわらず、一人ひとりの生活スタイルや将来像に合わせて選択していくという考え方が基本となります」

例えば、世の中を見て回り、自分を生かせる場所を探す「エクスプローラー」のステージは、学校卒業後の若い時期に行うイメージがあるが、40代半ばに仕事に行き詰まりを感じて改めて活躍の場所を模索することも考えられる。子どもが小さいうちは、「ポートフォリオ・ワーカー」

として育児やPTA活動に精を出し、子育てが一段落したら「インディペンデント・プロデューサー」として起業し、ビジネススキルを磨くといったキャリアも考えられる。

これまでは、定年退職を迎えた翌日から仕事をしないと聞いたケースが一般的だったが、マルチステージの人生では引退の仕方も多様だ。

「60歳頃から仕事量を徐々に減らし、無理なく仕事を続けるといった働き方も考えられます。一方で、家族・地域との交流や趣味など、プライベートの時間を少しずつ増やすことで、引退後の生活を充実したものにすることができるようでしょう」

学ぶ

無形資産の形成につながる教育を

人生100年時代において身につけておきたい資産・能力を考える上で参考になるのが、「無形資産」という概念だ。それは、「生産性資産」「活力資産」「変身資産」の3つから成る(図4)。いずれも目に見える

ものではないが、それ自体が価値を持つとともに、有形資産の形成を助けるという性質もある。

「これまでは、お金や不動産といった有形資産が目目され、無形資産はあまり意識されていませんでした。

図4 有形資産と無形資産

有形資産	お金、家、土地など
無形資産	生産性資産 仕事で成功し、所得を増やすために役立つ要素 例) 知識・技能、仕事仲間、評判
	活力資産 肉体的・精神的な健康と幸福 例) 健康、バランスの取れた生活、友人関係、パートナーや家族との良好な関係
	変身資産 人生の途中で変化と新しいステージへの移行を成功させる意思と能力 例) 自分についてよく知っていること、多様性に富んだ人的ネットワーク、新しい経験に対して開かれた姿勢

※日本ライフシフト協会提供資料を基に編集部で作成。

しかし、長い人生を通して生産活動を続けていくためには、自身の健康や家族・友人との良好な関係、多様に富んだ人的ネットワークなど、様々な無形資産を築くことが必要だと考えられています」

それらの無形資産は、生涯にわたって徐々に蓄積されていくが、高校時代にその土台を培えるものも多い。

「無形資産を培うために有効だと考えられているのが、『主体的・対

話的で深い学び』です。生徒が自分で課題を見つけて主体的に学ぶ姿勢は、まさに変身資産の1つと言えます。探究学習などを通じて社会と接点を持つ経験は、多様な人的ネットワークを築く大切さを理解することにもつながるでしょう」

教師自身が無形資産を形成していくことも、これからの教育に欠かせない。例えば、教師が学校外に豊かな人的ネットワークを築くことで、教育活動に広がりを持たせられるだろう。

「先生方にも、できるだけワークライフバランスを意識して、人間性や個性を伸ばすことを大切にしていほしいと思います。ほかの職業を体験して外の世界を知る『越境プログラム』への参加なども、先生自身の無形資産の形成につながるでしょう。そうした経験を通じて、人間として厚みが増した先生方がライフシフトについて語るにより、生徒は将来に対して一層ポジティブなビジョンを持つはず」

暮らす

家族のあり方や暮らし方の多様化も進む

人生の時間が延びることで、人々の暮らしにも変化が起こるだろう。例えば、マルチステージの人生モデルが浸透すれば、家族との関係や夫婦の役割分担が変わっていくと考えられる。

「マルチステージの人生では、夫と妻の双方に経済力がある方が、生活や仕事の変化、病気や事故などのリスクに対応しやすいと言えます。例えば、夫が新たなスキルを習得するために休職している間に妻が生活費を稼いだり、出産前は共働きで貯蓄に励んでおき、子どもが幼いうちは2人とも仕事を抑えて育児を楽しんだり、教育や仕事などの状況に応じて柔軟に役割を変えられるようになります」

そのようなパートナー関係が社会に広まれば、男性は仕事、女性は家事や育児といった旧来の性別による役割分担の考え方が崩れ、ジェンダーの不平等が解消に向かうことも

期待される。

さらに、働き方が多様化すれば、ワークライフバランスの考え方は一層浸透していくはずだ。

「仕事に打ち込むだけでなく、家族や地域との関係づくりを大切にしたり、余暇の時間を充実させたり、『暮らしを楽しむ』という考え方が、

これまで以上に大切にされるようになるでしょう。また、働き方や暮らし方を柔軟に変えられるようになれば、例えば、ある時期には都会と田舎の両方に居住拠点を持つなど、住まいに対する考え方も変化していくと思われます」

プライベートの時間に培った無形資産を生かして仕事の生産活動をさらに充実させる。ワークライフバランスを通じて、そうしたサイクルを生み出すことが、長く働き続け、充実した人生を歩むためには重要になりそうだ。

生活に必要なお金のことを、 自分事として捉えさせる

本校では2021年度、3年次1学期の「総合的な探究の時間」において、「お金」について考えよう」と題した経済金融教育を導入しました（*1）。女子校である本校の使命は、自立した女性の育成であり、自立に経済的観念は不可欠です。多くの女子校が共学化する中、本校だからこそすべき教育があると考えています。

本単元で育成を目指す資質・能力は、予測不可能な社会においても、変化に柔軟に対応できる力です。日本は依然として男女の賃金格差が大きいという現実と、それに対処する術を社会に出る前に知っておくことで、環境が変わっても、自分の生活を守り、人生を切り拓いていけるのではないかと考えました。

単元は、まず、高校生活にかかる費用やスマートフォンの利用料など、生徒にとって身近な話題から始める構成とし、お金のことを自分事として捉えられるようにしました。そして、賃金や進学費用、保険などについて学び、最後に自分のライフプランを作成するという展開です（図）。

図 「『お金』について考えよう」単元計画(全15時間)

授業時数	テーマ・内容
1・2	なぜ、女性が金融について学ぶのか お金を自分事化する①1・2年次の2年間で かかった費用を計算する
3・4	なぜ、女性が金融について学ぶのか お金を自分事化する②携帯電話を契約する
5	生涯賃金について詳しく知る(性別、職種、 雇用形態、学歴、地域での違いなど)
6	日本の現状、今後の日本について考える (ジェンダー・ギャップ指数 ^{*3} を用いる)
7・8	進学に必要な費用を把握する(奨学金を受け て、1人暮らしをした場合を想定する)
9	保険について(保険が必要な理由、保険の種 類など)
10	よく聞く「ローン」とは(家の購入を前提にロー ンについて考える)
11	悪徳商法に騙されない(悪徳商法の手口や 被害の状況、被害に遭った場合の対処など)
12	ライフイベントにかかる費用について(進学、 結婚、子育てなどにかかる費用を調べる)
13	積み立てについて(iDeCo ^{*4} やNISA ^{*5} につ いて調べてレポートを作成)
14・15	ライフプランを組む

上記の単元計画は、生徒の状況に応じて変更する場合もある。
※学校資料を基に編集部で作成。

これまで、家庭の経済状況によつて、希望進路の変更を余儀なくされた生徒もいたため、お金のことを自分事として捉え、家庭で話し合っほしいという意図もありました。

生徒の気づきを踏まえて、 授業をアップデート

毎授業その日の気づきを「[Case]」(*2)を用いてポートフォリオにまとめさせています。1・2時間目に、男女別の平均寿命や生涯賃金などを示した上で、高校生活でこれまでかかった費用を算出させた際には、生徒から、「今まで以上にお金の使い方を知りたい」といった当

事者意識の深まりが見られた感想だけでなく、「女性が働いて稼げる環境をつくりたい」といった社会に目を向けた声も上がっていました。「社会の問題を解決できる人間」の育成は、本校の教育目標の1つです。そうした人間となる萌芽が見られ、うれしく思います。

ポートフォリオは、生徒にとって学びを深め、成長を可視化する有益なツールであり、教師にとっては授業改善のための貴重な資料です。振り返りを見取る中で、生徒の資質・能力の育成に寄与すると分かった仕かけは、すぐに次の授業に取り入れていきたいと思います。



学校改革委員チーフ
植木規裕
つえき・のりひろ

教職歴19年。同校に赴任して16年目。

学校概要

◎常盤木学園高等女学校として開校。「自由と芸術」を創立の精神とする。2018年度、学校改革に着手。「自立・自活できる人間」社会の問題を解決できる人間」の育成を目指す。部活動は、サッカー部が全国大会優勝の実績を誇るほか、器械体操部や新体操部、陸上部などが全国大会出場の実績がある。

◎設立 1928(昭和3)年

◎形態 全日制/普通科・音楽科/女子校(音楽科のみ共学)

◎生徒数 1学年約300人

◎2021年度入試合格実績(現浪計)
国公立大は、東北大、筑波大、東京藝術大などに11人が合格。私立大は、獨協大、中央大、桐朋学園大、東洋大、日本大、関西大などに延べ150人が合格。

VIEWn-expressでは、
同校の経済金融教育について
さらに詳しく紹介!
「ウェブで見学 学びのnext」
もご覧ください

VIEW n-express 検索

*3 世界経済フォーラムが公表している世界各国の男女間の不均衡を示す指標。 *4 個人型確定拠出年金のこと。毎月のかけ金を自分自身で運用しながら積み立てていき、原則60歳以降に老齢給付金を受け取る仕組み。 *5 株式や投資信託などの運用益や配当金などが非課税になる制度。



VIEW next 編集部に異動して、早2か月が経ちました。いまだコロナ禍が続いていますが、今号の製作においても、万全の感染対策を講じた上で、何校かの学校取材で訪れました。そのうちの1校で、特集の実践事例でご紹介した香川県立高松北中学校・高校を訪れた際、校内に生徒たちが製作したスロープがあると伺い、案内いただきました。何とこのスロープは、バリアフリーについて学んだ生徒たちが、自分たちで企画・設計し、材料を調達して製作したそうです。生徒たちの主体性に、ただただ驚かされました。新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指し、学校教育は大きく変わってきていますが、生徒たちはその環境で学び、育っているのだと実感しました。(山本)



VIEWnext
高校版は

電子ブックで閲覧可能です

『VIEW next』高校版、『VIEW21』高校版
2020年4月号以降は、電子ブックでご覧
いただけます。ベネッセ教育総合研究所
のウェブサイトでご確認ください。

HOME → 教育情報 → 高校向け → 情報誌最新号

<https://berd.benesse.jp>

VIEWnext

高校版 2021年8月号

8月20日発刊
(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発刊です

先生方から
ご意見を
紹介します

Reader's VIEW

2021年4月号へのご意見

『VIEW next』に期待

『VIEW next』の創刊、おめでとうございます。新しいコーナー構成により、読者個々の属性に合わせて関心ある事項や事例を読むことができそうだ。色の使い方も今風で見やすい。これからの号にも期待している。

静岡県 匿名希望

新学習指導要領の要点を改めて把握

4月号の特集「新教育課程編成」では、最初に「課題整理」があり、2校の事例を読む前に新学習指導要領の要点を改めて押さえられたのはよかった。両校とも、学校のランドデザインを軸にして新教育課程を検討しており、やはりそれが基本的な進め方なのだと再認識できた。

龍谷大学高大連携推進室 堀 浩司

これからも教育課程の不断の見直しを

本校は既に新教育課程を完成させたが、4月号の特集で紹介された「履修科目・年次検討時の3つの視点」に興味深く読んだ。完成させたら終わりではなく、記事にあった3つの視点を大切にしながら、どのような学校を目指すのか、どういった生徒を育てたいのかを踏まえて、運用後も教育課程を見直していこうと改めて思った。静岡県立御殿場高校 松山 陸

学年団での意思疎通が大切

学年団にチームづくりを聞く「輝く学年団を訪ねて」は、新しい視点の記事であり、感動した。学年団で意思疎通を図り、教師間でぶれずに指導することは非常に重要であり、生徒・保護者からの信頼を得るために必要不可欠だ。そんな教師集団による3年間の指導を通じて、生徒は成長し、教師も力を伸ばしていく、そんなことを確信した。

兵庫県 匿名希望

記事を読んで授業を間近で見ることができた

4月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された北海道・市立札幌平岸高校の對馬光輝先生の授業は、現代文の定番教材『こころ』に探究的にアプローチするものだった。「問いを立てる」ための指導の工夫、キーの発問を深く考えさせるための展開など、授業が具体的かつ詳細に記されており、間近で見ているようだった。東京都立北園高校 鈴木公美

高校でも「日本語の4技能」の指導を

4技能と言えば「英語」のイメージがあるが、4月号の「誌上で見学学びのnext」で「日本語の4技能」という文字を見た瞬間、はっとさせられた。最近、3年生に面接指導をしていると、口頭での表現力が以前と比べて低くなっていると感じていた。日本語を「話す・聞く・書く・読む」といった技能は、初等教育での指導だけでなく、中等教育でも、各教科・科目の中で意識して育成すべきだと改めて思った。「日本語の4技能」という言葉は新鮮であり、頻繁に使うことで、教師の意識が変わっていくかもしれない。

福岡県・私立大牟田高校 荒木信一

VIEWnext 編集部からのお知らせ

本誌特集テーマとも
連動!

自校の研修・会議に使える! 対話促進スキル向上・オンライン講座のご案内

今後一層求められる対話型の研修や会議を実現するためのスキルや心構えが学べる!

主な講師・ファシリテーター



一般財団法人
地域・教育
魅力化プラットフォーム
代表理事

岩本 悠

開催日時 2021年8月2日(月)

16時00分~17時10分

形式 オンライン(ライブ配信)

※お申し込みいただいた方に、
詳しい参加方法をご案内します。

参加申し込み締め切り 2021年7月28日(水)

参加費 無料

参加申し込み
受け付け中!

詳しくは
今号24ページを
ご覧ください。

ニューコンテンツ、続々

ベネッセ教育総合研究所ウェブサイト内のコーナー VIEWn-express リリース

「VIEW n-express」では、最新の教育現場の状況や取り組み、今求められている情報、現場の教師や識者のオピニオンなどを「express = 速達」でお伝えします。

アクセスはこちら!

VIEW n-express

検索



机間巡視して気づいたことをフィードバック

誌面で紹介した授業が動画で見られる!

今号の「発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介した山梨県立青洲^{せいしゅう}高校・飯室雄大^{いひむろたけひろ}先生の英語の授業。生徒が学び合う様子のダイジェスト動画を、ぜひご覧ください。

「指導変革の軌跡」の中の
取り組みをクローズアップ!



「さくら」を贈るプロジェクト
森山直太郎 × @lorieMate

今号の「指導変革の軌跡」の中で紹介した福岡県立戸畑^{とばた}高校の『さくら』を贈るプロジェクト。同プロジェクトを通じて、教師は何を思い、生徒はどのような気づき、学びを得たのか聞きました。

ウェブで見学
学びのnext

今号の「誌上で見学 学びのnext」で紹介した宮城県・私立常盤木^{とこぎ}学園高校の「経済金融教育」について、教師の指導体制・工夫などをさらに詳しくお伝えします。

VIEWnextのLINEをご登録いただければ、

VIEWn-expressやVIEWnextの電子ブックに、ダイレクトにアクセスできます!

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!

VIEWnextや教育に関連する最新情報をタイムリーにお届けします。

友だち登録をすれば、冊子の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届きます。

*友だち登録の方法は、右の2次元コードを読み取っていただくか、LINEアプリの

「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加をお願いいたします。



次の
一歩

里見康介 先生

Saotomi Kousuke

神奈川県・私立サレジオ学院中学校・高校

教育理念を
継承するために
今を変える

本校は、サレジオ会の創立者ドン・ボスコの教えに基づき教育を行っています。困っている人に手を差し伸べよう、それができるようになるために勉学・問題解決・奉仕に励もうという価値観は、今までは、司祭とともに学校生活を送る中で、生徒にも教師にも自然と伝わっていました。しかし、司祭の数が減少しつつある今、その継承が課題となっています。

そこで進めているのが、教育理念の具体化です。育成を目指す生徒像をルーブリックで示し、その実現に向けて探究学習を体系化しました。3年前に、高校1年生

が校内の問題解決にチームで取り組む「サレジオン改革」を始め、現在は、高校2年次に導入する探究学習のカリキュラムについて、全教師で議論しています。その過程で、本校の教育理念が改めて教師間に浸透することを企図しています。

授業では、企業に勤めていた頃の話をよくします。海外で様々な職業の方と協力して働く中で感じた、価値観の異なる他者を受け入れることの大切さや、社会で必要とされる能力の多様性などについて、体験を基に話すことで、同じような生活水準や価値観の友人に囲まれて過ごす生徒が、世界の広さに目を向けるきっかけになればという思いがあり、それは本校の教育理念にも通じると考えます。

生徒が教会での炊き出しや街頭募金などに自主的に参加する姿や、グループ学習で異なる意見にも耳を傾け、互いが納得できるように話し合う姿を見て、本校での学びが浸透していると感じます。本校の教育理念を継承し続けるために、今向き合っていくべき課題に挑戦していきます。



生徒より

グループ学習や生徒主体の学校行事が多いから「サレジオン改革」では、終礼の開始時刻の厳守など、問題を自分たちで見つけ、仲間の考えを聞きながら建設的に議論し、解決策を生み出せました。その経験は、2年次の研修旅行に向けて自分でテーマを決めて取り組んだ探究学習に生きたと思います。1つの課題を追求する面白さを学んだことは、高校生活で次に取り組みきたい活動や、将来挑戦したい夢について、具体的に、目的意識を持って考えるきっかけになりました。

さとみ・こうすけ 教職歴25年。同校に赴任して11年目。総務企画室長。カテキスタ部長補佐。社会科(倫理・日本史、宗教科)。

神奈川県・私立サレジオ学院中学校・高校 全日制/普通科/男子校/1学年約180人/2021年度入試合格実績(現役のみ)国立大は、東京工業大、東京大、一橋大、横浜国立大などに72人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大などに延べ507人が合格。

お客様サービスセンター

フリーダイヤル 0120-350455 [受付時間] 月~金8:00~18:00/土8:00~17:00(祝日、年末・年始を除く)

株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17